

# とちぎ未来創造プラン：プロジェクト評価シート

総合政策部

## 〇とちぎ未来創造プラン プロジェクト評価シート 目次

| 戦略                     | プロジェクト                     | ページNo. |
|------------------------|----------------------------|--------|
| 重点戦略1<br>人材育成<br>戦略    | 1 とちぎの未来を担う人材育成プロジェクト      | 3      |
|                        | 2 笑顔輝く子ども・子育て支援プロジェクト      | 9      |
|                        | 3 スポーツ推進、歴史・文化芸術振興プロジェクト   | 15     |
| 重点戦略2<br>産業成長<br>戦略    | 1 とちぎの明日を創る産業成長プロジェクト      | 21     |
|                        | 2 活力ある農林業実現プロジェクト          | 28     |
|                        | 3 観光立県躍進プロジェクト             | 35     |
|                        | 4 国際戦略推進プロジェクト             | 39     |
| 重点戦略3<br>健康長寿・共<br>生戦略 | 1 人生100年健康いきいきプロジェクト       | 45     |
|                        | 2 生涯安心医療・介護プロジェクト          | 50     |
|                        | 3 多様な人材活躍推進プロジェクト          | 56     |
|                        | 4 誰一人取り残さない地域共生社会づくりプロジェクト | 63     |

| 戦略                   | プロジェクト                     | ページNo. |
|----------------------|----------------------------|--------|
| 重点戦略4<br>安全・安心<br>戦略 | 1 危機対応力強化プロジェクト            | 68     |
|                      | 2 県土強靱化プロジェクト              | 72     |
|                      | 3 暮らしの安全・安心向上プロジェクト        | 76     |
| 重点戦略5<br>地域・環境<br>戦略 | 1 ふるさとの魅力向上プロジェクト          | 81     |
|                      | 2 暮らしやすい「まち」づくりプロジェクト      | 85     |
|                      | 3 環境にやさしい持続可能な地域づくりプロジェクト  | 90     |
|                      | 4 未来技術を活用した新しいとちぎづくりプロジェクト | 97     |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

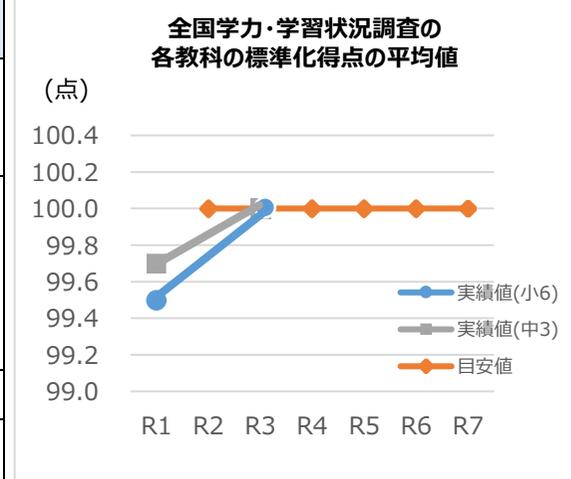
| 重点戦略 | 1 人材育成戦略  | プロジェクト    | 1 とちぎの未来を担う人材育成プロジェクト  |
|------|---|-----------|--|
| 目標   | 子どもたち一人ひとりの夢や希望の実現に向け、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「ふるさとを愛する心」を育み、地域等と連携しながら、とちぎの未来を担う人材を育成します。 | 重点的<br>取組 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 確かな学力と豊かな人間性、ふるさとを愛する心の育成</li> <li>2 一人ひとりの可能性を伸ばす教育の推進</li> <li>3 地域等との連携・協働などによる特色ある学校教育の推進</li> <li>4 新たな時代に対応した学びの推進と学校指導体制の整備</li> <li>5 デジタル化に対応した資質・能力の育成</li> </ol> |

## 1 総合評価

|  |   |
|--|---|
| <b>やや遅れ</b><br> | <p>成果指標については、「とちぎっ子学力アッププロジェクト」等の取組により、小学校、中学校ともに各教科の標準化得点の平均値が全国平均に届いたが、目安値を上回るには至らなかった。</p> <p>また、取組指標については、全国的に高い実績を残しているものも見られるが、全体的にやや伸び悩みが見られており、県立学校の全児童生徒分の教育用端末の整備や、学校における働き方改革の推進による時間外在校等時間の減少など、成果が見られる取組があるものの、総合評価はやや遅れと判断した。</p> |
|--|---|

## 2 成果指標の状況

| ①全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点※の平均値 | 基準値  | R 1                          | R 2                     | R 3  | R 4                     | R 5                     | R 6                     | 目標値                     |                         |
|-----------------------------|--|------------------------------|-------------------------|--|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
|                             |  | (2019)                       | (2020)                  | (2021)   | (2022)                  | (2023)                  | (2024)                  | (2025)                  |                         |
|                             | 目安値  | (小6)<br>国語・算数<br>99.5        | 全国平均<br>(100.0)<br>を上回る | 全国平均<br>(100.0)<br>を上回る                          | 全国平均<br>(100.0)<br>を上回る | 全国平均<br>(100.0)<br>を上回る | 全国平均<br>(100.0)<br>を上回る | 全国平均<br>(100.0)<br>を上回る | 全国平均<br>(100.0)<br>を上回る |
|                             | 実績値  | (中3)<br>国語・数学<br>・英語<br>99.7 | 実施せず                    | (小6)<br>国語・算数<br>100.0<br>(中3)<br>国語・数学<br>100.0 |                         |                         |                         |                         |                         |
| 達成見込                        | —  | —                            | C                       |  |                         |                         |                         |                         |                         |
| 要因分析等                       | ・H26年度からの「とちぎっ子学力アッププロジェクト」による県全体の継続的な取組の成果により、各教科の標準化得点の平均値が、小学校、中学校ともに全国平均（100.0）に達した。 |                              |                         |  |                         |                         |                         |                         |                         |



※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|  |   |               |               |               |               |               |                      |  |     |
|--|---|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|--|-----|
| <b>①全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思う」と答える児童生徒の割合（小6・中3）</b><br><br>出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」     | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <b>全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思う」と答える児童生徒の割合</b><br><br>(%)<br><br> |     |
|  | 目安値   | (小6)<br>83.1% | 基準値より上昇を目指す   | →             |               |               |                      |  | 100 |
|  | 実績値   | (中3)<br>78.4% | 実施せず          | (小6)<br>79.2% |               |               |                      |  |     |
|  | 達成見込  |               | —             | (中3)<br>78.9% |               |               |                      |  |     |
| 要因分析等  | ・小6の結果においては基準値より低下してしましたが、小6、中3ともに、8割弱が「自分にはよいところがあると思う」と回答しており、高い水準を維持している。新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という。）の感染防止のため、他者との関わりが減少しその影響を受けていることが考えられる。 |               |               |               |               |               |                      |  |     |
| <b>②小・中・高等学校の校内研修において、特別支援教育に関する内容を実施した学校の割合</b><br><br>出典：特別支援教育体制整備状況調査                | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <b>小・中・高等学校の校内研修において特別支援教育に関する内容を実施した学校の割合</b><br><br>(%)<br><br>  |     |
|  | 目安値   | 92.1<br>(%)   | 基準値より上昇を目指す   | →             |               |               |                      |  | 100 |
|  | 実績値   |               | 実施せず          | 90.4          |               |               |                      |  |     |
|  | 達成見込  |               | —             | C             |               |               |                      |  |     |
| 要因分析等  | ・一部の小・中学校等において、感染症の影響により開催を中止したため、基準値を下回った。   |               |               |               |               |               |                      |  |     |
| <b>③生徒一人一人が主体的に学ぶことのできるキャリア教育*を推進している高等学校の割合</b><br><br>※インターンシップ、校外学習等<br>出典：栃木県教育委員会集計 | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <b>生徒一人一人が主体的に学ぶことのできるキャリア教育を推進している高等学校の割合</b><br><br>(%)<br><br>  |     |
|  | 目安値   | 57.6<br>(%)   | 61.0          | 66.1          | 74.6          | 83.1          | 91.5                 |  | 100 |
|  | 実績値   |               | 25.4          | 43.1          |               |               |                      |  |     |
|  | 達成見込  |               | C             | C             |               |               |                      |  |     |
| 要因分析等  | ・感染症の影響により、インターンシップを中止した学校が多かったため、基準値を下回った。   |               |               |               |               |               |                      |  |     |

|  |   |               |               |               |               |               |                      |  |     |
|--|---|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|--|-----|
| <b>④地域と連携協働した学習*を実施している県立高校の数☆</b><br>※地域の課題解決・ブランド商品開発等の取組<br>出典：栃木県教育委員会集計                                       | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <b>地域と連携協働した学習を実施している県立高校の数</b><br>(校)<br>   |     |
|  | 目安値   | 37<br>(校)     | 42            | 47            | 60            | 64            | 68                   |  |     |
|  | 実績値   |               | 27            | 26            |               |               |                      |  |     |
|  | 達成見込  |               | C             | C             |               |               |                      |  |     |
| 要因分析等  | ・感染症の影響により、地域行事やイベント等が実施できず、生徒の参加が減少した状況が続いている。   |               |               |               |               |               |                      |  |     |
| <b>⑤ICT活用指導力チェックリストの「授業にICTを活用して指導する能力」に関する設問において、「できる」又は「ややできる」と回答した教員の割合</b><br>出典：文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」 | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <b>ICT活用指導力チェックリストの「授業にICTを活用して指導する能力」に関する設問において、「できる」又は「ややできる」と回答した教員の割合</b><br>(%)<br> |     |
|  | 目安値   | 72.0<br>(%)   | 前年度より上昇を目指す   | →             | 90.0          | 前年度より上昇を目指す   | →                    |  | 100 |
|  | 実績値   |               | 71.8          |               |               |               |                      |  |     |
|  | 達成見込  |               | C             |               |               |               |                      |  |     |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国順位は18位となっており、依然として高い割合を維持している。</li> <li>・ICTを活用することで得られる教育的効果を認識している教員が多い一方で、新学習指導要領の全面実施のほか、GIGAスクール構想の実現に向けた児童生徒1人1台のタブレット端末及び電子黒板等のICT機器や、指導者用及び学習者用デジタル教科書の整備等に伴う環境の変化に不安を抱える教員がおり、基準値を下回ったと考えられる。</li> </ul> |               |               |               |               |               |                      |  |     |

☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①福祉的な支援が必要な児童生徒や保護者に対する支援体制の一層の充実を図るため、中核市を除く全ての中学校区に県スクールソーシャルワーカー（SSW）を配置した。
- ②PFI方式で実施する新青少年教育施設整備運営事業について、R6年4月の開所に向け、設計業務を進めるとともに、R4年1月から造成工事を開始した。
- ③特例校及び特例対象校では、学校運営協議会での議論等を踏まえ、地域との連携・協働や地域からの支援の動きが高まり、茂木高校内に公営塾が設置されるなど、学校の特色化、魅力化が推進された。
- ④高校教育を取り巻く社会環境の急激な変化に対応するため、R3年2月に設置した「県立高校の在り方検討会議」において、今後の望ましい県立高校の在り方について検討を進め、R4年2月に同会議から提言が提出された。
- ⑤GIGAスクール構想の推進に向け、教員を対象としたICT活用研修や市町教育委員会指導主事を対象とした連携会議を開催し、各市町の教育環境に格差が生じることなく、学校教育の情報化が推進できるよう支援を行うことができた。
- ⑥県立学校に対して、全児童生徒分の教育用端末を整備するとともに、全ての普通教室等に電子黒板を設置するなど、学校教育の情報化を推進した。
- ⑦H31年1月に策定した「学校における働き方改革推進プラン（第1期）」に基づき、教員の長時間勤務の是正に向け、適正な勤務時間管理や外部人材の活用、研修による意識改革などを着実に3年間実施してきたことで、県立学校では時間外在校等時間の減少が見られ、児童生徒指導に充てる時間が確保できるようになった。

#### <関連指標>

- ・県内大学・短大への進学者割合  
〔目標値〕上昇を目指す  
〔基準値〕H30年 28.0%  
〔実績値〕R元年 28.5%  
R2年 27.3%  
R3年 27.8%
- ・県内大学生・短大生の県内就職率  
〔目標値〕R6年 50.0%  
〔基準値〕H30年 45.3%  
〔実績値〕R元年 46.3%  
R2年 44.5%  
R3年 47.2%
- ・時間外在校等時間の過労死ライン月80時間超の割合  
→R3年度は、R元年度より5.6%減少  
(R2年度は感染症対策として学校休業があったためR元年度と比較)

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組  | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |
|--|---|
| <p>1 確かな学力と豊かな人間性、ふるさとを愛する心の育成</p>                             | <p>&lt; 貧困など家庭環境等に課題を抱えた児童生徒への支援 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の「中学校区配置 S S W」のみの配置では、小・中学校における困難な事案への適切な対応や県立学校への支援を行うことが困難であり、児童生徒及び保護者へのきめ細かな支援を十分に実施できない。</li> </ul>   |
| <p>2 一人ひとりの可能性を伸ばす教育の推進</p>                                    | <p>&lt; S T E A M教育など教科等横断的な学びの推進 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A I や I o T などの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日においては、これまでの文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められている。</li> </ul>   |
| <p>3 地域等との連携・協働などによる特色ある学校教育の推進</p>                            | <p>&lt; 魅力と活力ある学校づくりの推進 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Society5.0 の到来やグローバル化の進展、今後も続く生徒数の減少など、高校教育を取り巻く社会環境の急激な変化に対応するため、魅力と活力ある学校づくりを推進する必要がある。</li> </ul> <p>&lt; 高校生をはじめとした若い世代の地域定着に向けた取組み &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動を通して、高校生と地域がつながることにより、県内各市町における若者の地域定着や県外進学後の U ターン促進を図れるよう、引き続き支援を行う必要がある。</li> </ul> <p>&lt; 高等学校における地域の担い手となる人材の育成 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、新しい時代に求められる資質・能力を育む取組をより充実させるため、地域と連携・協働しながら探究的な学びをさらに推進していく必要がある。</li> </ul> |
| <p>4 新たな時代に対応した学びの推進と学校指導体制の整備</p> <p>5 デジタル化に対応した資質・能力の育成</p> | <p>&lt; 教育の D X の推進による教育の質の向上 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会におけるデジタル技術の進展は著しく、学校においては時代の変化に対応できる教育環境の整備が求められている。これまで 1 人 1 台端末や通信環境などのハード面の整備は急速に進んだが、こうした環境下での指導体制の整備や業務効率化、学校間・教員間における I C T 活用指導力の格差、社会実装が進みつつある専門機器の実習環境未整備など、学校運営面での新たな課題が表面化してきている。</li> </ul>  |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |   |           |  |   |         |   |                |   |                                  |
|------|---|-----------|--|---|---------|---|----------------|---|----------------------------------|
| 重点戦略 | 1 人材育成戦略  | プロジェクト    | 2 笑顔輝く子ども・子育て支援プロジェクト  |   |         |   |                |   |                                  |
| 目 標  | 結婚、妊娠・出産、子育ての希望をかなえるため、家庭や保育所、学校等に加え、社会全体で子どもたちを育てる環境づくりを推進します。 | 重点的<br>取組 | <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>結婚支援の充実</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>妊娠・出産、子育て支援の充実</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>貧困や虐待などの問題からすべての子どもを守り、支援する環境づくり</td> </tr> </table> | 1 | 結婚支援の充実 | 2 | 妊娠・出産、子育て支援の充実 | 3 | 貧困や虐待などの問題からすべての子どもを守り、支援する環境づくり |
| 1    | 結婚支援の充実   |           |  |   |         |   |                |   |                                  |
| 2    | 妊娠・出産、子育て支援の充実  |           |  |   |         |   |                |   |                                  |
| 3    | 貧困や虐待などの問題からすべての子どもを守り、支援する環境づくり                                |           |  |   |         |   |                |   |                                  |

## 1 総合評価

|   |  |
|---|--|
| 概ね<br>順調<br> | <p>成果指標「婚姻率」は、新型コロナウイルス感染症の影響等により全国的にも減少しており、目安値を下回ったものの、「保育所等待機児童数」は、目安値を上回り順調である。</p> <p>取組指標は、結婚支援センターによる会員登録に向けた取組や、妊娠期から母親の状態やニーズの把握を行う体制の推進、保育所等の新設による定員枠の拡大、里親委託の推進の取組等、子どもたちを育てる環境づくりを推進した結果、概ね順調に推移していることから、総合評価は「概ね順調」と判断した。</p> |
|---|--|

## 2 成果指標の状況

|   |  |               |               |               |               |               |                      |                                 |                            |  |
|---|--|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|---------------------------------|----------------------------|--|
| <b>①婚姻率☆</b><br>(人口千人対)<br><br>出典：厚生労働省「人口動態統計」                     | 基準値<br>H30<br>(2018)   | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025)            | <b>婚姻率 (人口千人対)</b><br><br> |  |
|   | 目安値  | 4.3           | 上昇を<br>目指す    | →             |               |               |                      |                                 |                            |  |
|   | 実績値  |               | 4.5           | 3.9           | 3.8           |               |                      |                                 |                            |  |
|   | 達成見込   |               | A             | C             | C             |               |                      |                                 |                            |  |
|   | 全国順位   |               | 15位           | 22位           | 14位           |               |                      |                                 |                            |  |
| 要因分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の影響等により、全国的に減少していると考えられる。<br/>(全国：R 1年 4.8 → R 2年 4.3 → R 3年 4.1)</li> <li>※ R 3は速報値</li> </ul> |               |               |               |               |               |                      |                                 |                            |  |
| <b>②保育所等待機児童数</b><br>(10月1日時点) ☆<br><br>出典：厚生労働省「保育所<br>等利用待機児童数調査」 | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <b>保育所等待機児童数</b><br>(人)<br><br> |                            |  |
|   | 目安値  | 169           | 123           | 89            | 61            | 36            | 0                    |                                 | 0                          |  |
|   | 実績値  | (人)           | 74            | 42            |               |               |                      |                                 |                            |  |
|   | 達成見込   |               | A             | A             |               |               |                      |                                 |                            |  |
|   | 全国順位   | 17位           | 14位           |               |               |               |                      |                                 |                            |  |
| 要因分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等利用定員数の増加等により、待機児童数が減少している。</li> <li>・感染症の影響等により、申込児童数の伸びが抑制されたと考えられる。</li> </ul>               |               |               |               |               |               |                      |                                 |                            |  |

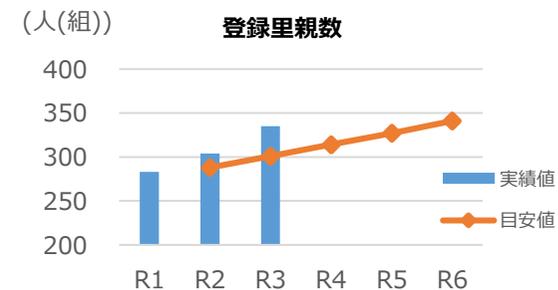
☆は、とちぎ創生15戦略(第2期)においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|  |   |               |               |               |               |               |                      |                                   |                                       |      |
|--|---|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|------|
| <b>①とちぎ結婚支援センターの会員数（累計）☆</b><br>出典：とちぎ結婚支援センター集計（1月～12月） | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | (人)<br><b>とちぎ結婚支援センターの会員数</b><br> |                                       |      |
|  | 目安値   | 3,538<br>(人)  | 4,360         | 5,190         | 6,020         | 6,850         | 7,680                |                                   | 8,510                                 |      |
|  | 実績値   |               | 4,173         | 5,041         |               |               |                      |                                   |                                       |      |
|  | 達成見込  |               | B             | A             |               |               |                      |                                   |                                       |      |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルマーケティングを活用した YouTube 広告動画配信により、入会申込みが増加した。</li> <li>・結婚支援センター（H29 年開設）による相談者に対する丁寧な対応などが利用者に評価され、安心して入会する方が増えていると考えられる。</li> </ul>  |               |               |               |               |               |                      |                                   |                                       |      |
| <b>②保育所等利用定員数（4月1日時点）</b><br>出典：厚生労働省「新子育て安心プラン実施計画」     | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | (人)<br><b>保育所等利用定員数</b><br>       |                                       |      |
|  | 目安値   | 43,951<br>(人) | 44,915        | 45,937        | 46,957        | 47,105        | 47,202               |                                   | 47,178                                |      |
|  | 実績値   |               | 44,965        | 45,692        | 46,159        |               |                      |                                   |                                       |      |
|  | 達成見込  |               | A             | A             | B             |               |                      |                                   |                                       |      |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町において利用見込み数に基づく利用定員数等を設定した計画に基づき保育所等の新設・増設等による定員枠の拡大は行っている一方、毎年の利用定員については、保育の需給状況等を踏まえ、保育所等の利用定員数を設定しており、R 4 年度については、少子化の影響による就学前児童数の減少や保育士不足の影響により目安値に達しなかったと考えられる。</li> </ul> |               |               |               |               |               |                      |                                   |                                       |      |
| <b>③妊娠・出産について満足している者の割合☆</b><br>出典：厚生労働省「子ども家庭局母子保健課調査」  | 基準値<br>H30<br>(2018)  | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025)              | (%)<br><b>妊娠・出産について満足している者の割合</b><br> |      |
|  | 目安値   | 87.6<br>(%)   | 87.0          | 88.0          | 89.0          | 90.0          | 91.0                 | 92.0                              |                                       | 93.0 |
|  | 実績値   |               | 89.2          | 88.2          |               |               |                      |                                   |                                       |      |
|  | 達成見込  |               | A             | A             |               |               |                      |                                   |                                       |      |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町や医療機関、県内企業とともに実施している「ようこそ赤ちゃん！支え愛（あい）事業」の定着等により、関係機関間の連携が促進されたため、満足している者が増加していると考えられる。</li> </ul>   |               |               |               |               |               |                      |                                   |                                       |      |

| ④登録里親数<br><br>出典：福祉行政報告例 | 基準値   | R 1    | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | 目標値    |
|--------------------------|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                          |   | R 1    | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | R 6    |
|                          |   | (2019) | (2020) | (2021) | (2022) | (2023) | (2024) |
|                          |   | (人(組)) |        |        |        |        |        |
| 目安値                      | 283   | 288    | 301    | 314    | 327    | 341    |        |
| 実績値                      |   | 304    | 335    |        |        |        |        |
| 達成見込                     |   | A      | A      |        |        |        |        |
| 要因分析等                    | <p>・ R 3 年 10 月に新たに開設した「栃木フォスタリングセンター」による普及啓発活動等の結果、里親制度に対する社会的理解が進み、里親登録者の増加が見られた。</p> |        |        |        |        |        |        |



☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①とちぎ結婚支援センターについては、デジタルマーケティングを活用した YouTube 広告動画配信や、会員登録制のマッチングシステムのオンライン化を進めている。また、マッチングシステムによる成婚組数は、センター開設以来、最多となった。
- ・動画配信による仮登録者数（R3.9～R4.3）175人（同期間全体471人の37.2%）
  - ・成婚組数：R元年度：44組 R2年度：35組 R3年度：47組
- ②R2年度は、「お相手探し」「お引き合わせ」を、R3年度は「会員登録」をオンライン化し、自宅登録からお引き合わせまで行えるようになり、お引き合わせも順調に推移した。
- ・R3年度お引き合わせ実施数 1,417組（うちオンラインお引き合わせ284組・全体の20%）
- ③ようこそ赤ちゃん！支え愛（あい）事業の円滑な実施に向けて、質問票等の活用の平準化に向けた市町・医療機関等関係者向け研修会や圏域ごとのネットワーク会議等を実施し、支援体制整備に努めた。
- ④県立学校（75校）において、性に関する専門医等派遣事業を、保健体育等の内容と関連付けて実施することにより、妊娠・出産に関する保健教育の充実を図った。
- ⑤保育所や認定こども園等の新設、増改築等の促進により利用定員の拡大を図るとともに、とちぎ保育士・保育所支援センターにおいて、各種相談や情報提供のほか、潜在保育士の再就職支援など保育人材の確保に取り組んできた結果、保育所待機児童数（R3.10.1時点）は減少した。
- ・R2年度：74人 → R3年度：42人
- ⑥多子世帯における幼児期の子育てに係る経済的負担の軽減を図るため、第3子以降保育料等免除事業について、R3年度から新たに1号認定子ども及び子ども・子育て支援新制度未移行幼稚園児の副食費を助成の対象とした。
- ⑦市町における体制強化と専門性の強化を図るため、市町虐待対応力強化支援事業を15市町で実施し、組織づくり等の助言を行った。
- ⑧里親等委託を推進するため、R3年10月に、里親制度の普及啓発や里親のリクルート、研修・トレーニング、委託後の養育支援等の一連の里親養育支援を専門的な体制で包括的に実施する「栃木フォスターリングセンター」を開設した。

#### <関連指標>

##### ・婚姻率の推移

|    | 本県         | 全国  |
|----|------------|-----|
| R1 | 4.5（全国15位） | 4.8 |
| R2 | 3.9（全国22位） | 4.3 |
| R3 | 3.8（全国14位） | 4.1 |

##### ・とちぎ結婚支援センターのマッチング数、成婚数（R4.3.31現在）

|        |        |
|--------|--------|
| お引き合わせ | 6,123組 |
| 交際     | 2,755組 |
| 成婚     | 159組   |

##### ・新生児聴覚検査公費負担実施市町数

25市町（R4.4.1現在）

##### ・子育て世代包括支援センターを設置している市町数

25市町（R4.4.1現在）

##### ・保育所等申込児童数

|       | R1     | R2     | R3     | 前年比   |
|-------|--------|--------|--------|-------|
| 4/1   | 41,521 | 42,185 | 41,591 | 98.6% |
| 10/1  | 45,157 | 45,256 | 44,972 | 99.4% |
| 年度中の増 | 3,636  | 3,071  | 3,381  | —     |

##### ・放課後児童クラブ待機児童数

68人（R3年12月時点）

##### ・子ども家庭総合支援拠点設置市町数

24市町（R4.4.1現在）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                                     | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題   |
|---|--|
| <p>1 結婚支援の充実</p>                          | <p>&lt;若い世代に向けた更なるPRの推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・婚姻率上昇に向け、いずれは結婚するつもりだが、具体的な行動をおこしていない若者に対し、まずは結婚への意識醸成や後押しを図る必要がある。</li> </ul> <p>&lt;会員利用サービスの充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚支援センターの会員登録者数を増やすため、登録からお引き合わせまでオンライン化を進めてきたが、特に若い世代の登録を増やすためには、更なる登録への誘引や、ニーズに合った利便性の高いオンライン化を行い、出会いの機会を増やす等会員利用サービスの充実を図る必要がある。</li> </ul>   |
| <p>2 妊娠・出産、子育て支援の充実</p>                   | <p>&lt;ニーズ等把握体制の強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町の母子保健事業を通じて、妊娠期から母親等の状態やニーズの把握に努めているが、県内すべての母子等の現状を確実に把握すべく、体制を強化する必要がある。</li> </ul> <p>&lt;圏域ごとの支援体制の整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問票の活用や医療機関等との連携等により、産後うつ等のリスクのある事例の早期把握が進みつつあるが、医療資源等に地域間格差があり、地域特性に応じた支援体制の整備や支援関係者の資質の向上に努める必要がある。</li> </ul> <p>&lt;産科医・小児科医確保の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年の人口当たりの産科医（15歳以上50歳未満の女性人口10万対）は全国28位、小児科医数（15歳未満の小児人口10万対）は全国24位といずれも中位に位置しており、引き続き産科医及び小児科医の確保に取り組む必要がある。</li> </ul> <p>&lt;保育サービスの充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の不足は、待機児童の解消等に大きな影響を与えることから、保育士不足への対応や保育士業務の負担軽減を図るため、引き続き保育人材確保対策に取り組む必要がある。</li> </ul> |
| <p>3 貧困や虐待などの問題からすべての子どもを守り、支援する環境づくり</p> | <p>&lt;社会的養育の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県における新たな里親登録件数はまだ十分とは言えず、里親委託率も全国平均より低い状況にあることから、引き続き里親委託の推進と支援体制の充実を図っていく必要がある。</li> <li>・家庭養育優先を原則とするためには、地域の見守り体制の更なる強化が必要であるが、市町によって差があり、全市町での体制及び専門性強化が必要である。</li> </ul>   |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

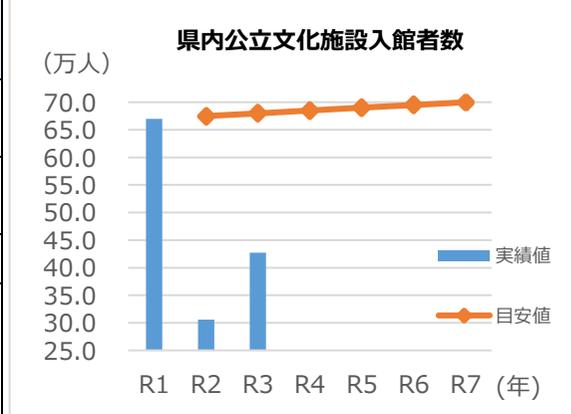
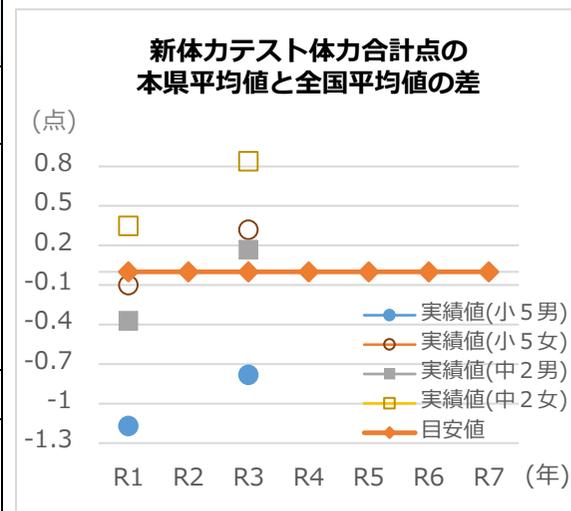
| 重点戦略 | 1 人材育成戦略  | プロジェクト    | 3 スポーツ推進、歴史・文化芸術振興プロジェクト   |   |                          |   |                          |   |                           |
|------|---|-----------|--|---|--------------------------|---|--------------------------|---|---------------------------|
| 目 標  | <p>子どもの体力向上を図るとともに、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催を契機として、すべての県民が生涯を通してスポーツを「する」、「みる」、「支える」ことができる環境づくりや、スポーツを支える人材の育成を推進します。</p> <p>また、県民の歴史・文化への理解を促進し、誰もが文化芸術に親しみ、主体的に取り組むことができる環境づくりを推進します。</p> | 重点的<br>取組 | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1328 311 1368 339">1</td> <td data-bbox="1368 311 2080 339">子どもの体力向上やスポーツによる健やかな体づくり</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1328 339 1368 368">2</td> <td data-bbox="1368 339 2080 368">いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を通じた人づくり</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1328 368 1368 397">3</td> <td data-bbox="1368 368 2080 397">とちぎの歴史や文化芸術を通じて地域を支える人づくり</td> </tr> </table> | 1 | 子どもの体力向上やスポーツによる健やかな体づくり | 2 | いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を通じた人づくり | 3 | とちぎの歴史や文化芸術を通じて地域を支える人づくり |
| 1    | 子どもの体力向上やスポーツによる健やかな体づくり  |           |  |   |                          |   |                          |   |                           |
| 2    | いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を通じた人づくり  |           |  |   |                          |   |                          |   |                           |
| 3    | とちぎの歴史や文化芸術を通じて地域を支える人づくり   |           |  |   |                          |   |                          |   |                           |

## 1 総合評価

|  |   |
|--|---|
| <p>概ね<br/>順調</p>  | <p>成果指標について、「新体力テスト体力合計点の本県平均値と全国平均値の差」は、運動習慣の定着が見られる中2男女及び小5女子で全国平均を上回った。「県内公立文化施設入館者数」は、感染症の影響による文化施設の臨時休館やイベントの一部中止等により目安値を下回るものの、感染症対策を徹底しながら事業の継続に努めたことから、前年度より改善傾向がみられた。</p> <p>取組指標について、「成人の週1日以上スポーツ活動実施率」は、感染症の影響もあり、目安値を下回った。「歴史・文化芸術に関するホームページへの年間アクセス件数」は、タイムリーな情報発信、魅力的な動画や特集ページの掲載等により、大幅に実績を伸ばすことができた。また、子供の体力向上のためのWEBサイト開設やとちまる体力アップ教室、文化財保護先駆けの遺跡である侍塚古墳の発掘調査、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催に向けた各種取組など、効果的な取組を行うことができたことから、総合評価は概ね順調と判断した。</p> |
|--|---|

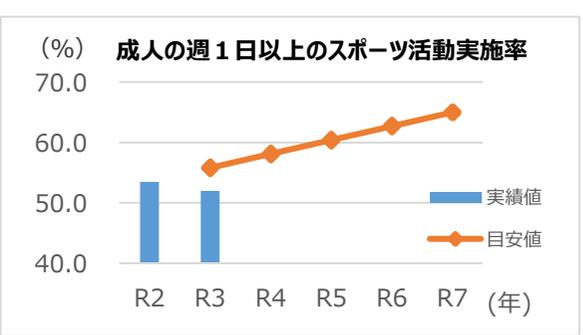
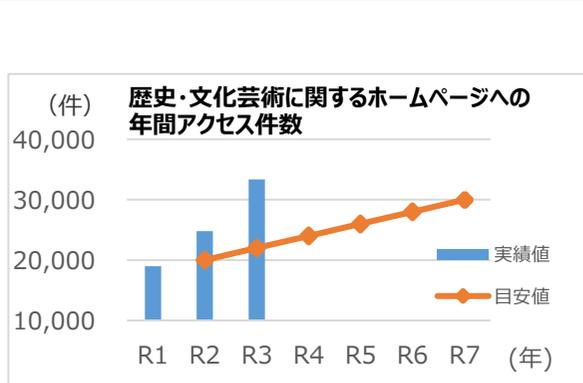
## 2 成果指標の状況

| ①新体カテスト体力合計点の本県平均値と全国平均値の差  | 基準値  | R 1  | R 2       | R 3  | R 4       | R 5       | R 6       | 目標値       |
|-----------------------------|--|--|-----------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|
|                             | (2019)   | (2020)   | (2021)    | (2022)   | (2023)    | (2024)    | (2025)    | (2025)    |
|                             | 目安値  | 全国平均値を上回る  | 全国平均値を上回る | 全国平均値を上回る  | 全国平均値を上回る | 全国平均値を上回る | 全国平均値を上回る | 全国平均値を上回る |
| 出典：スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 | 実績値  | (小5)<br>男▲1.17点<br>女▲0.10点<br>(中2)<br>男▲0.37点<br>女 0.35点 | 実施せず      | (小5)<br>男▲0.78点<br>女 0.32点<br>(中2)<br>男 0.17点<br>女 0.84点 |           |           |           |           |
|                             | 達成見込   |  | —         | B  |           |           |           |           |
| 要因分析等                       | <p>・ R 3年度は全体的に全国平均との差が縮まった。小5女子、中2男女については全く運動しない児童生徒の割合が全国平均より低く、中2男女については日常的な運動時間が確保され、運動習慣が定着している生徒が多い傾向にある。</p>          |  |           |  |           |           |           |           |
| ②県内公立文化施設入館者数               | 基準値  | R 1  | R 2       | R 3  | R 4       | R 5       | R 6       | 目標値       |
|                             | (2019)   | (2020)   | (2021)    | (2022)   | (2023)    | (2024)    | (2025)    | (2025)    |
|                             | 目安値  | 67.0   | 67.5      | 68.0   | 68.5      | 69.0      | 69.5      | 70.0      |
| 出典：県民生活部集計                  | 実績値  | (万人)   | 30.6      | 42.7   |           |           |           |           |
|                             | 達成見込   |  | C         | C  |           |           |           |           |
| 要因分析等                       | <p>・ 感染症の影響により、文化施設の臨時休館やイベントの一部中止等を余儀なくされたが、感染対策の徹底や密を避けるための人数制限等を実施するなど、可能な範囲で事業の継続に努めたことから、R 3年度の入館者数は前年度より改善傾向がみられる。</p> |  |           |  |           |           |           |           |



※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|  |   |               |               |               |               |                      |  |  |        |
|--|---|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|--|--|--------|
| <b>①成人の週1日以上<br/>のスポーツ活動実施率</b><br><br>出典：栃木県「県政世論調査」  | 基準値<br>R 2<br>(2020)  | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |  <p>(%) 成人の週1日以上スポーツ活動実施率</p> |  |        |
|  | 目安値   | 53.5          | 55.8          | 58.1          | 60.4          | 62.7                 |  | 65.0   |        |
|  | 実績値   | (%)           | 52.0          |               |               |                      |  |  |        |
|  | 達成見込  |               | C             |               |               |                      |  |  |        |
| 要因分析等  | ・ R 3年度はコロナ禍前のR 1年度（51.9%）と同程度となった。全国の実施率も低下しており、コロナ禍による運動機会の減少やスポーツ施設利用の制限によるものと推測される。 |               |               |               |               |                      |  |  |        |
| <b>②歴史・文化芸術に関するホームページ※への年間アクセス件数</b><br>※「とちぎ文化情報ナビ」、「いにしへの回廊」合計アクセス数<br><br>出典：県民文化課、文化財課調べ | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025)   |  <p>(件) 歴史・文化芸術に関するホームページへの年間アクセス件数</p> |        |
|  | 目安値   | 18,968        | 20,000        | 22,000        | 24,000        | 26,000               | 28,000   |  | 30,000 |
|  | 実績値   | (件)           | 24,749        | 33,341        |               |                      |  |  |        |
|  | 達成見込  |               | A             | A             |               |                      |  |  |        |
| 要因分析等  | ・ タイムリーな情報発信、魅力的な動画や特集ページの掲載等により、HPの内容を充実させ、アクセス件数は上昇傾向にある。<br>・ SNS等を用い、積極的にHPの周知を図った。 |               |               |               |               |                      |  |  |        |

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①子供の体力向上を図るため、WEBサイト「とちぎっ子体力雷ジグひろば」をR3年11月に開設し、5ヶ月間で22,927件のアクセスがあった。また、とちまる体力アップ教室を開催し、参加した児童や保護者から好評の声を多く得たほか、体力向上エキスパートティーチャーを10市町118校に派遣し、各校の課題に応じた体力向上の取組や運動が苦手な児童に対する指導の充実を図った。
- ②サイクルイベント「ぐるとち」の第1回大会についてはコロナ禍の影響から開催を見送ったが、通年誘客事業としてサイクルフォトラリー「ぐるとち photo&ride2021」を実施した。またR4年5月の第1回大会開催に向け参加者募集を開始した。
- ③とちぎスポーツ医科学センターについては、(独)日本スポーツ振興センター(JSC)の「ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)ネットワーク連携機関(体力測定)」の指定を受けたことにより、国や中央競技団体による取組との連携を図ることができた。
- ④栃木県障害者スポーツ選手等育成・強化基本計画(とちぎチャレンジプラン)に基づき、強化指定選手(アスリートゴールドリーダー・チーム)を指定し、強化練習会などを実施するとともに、選手確保や競技力の向上を図るため、個人競技別に県障害者スポーツ大会の代替大会を開催した。
- ⑤文化・芸術活動を通じていちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催機運を盛り上げ、魅力ある文化を県内外に発信するため文化プログラム事業の募集を行い、文化・芸術活動やスポーツイベント、地域の祭りなど多彩なプログラム280件の登録を行った。
- ⑥開催機運の醸成及び県民への更なる認知度向上を図るため、県民の日記念イベントにおける国体・障スポPRエリアの設置や両大会開催1年前及び冬季大会開催100日前記念企画「いちご一会オンラインイベント」を実施した。
- ⑦いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の運営補助、おもてなし等を担う運営ボランティアへの協力を呼びかけるとともに、おもてなしのプロである航空会社の現役キャビンアテンダントによる研修会を実施した。(登録数:運営ボランティア約2,000名)
- ⑧障スポ競技会場等において、手話や要約筆記等により必要な支援を行う「情報支援スタッフ」について、手話等の基礎を学ぶ養成講座を県内5会場で開催(各4回。延べ1,139人受講)したほか、スタッフの配置計画を策定し、全16会場において施設見学や競技のルールなどを学ぶフォローアップ研修(298人参加)を開催した。(登録数:情報支援スタッフ約560名)

#### <関連指標>

- ・R3年度新体力テスト体力合計点  
小5 男子 51.74 (全国 52.52)  
小5 女子 54.96 (全国 54.64)  
中2 男子 41.35 (全国 41.18)  
中2 女子 49.40 (全国 48.56)
- ・第77回国民体育大会順位  
(冬季大会終了時)  
天皇杯7位(前回19位)  
皇后杯12位(前回18位)
- ・文化財課フェイスブックリーチ数  
(R3:377,435件 前年比1%減)

- ⑨国体の各競技会の円滑な運営及び国体後の県民スポーツの一層の普及・振興に向け、計画的に競技役員を育成した。
- ⑩水戸光圀により日本最初の学術的発掘調査・保存が行われた、文化財保護先駆けの遺跡である侍塚古墳の発掘調査を行い、調査成果の即時公表や現地説明会をとおり、埋蔵文化財の更なる価値の向上を図った。（現地説明会：R3.12.11開催 参加者213人）
- ⑪ホームページの充実やSNS等による情報発信、県民との協働による「文化財応援団」などの取組により、「いにしへの回廊」ホームページ年間アクセスが増加するなど、本県の文化財への理解や関心が高まっている。（23,045件 前年比50%増）
- ⑫「とちぎ版文化プログラム」の最終年度であり、文化振興基金を活用した「ローカルプロジェクトモデル事業」の展開を支援することにより、地域による主体的、かつ特色を生かした文化活動を県全体で展開することができた。（R3助成団体数：4団体。5年間計42団体）
- ⑬地域の文化活動の牽引役となる「文化活動コーディネーター」養成研修を公立文化施設の職員を対象に実施した。また、同時に、県内アーティスト情報の調査を行い、コーディネーターが文化事業の企画・運営に活用できる環境を整備した。（R3研修修了者：15人）
- ⑭他分野（観光・まちづくり等）とも連携し、地域における更なる文化振興と新たな展開を図るため、市町へのアンケート調査や意見交換会を実施し、取組事例や課題の把握を行うなど、今後の事業推進に向けた基盤づくりを進めた。（R3意見交換会：3箇所）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                              | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題   |
|------------------------------------|--|
| <p>1 子どもの体力向上やスポーツによる健やかな体づくり</p>  | <p>&lt;生徒にとって望ましい地域運動部活動環境の整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国において、R5年度から休日の運動部活動を段階的に地域に移行することとしているが、地域部活動の運営団体の不足や指導者の不足、費用負担などの課題がある。さらには、部活動に対する価値観の多様化への対応が求められ、今後、各地域において、生徒にとって望ましい持続的な運動部活動環境の整備が急務である。</li> </ul>  |
| <p>2 いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を通じた人づくり</p>  | <p>&lt;スポーツの活用による地域活性化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を契機としたスポーツへの関心の高まりや総合スポーツゾーンの整備を始めとするスポーツ施設の充実など、スポーツを通じた地域活性化を行う絶好の機会にあることから、国体等のレガシーを継承し、スポーツを活用した地域活性化に向けた取組を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;いちご一会とちぎ大会のレガシーを活かした取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の社会参加促進のため、その有効な手段である障害者スポーツの裾野を拡大していくには、アスリートの発掘をはじめ、指導者やボランティアの人材養成等、障害者がスポーツに取り組める環境を構築していく必要がある。</li> <li>・「いちご一会とちぎ大会」に向けて培ってきた選手の育成・強化体制を定着させるため、全国障害者スポーツ大会に出場するための継続的な育成強化や選手、指導者、ボランティアを目指す方へのマッチングなど、大会後も引き続きその体制を維持するとともに、選手の競技力向上や競技人口の確保を図る取組が必要である。</li> <li>・「いちご一会とちぎ大会」において、手話や要約筆記等により必要な支援を行う「情報支援スタッフ」について、大会後は意思疎通支援者として共生社会の実現に向け、有効活用していく必要がある。</li> </ul> |
| <p>3 とちぎの歴史や文化芸術を通じて地域を支える人づくり</p> | <p>&lt;貴重な文化資源の保存・活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化による担い手不足に加え、今般のコロナ禍での活動制限により、地域の伝統文化の継承は厳しい状況になっており、貴重な文化資源を保存・活用することにより、次世代へ貴重な文化を伝えるとともに、地域の活性化につなげていく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;他分野連携による文化振興の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度から、他分野（観光・まちづくり等）との連携による更なる文化振興を推進しているが、現在具体的な取組が行われているのは一部の地域にとどまっている。</li> </ul>  |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

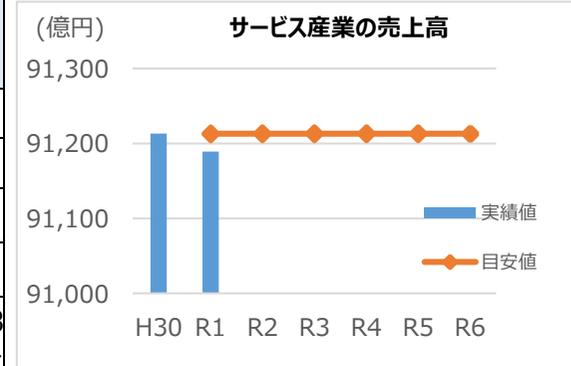
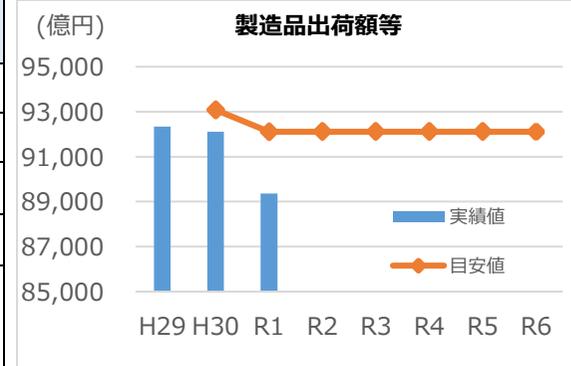
|      |  |           |  |
|------|--|-----------|--|
| 重点戦略 | 2 産業成長戦略   | プロジェクト    | 1 とちぎの明日を創る産業成長プロジェクト  |
| 目標   | 本県産業の持続的な発展に向けて、次の時代の成長を担う次世代産業の創出、サービス産業やものづくり産業の更なる振興、戦略的な企業誘致及び産業人材の育成等により、本県経済の活性化を図ります。 | 重点的<br>取組 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 次世代産業の創出・育成</li> <li>2 サービス産業等中小企業・小規模事業者の発展支援</li> <li>3 ものづくり産業の戦略的な振興</li> <li>4 企業立地・定着の促進</li> <li>5 産業人材の確保・育成</li> </ol> |

## 1 総合評価

|  |  |
|--|--|
| <b>やや遅れ</b><br> | <p>成果指標であるサービス産業の売上高は、消費税率の引上げや台風の影響などにより、H30年に比べ減少した。</p> <p>取組指標の大半は順調に進捗している一方で、感染症の影響等により、まだ成果指標への明確な効果が現れていないことから、総合評価はやや遅れと判断した。</p> |
|--|--|

## 2 成果指標の状況

| ①製造品出荷額等☆   |  | 基準値<br>H29<br>(2017) | 現状値<br>H30<br>(2018)  | R 1<br>(2019)          | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023)        | 目標値<br>R 6<br>(2024) |
|-------------|--|----------------------|-----------------------|------------------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|----------------------|
|             | 目安値  | 92,333               | 93,082                | 現状値（H30：92,111億円）を上回る* |               |               |               |                      |                      |
|             | 実績値  | (億円)                 | 92,111                | 89,664                 | 集計中           |               |               |                      |                      |
|             | 達成見込   |                      |                       | C                      |               |               |               |                      |                      |
|             | 全国順位   | 12                   | 12                    | 13                     |               |               |               |                      |                      |
| 要因分析等       | <p>・R2は経済センサス活動調査の対象であるため、国が9月以降に公表する予定。</p> <p>*新型コロナウイルス感染症の状況や影響を踏まえ目標値の見直しを行う。</p>             |                      |                       |                        |               |               |               |                      |                      |
| ②サービス産業の売上高 |  | 基準値<br>H30<br>(2018) | R 1<br>(2019)         | R 2<br>(2020)          | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | 目標値<br>R 6<br>(2024) |                      |
|             | 目安値  | 91,213               | 現状値（H30：91,213億円）を上回る |                        |               |               |               |                      |                      |
|             | 実績値  | (億円)                 | 91,189                |                        |               |               |               |                      |                      |
|             | 達成見込   |                      | C                     |                        |               |               |               |                      |                      |
|             | 全国順位   | 18                   | 18                    |                        |               |               |               |                      |                      |
| 要因分析等       | <p>・サービス産業全体の売上高は、消費税率の引上げや台風の影響などにより、2018年比で全国平均0.78%減少しており、本県においては0.03%減少した。全国順位は、18位を保っている。</p> |                      |                       |                        |               |               |               |                      |                      |

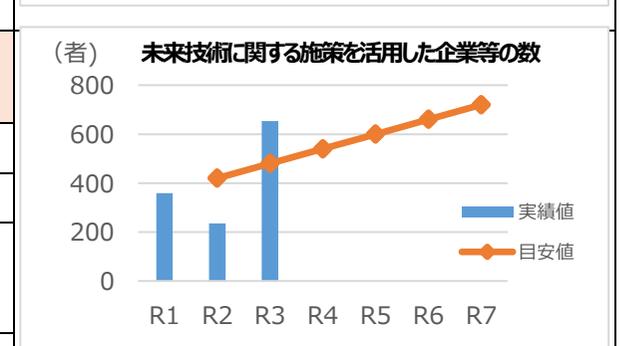
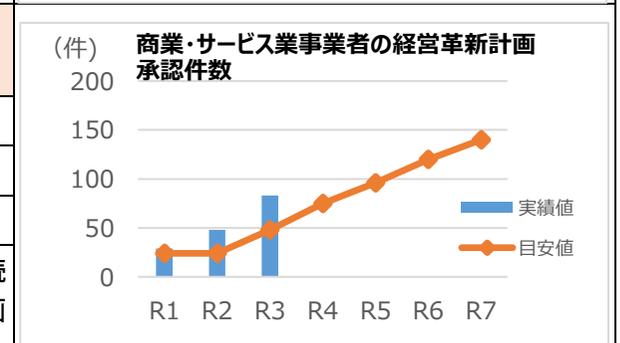
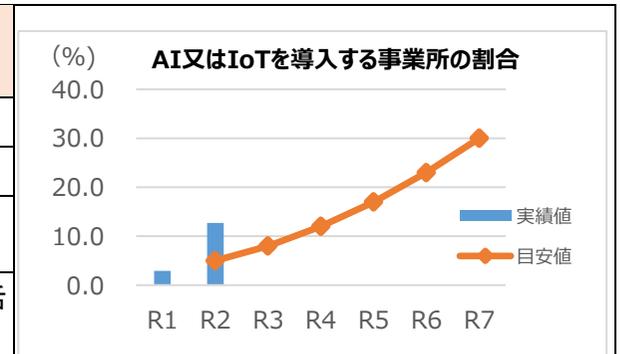


☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|  |   |                     |              |                        |                        |                        |                        |                         |
|--|---|---------------------|--------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|
| <b>① AI又はIoT※を導入する事業所の割合</b><br>※AIで手書き書類をデータ化し、業務効率化を図る取組等<br>出典：栃木県産業労働観光部集計 | 基準値<br>R1<br>(2019)   | R2<br>(2020)        | R3<br>(2021) | R4<br>(2022)           | R5<br>(2023)           | R6<br>(2024)           | 目標値<br>R7<br>(2025)    |                         |
|  | 目安値   | 2.9                 | 5.0          | 8.0                    | 12.0                   | 17.0                   | 23.0                   | 30.0                    |
|  | 実績値   | (%)                 | 12.7         |                        |                        |                        |                        |                         |
|  | 達成見込  |                     | A            |                        |                        |                        |                        |                         |
| 要因分析等  | ・主に効率化・業務改善や、顧客サービスの向上のため、IoTデバイス等を活用する機会が増えたものと推測される。                            |                     |              |                        |                        |                        |                        |                         |
| <b>② 商業・サービス業事業者の経営革新計画承認件数☆</b><br>出典：栃木県産業労働観光部集計                            | 基準値<br>H26-H30<br>(14-18)   | 現状値<br>R1<br>(2019) | R2<br>(2020) | R3<br>R2-R3<br>(20-21) | R4<br>R2-R4<br>(20-22) | R5<br>R2-R5<br>(20-23) | R6<br>R2-R6<br>(20-24) | 目標値<br>R3-R7<br>(21-25) |
|  | 目安値   | (累計)<br>110         | 24           | 24                     | 48                     | 72                     | 86                     | 120                     |
|  | 実績値   | (件)                 | 28           | 49                     | 84                     |                        |                        |                         |
|  | 達成見込  |                     | A            | A                      | A                      |                        |                        |                         |
| 要因分析等  | ・当計画を加点対象とする国の「ものづくり補助金」事業が、R2年度に引き続き実施されたこと等により、ウィズコロナ、ポストコロナを見据えた事業計画の策定が促進された。 |                     |              |                        |                        |                        |                        |                         |
| <b>③ 未来技術に関する施策※を活用した企業等の数</b><br>※IoT専門家派遣やIoT等の導入に係る補助金等<br>出典：栃木県産業労働観光部集計  | 基準値<br>R1<br>(2019)   | R2<br>(2020)        | R3<br>(2021) | R4<br>(2022)           | R5<br>(2023)           | R6<br>(2024)           | 目標値<br>R7<br>(2025)    |                         |
|  | 目安値   | 359                 | 420          | 480                    | 540                    | 600                    | 660                    | 720                     |
|  | 実績値   | (者)                 | 235          | 564                    |                        |                        |                        |                         |
|  | 達成見込  |                     | C            | A                      |                        |                        |                        |                         |
| 要因分析等  | ・感染症の影響で一部の事業を中止したものの、新規事業を実施したことなどにより、目安値を上回る実績となった。                             |                     |              |                        |                        |                        |                        |                         |



| ④食品関連企業に対する<br>専門家を活用した<br>ハンズオン支援件数 | 基準値           | R 2    | R 3               | R 4               | R 5               | R 6               | 目標値               |    |
|--------------------------------------|---------------|--------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|----|
|                                      | R 1<br>(2019) | (2020) | R 2-R3<br>(20-21) | R 2-R4<br>(20-22) | R 2-R5<br>(20-23) | R 2-R6<br>(20-24) | R 2-R7<br>(20-25) |    |
|                                      | 目安値           | 4      | 10                | 20                | 30                | 40                | 50                | 60 |
|                                      | 実績値           | (件)    | 4                 | 18                |                   |                   |                   |    |
| 達成見込                                 |               | C      | A                 |                   |                   |                   |                   |    |

出典：栃木県産業労働観光部集計

要因分析等

・ヒット商品創出支援事業など新規事業の実施により、前年から大きく増加した。目標値の達成に向けて順調である。

⑤企業立地件数☆

| ⑤企業立地件数☆ | 基準値                | 現状値               | R 2    | R 3             | R 4               | R 5               | R 6               | 目標値               |     |
|----------|--------------------|-------------------|--------|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-----|
|          | H26-H30<br>(14-18) | H27-R1<br>(15-19) | (2020) | R 2-3<br>(2021) | R 2-R4<br>(21-22) | R 2-R5<br>(21-23) | R 2-R6<br>(21-24) | R 3-R7<br>(21-25) |     |
|          | 目安値                | (累計)<br>185       | 180    | 30              | 65                | 105               | 145               | 190               | 190 |
|          | 実績値                | (件)               | 168    | 36              | 63                |                   |                   |                   |     |
| 達成見込     |                    | A                 | A      | A               |                   |                   |                   |                   |     |

出典：経済産業省「工場立地動向調査」

要因分析等

・本県の地理的優位性などの強みや企業立地・集積促進補助金等の優遇制度により、R 3年の実績値は27件（全国第11位）であり、目標値の達成に向けて順調である。

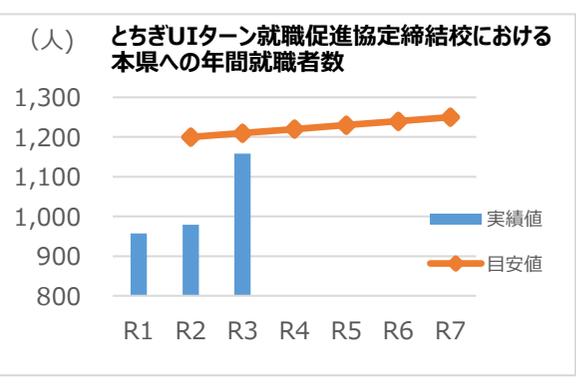
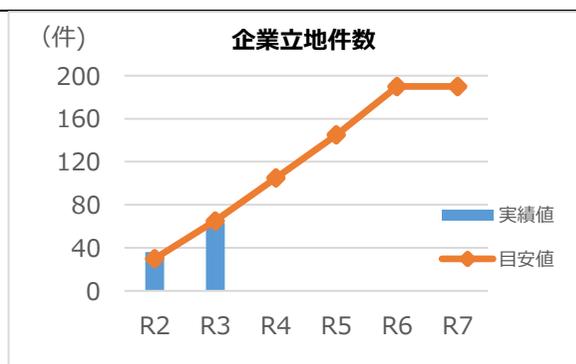
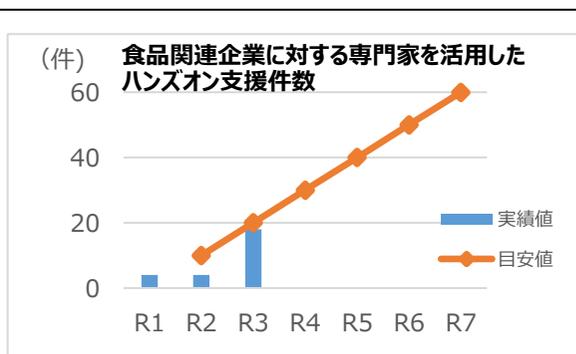
⑥とちぎUIターン就職促進協定締結校における本県への年間就職者数☆

| ⑥とちぎUIターン就職促進協定締結校における本県への年間就職者数☆ | 基準値           | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | R 6    | 目標値           |       |
|-----------------------------------|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|---------------|-------|
|                                   | R 1<br>(2019) | (2020) | (2021) | (2022) | (2023) | (2024) | R 7<br>(2025) |       |
|                                   | 目安値           | 957    | 1,200  | 1,210  | 1,220  | 1,230  | 1,240         | 1,250 |
|                                   | 実績値           | (人)    | 979    | 1,158  |        |        |               |       |
| 達成見込                              |               | C      | B      |        |        |        |               |       |

出典：栃木県産業労働観光部集計

要因分析等

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を背景に、地方での就職を希望する傾向が強まったことで、UIターンによる本県への就職者は、前年に比べ増加したものの、依然として大手企業志向の学生が多く、目標値には至らなかった。



☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①とちぎビジネスA Iセンターを設置し、県内企業のA I等の導入・利活用を促進、人材の育成を図った。
  - ・企業訪問件数 141件、ベンダマッチング件数 38件、A I・I o T等導入実績 5件
- ②とちぎSDG s推進企業登録制度を通し、SDG s推進の機運醸成、情報発信・取組促進を図った。
  - ・登録企業数：442者（目標：300者）
- ③新たな社会課題の解決に挑戦するスタートアップ企業の創出を促進するため、創業人材の育成講座を開催した。
  - ・受講生 42名
- ④サービス産業の風土改革、商品・サービスの変革、効果的なI T導入をコンサルティング支援した。
  - ・11社支援
- ⑤とちぎ未来技術フォーラムを新たに設立し、未来3技術の新技术・新製品開発や戦略3産業等への活用促進を図るとともに、脱炭素化の促進によるグリーン成長産業の振興に向けた取り組みを開始した。
  - ・とちぎ未来技術フォーラム会員数：330社（R4.4.1現在）
- ⑥国のサプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金への上乗せ助成やサテライトオフィス設置に対する助成制度の拡充など、感染症の影響を受けた企業の動きに対応した。
  - ・国補助金への上乗せ助成（県内採択）：1次公募 6社 2次公募 2社
  - ・オフィス補助金交付決定：延べ8件（R2～R3年度）
- ⑦就職促進協定締結校等へのU I Jターンに関する情報提供を行った。
  - ・校内ガイダンス：延べ39回、訪問校数：延べ248校
- ⑧U I ターン就職促進協定締結校や学生と県内企業との交流会、合同企業説明会等を実施した。
  - ・学生と企業の小規模交流会：11回・延べ49社・延べ252人
  - ・協定校と企業の交流会：2回・延べ59校・76社
  - ・U I Jターン求人企業合同説明会：2回・延べ71社・96人
- ⑨インターンシップの実施を検討する企業に対する研修会とインターンシップの参加を希望する学生のマッチングの場となるフェアを開催した。
  - ・研修会：42社、フェア：46社・115人
- ⑩県央産業技術専門校に企画広報チームを設置しP R・高校訪問の拡充により応募者・入校者が増加した。
  - ・応募者R3：116名 ⇒ R4：161名、入校者R3：100名 ⇒ R4：120名

#### <関連指標>

- ・創業支援事業計画による創業者数
  - R元：350名
  - R2：383名（目安値：425名）
- ・企業立地面積（全国順位）
  - R元：25ha（18位）
  - R2：92ha（3位）
  - R3：29ha（17位）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                                       | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |
|---|---|
| <p>1 次世代産業の創出・育成</p>                        | <p>&lt;多様なニーズや時流を捉えた女性等に魅力ある新たな雇用の創出&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県においては、男女ともに20歳代前半が大幅な転出超過となっているが、特に女性は男性と比較して20歳代の転入が少ない傾向にあり、進学・就職を機に女性の著しい転出超過が生じていると推測される。一方で、テクノロジーの進化やコロナ禍を受けた人々の行動変容等により、最新のデジタル技術等を活用した多様なビジネスが生まれているが、その多くが東京圏に集中している。</li> <li>・このため、本県の強み・特徴、課題、ビジネスにおける今後の潮流などを踏まえ、女性等に魅力ある新たな雇道を創出するため、戦略的に取組を展開していく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;経済と環境の好循環に向けた産業界との共通認識の醸成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年3月に「とちぎグリーン成長産業振興指針」を策定し、産業界と共通認識を醸成するために周知を行っているところであるが、県内企業のカーボンニュートラル実現に向けた取組の進展状況を確認するとともに、この取組状況に応じた産業界への適切な支援策を継続的に検討していくことが必要である。</li> </ul> |
| <p>2 サービス産業等中小企業・小規模事業者の発展支援</p>            | <p>&lt;女性等が活躍できるスタートアップ企業の創出・育成支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内サービス産業は、小売業、宿泊業、飲食サービス業など、付加価値の低い業種が多い。一方で、高いスキルを有しながらも、就業条件等を理由に、県内で希望する就業機会に恵まれない女性等がいる。</li> <li>・このため、サービス産業の高付加価値化に向け、社会課題を解決するとともに、サービス産業のイノベーションを促進するスタートアップ企業の創出・育成を支援する必要がある。</li> </ul>   |
| <p>3 ものづくり産業の戦略的な振興</p> <p>4 企業立地・定着の促進</p> | <p>&lt;経済安全保障を契機とした本県産業の発展&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国では、経済安全保障推進法が成立し、国民の生存や国民生活・経済活動に甚大な影響がある「重要物資の安定的な供給の確保」を図るため、特定重要物資を指定するほか、企業の生産基盤の整備、供給源の多様化、生産技術開発などに対し財政支援することとしている。</li> <li>・こうした国の動きに応じ、本県産業の成長につなげるためには、県内に関連企業の集積を図る取組等が必要である。</li> </ul>   |

|                     |   |
|---------------------|---|
| <p>5 産業人材の確保・育成</p> | <p>&lt;とちぎ職業人材カレッジの推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カレッジ開設に向け、情報発信や人材育成コースの集約などについて、若者が利用しやすいものとなるよう取組を進める必要がある。</li> </ul> <p>&lt;U I Jターン就職の促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等進学者の約7割が県外に進学することからUターン就職を進めるうえで、進学前に本県産業や企業について具体的なイメージを持ってもらうことが重要である。</li> </ul> <p>&lt;新規高卒就職者の定着促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規高卒就職者の3年以内離職率が4割程度と高い状況にあることから、就職にあたり、ミスマッチを防ぐ必要がある。</li> </ul> |
|---------------------|---|

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

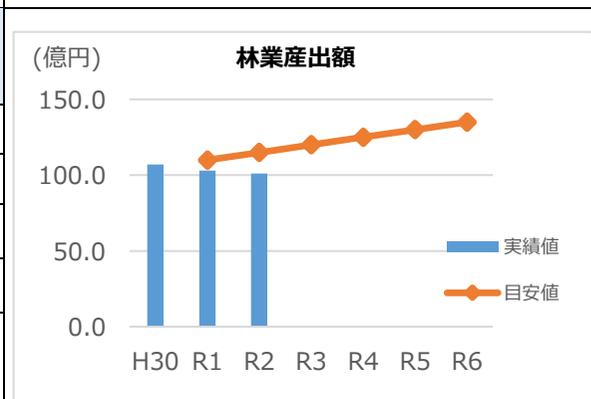
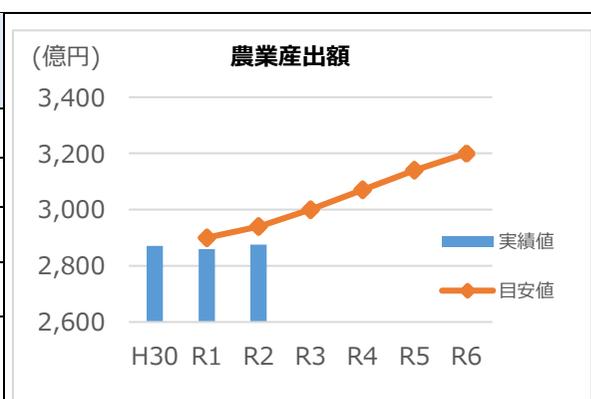
|      |   |           |  |
|------|---|-----------|--|
| 重点戦略 | 2 産業成長戦略  | プロジェクト    | 2 活力ある農林業実現プロジェクト  |
| 目標   | 未来技術の導入により生産性の向上を図り、若者や女性等が担い手として活躍できる環境づくりを推進するとともに、収益性の高い経営体の育成や安定的な供給体制の構築等により、農林業の成長産業化を図ります。 | 重点的<br>取組 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 次代の農林業を拓く担い手の確保・育成</li> <li>2 成長産業として持続的に発展する農業の確立</li> <li>3 未来技術の活用等による林業・木材産業の進化・成長</li> </ol> |

## 1 総合評価

|  |  |
|--|--|
| <p><b>やや遅れ</b></p>  | <p>取組指標の「青年新規就農者数」は、オンライン就農相談の強化などにより、コロナ禍以前の人数まで回復（自営就農25人増、雇用就農19人増）するとともに、「新規林業就業者数」は、昨年度比12人増となり、2年連続で目安値を達成した。また、「10ha規模以上の露地野菜産地数」は、水田を活用した産地づくりが進み、前年（R2）から増加し、28産地となった。</p> <p>一方、成果指標である「農業産出額」は、天候不順の影響等でいちごの生産量が減少したことなどにより2,875億円（全国9位）、「林業産出額」は、101億円（全国12位）と目安値を下回ったことから、総合評価はやや遅れと判断した。</p> |
|--|--|

## 2 成果指標の状況

| ①農業産出額☆ |  | 基準値<br>H30<br>(2018) | R1<br>(2019) | R2<br>(2020) | R3<br>(2021) | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | 目標値<br>R6<br>(2024) |
|---------|--|----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|
|         | 目安値  | 2,871                | 2,900        | 2,940        | 3,000        | 3,070        | 3,140        | 3,200               |
|         | 実績値  | (億円)                 | 2,859        | 2,875        |              |              |              |                     |
|         | 達成見込   |                      | C            | C            |              |              |              |                     |
|         | 全国順位   | 9                    | 9            | 9            |              |              |              |                     |
| 要因分析等   | <p>・畜産部門で増加（R1 1,156億円→R2 1,225億円）したものの、天候不順の影響により、いちごの産出額が減少したことなどから、前年から横ばいで推移している。</p>  |                      |              |              |              |              |              |                     |
| ②林業産出額☆ |  | 基準値<br>H30<br>(2018) | R1<br>(2019) | R2<br>(2020) | R3<br>(2021) | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | 目標値<br>R6<br>(2024) |
|         | 目安値  | 107.1                | 110          | 115          | 120          | 125          | 130          | 135                 |
|         | 実績値  | (億円)                 | 103          | 101          |              |              |              |                     |
|         | 達成見込   |                      | C            | C            |              |              |              |                     |
|         | 全国順位   | 12                   | 13           | 12           |              |              |              |                     |
| 要因分析等   | <p>・木材生産は、コロナ禍による新設住宅需要の減少と連動して、製材用素材等の生産量が減少した。（R1 62.9→R2 58.7）</p> <p>・栽培きのこと類生産については、コロナ禍の巣ごもり需要の影響を受け増加した。（R1 39.3→R2 42.3）</p> |                      |              |              |              |              |              |                     |



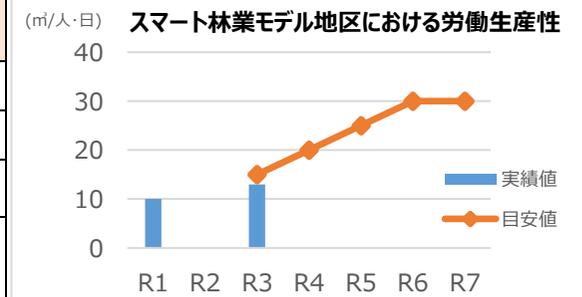
☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|                                      |  |               |                          |                          |                          |                          |                         |                         |
|--------------------------------------|--|---------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| ①青年新規就農者数☆<br><br>出典：栃木県農政部集計        | 基準値<br>H27-R<br>1<br>(15-19)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>R 2-R3<br>(20-21) | R 4<br>R 2-R4<br>(20-22) | R 5<br>R 2-R5<br>(20-23) | R 6<br>R 2-R6<br>(20-24) | 目標値<br>R3-R7<br>(21-25) | <p>青年新規就農者数</p>         |
|                                      | 目安値<br>(累計)<br>1,287<br>(人)  | 300           | 605                      | 915                      | 1,235                    | 1,565                    | 1,600                   |                         |
|                                      | 実績値  | 228           | 445                      | 704                      |                          |                          |                         |                         |
|                                      | 達成見込   |               |                          | B                        | B                        |                          |                         |                         |
| 要因分析等                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン就農相談の強化などにより、コロナ禍以前の数まで回復（自営就農25人増、雇用就農19人増）した。</li> </ul>                        |               |                          |                          |                          |                          |                         |                         |
| ②新規林業就業者数☆<br><br>出典：栃木県環境森林部集計      | 基準値<br>H27-R<br>1<br>(15-19)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>R 2-R3<br>(20-21) | R 4<br>R 2-R4<br>(20-22) | R 5<br>R 2-R5<br>(20-23) | R 6<br>R 2-R6<br>(20-24) | 目標値<br>R3-R7<br>(21-25) | <p>新規林業就業者数</p>         |
|                                      | 目安値<br>(累計)<br>245<br>(人)  | 45            | 98                       | 151                      | 204                      | 258                      | 260                     |                         |
|                                      | 実績値  | 45            | 102                      |                          |                          |                          |                         |                         |
|                                      | 達成見込   |               | A                        | A                        |                          |                          |                         |                         |
| 要因分析等                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「林ナビとちぎ」による林業就業PR等の着実な取組により、目安値を達成した。</li> <li>・事業体の採用枠が増えたことから、新規就業者が増加した。</li> </ul> |               |                          |                          |                          |                          |                         |                         |
| ③10ha規模以上の露地野菜産地数<br><br>出典：栃木県農政部集計 | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021)            | R 4<br>(2022)            | R 5<br>(2023)            | R 6<br>(2024)            | 目標値<br>R 7<br>(2025)    | <p>10ha規模以上の露地野菜産地数</p> |
|                                      | 目安値<br>22<br>(産地)  | 26            | 30                       | 34                       | 38                       | 42                       | 46                      |                         |
|                                      | 実績値  | 24            | 28                       |                          |                          |                          |                         |                         |
|                                      | 達成見込   |               | B                        | B                        |                          |                          |                         |                         |
| 要因分析等                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田を活用し、ねぎ、たまねぎ、さつまいもなどの産地化が進んだ。</li> </ul>   |               |                          |                          |                          |                          |                         |                         |

| ④スマート林業モデル<br>地区における労働生<br>産性※ | 基準値  | R 1                   | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | R 6    | 目標値    |
|--------------------------------|--|-----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                                |  | R 1                   | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | R 6    | R 7    |
|                                |  | (2019)                | (2020) | (2021) | (2022) | (2023) | (2024) | (2025) |
|                                |  | (m <sup>3</sup> /人・日) |        |        |        |        |        |        |
| 目安値                            | 10   | —                     | 15     | 20     | 25     | 30     | 30     |        |
| 実績値                            | (m <sup>3</sup> /人・日)  | —                     | 13     |        |        |        |        |        |
| 達成見込                           |  | —                     | B      |        |        |        |        |        |
| 出典：栃木県環境森林部集計                  |  |                       |        |        |        |        |        |        |
| 要因分析等                          | ・木材生産のためには作業道作設から伐採、造材、搬出といった工程があるが、R3においては上記工程で活用できるスマート林業技術が限られたため、目安値を下回った。 |                       |        |        |        |        |        |        |



☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

|       |              |                    |              |                      |
|-------|--------------|--------------------|--------------|----------------------|
| ※達成見込 | A：達成見込が80%以上 | B：達成見込が50%以上～80%未満 | C：達成見込が50%未満 | —：実績がない等のため評価ができないもの |
|-------|--------------|--------------------|--------------|----------------------|

#### 4 主な取組成果

- ①水田を活用した土地利用型園芸の推進については、園芸メガ産地を1産地、露地野菜のモデル産地を6産地育成（H30～R3計：34産地）したほか、県内全体で、水田における露地野菜の新規作付面積が約205haと前年の1.4倍に拡大した。
- ②R4年産の新品種「とちあいか」の栽培面積は、52.2haと前年の2.7倍に拡大し、R5年産は約100haまで拡大する見込みである。また、ハウスの規模拡大や施設園芸スーパーコーチの派遣などの支援を行った結果、販売額1億円以上の経営体数は25から28に増加した。
- ③牛肉については、主要な輸出先である米国やシンガポールの経済活動の回復や、とちぎ食肉センターの働きかけによる新たな輸出事業者のEUへの輸出開始などにより輸出額が増加した（R2：1.18億円→R3：3.18億円）。梨については、東南アジア等の経済活動の回復や継続的かつコロナ禍での効果的なプロモーションを実施したことにより需要が拡大したことに加え、出荷規格を拡大するなどの産地の取組により供給量が確保できたため輸出額が増加した（R2：0.09億円→R3：0.30億円）。
- ④和牛繁殖農家に対して遺伝能力の高い繁殖雌牛の導入を支援したことにより、矢板家畜市場における子牛の上場頭数が増加（R2：8,097頭→R3：8,488頭）するとともに、とちぎ和牛の生産頭数が増加した（R2：3,850頭→R3：3,911頭）。
- ⑤オンライン就農相談の強化などにより、新規就農者数は平成以降最高（370人、前年比115%）となった。特に、女性（94人、前年比124%）や雇用就農（144人、前年比112%）が大きく増加した。
- ⑥林業就業情報の提供や就業相談等の実施により、新規就業者はR3年度57人（前年比+12人、うち女性5人）を確保した。
- ⑦デジタルとリアルを融合させた非接触での接客に対応したアバターシステムを活用した消費者向けPRの実施等により、「いちご王国・栃木」の認知度は過去最高（県内97%、関東圏69.9%）となった。また、「いちご王国」パートナーとの連携を強化した（R2：1,757者→R3：1,804者）。
- ⑧航空レーザ計測により高精度な森林情報を得て、林業の基盤を整備した。また、林業現場に未来技術を導入・検証するとともに、研修会等を開催し技術の普及を図った。（航空レーザ計測（約40,000ha）、未来技術導入・検証（8種類）、研修会（5回）、需給情報データベース化（75社））

#### <関連指標>

- ・園芸産出額  
928億円（R元）→887億円（R2）
- ・販売額1億円以上の先進的園芸経営体数  
25経営体（R2）→28経営体（R3）
- ・いちご生産者1戸当たりの販売額  
1,439万円（R元）→1,278万円（R2）
- ・とちあいかの栽培面積  
19.3ha（R3年産）→52.2ha（R4年産）
- ・県産農産物輸出額  
3.1億円（R2）→5.3億円（R3）
- ・畜産産出額  
1,156億円（R元）→1,225億円（R2）
- ・製材品出荷量（国産材）  
28.1万m<sup>3</sup>（R2）→28.8万m<sup>3</sup>（R3）
- ・いちご王国とちぎの認知度（関東圏）  
29.2%（R2）→69.9%（R3）
- ・スマート林業モデル地区における労働生産性  
10m<sup>3</sup>/人・日（R元）→13m<sup>3</sup>/人・日（R3）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                         | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |
|-------------------------------|---|
| <p>1 次代の農林業を拓く担い手の確保・育成</p>   | <p>&lt;農業で働く人材の確保・育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農に必要な情報を一元発信するウェブサイトやオーダーメイド型支援等の実施により、多様な人材の確保・育成を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;林業人材の確保・育成の促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒者や転職希望者を対象とした林業への就業PRや、就業相談等の機能の強化、新規就業者の育成・定着に必要な労働環境の改善が必要である。</li> </ul>  |
| <p>2 成長産業として持続的に発展する農業の確立</p> | <p>&lt;情勢変化に対応した競争力の高い農業の展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシアのウクライナ侵攻等により、燃油や肥料等の農業資材の価格、物流コスト等が急激に上昇しており、また、本県の販売農家の84%が作付けしている米についても、消費の減少やコロナ禍による外食産業等の低迷等により価格が大幅に下落するなど、農家は大きな打撃を受けており、農業経営の体質強化が急務となっている。</li> <li>・一方、外国産農産物の価格が上昇し、国産農産物の安定供給に対する期待が高まっているほか、環境負荷軽減に対する取組や際立った特性などの情報に基づく商品選択を行う購買行動が増加しており、これらの期待や需要の変化に的確に対応していく必要がある。</li> <li>・このような状況の変化を踏まえ、生産や流通の効率化やニーズの変化を的確に捉え特色ある農産物を供給するなど、農業を巡る情勢の変化に適応した競争力の高い農業を展開していく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;園芸大国とちぎづくりのフル加速&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産いちごの生産拡大を図るため、収量が高く品質の安定している「とちあいか」の作付面積の拡大や省力化を通じた個々の農業者の規模拡大、更には需要の見込める輸出などを進めていく必要がある。</li> <li>・露地野菜については県内各地で産地づくりが進んできているものの、更なる生産拡大に向け、販路の拡大、収穫・出荷調整時の労力不足などの課題に対応していく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;『いちご王国・栃木』のPR強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いちご王国・栃木」の認知度は向上してきており、今後は県民や県外からの来県者等に対し「いちご王国」の魅力の更なる理解促進を図り、実際の購買やいちごを通じた体験観光等へ行動変容を促す必要がある。</li> </ul> |

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| <p>3 未来技術の活用等による林業・木材産業の進化・成長</p> | <p>&lt;未来技術の普及・実装に向けた取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来技術の導入・検証に併せ、効果が見込まれる技術から順次実装していけるよう、実装に係る導入リスク・イニシャルコストに対する支援、各種補助制度の歩掛等見直し等が求められている。</li> </ul> <p>&lt;東京圏等への販路拡大に向けた取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林環境譲与税や国の木材利用促進法の改正等を契機とした木造・木質化への取組が拡大している都市部において、高品質なとちぎ材製品の新たな市場を開拓するために流通の確立が求められている。</li> </ul> <p>&lt;早生樹種の導入&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材の利用率向上・林業の採算性向上を図るには、森林資源のフル活用が重要である。特に、エネルギー利用においては間伐等由来の未利用木材のみならず、早生樹種の導入が求められている。</li> </ul> |
|-----------------------------------|--|

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |  |        |   |
|------|--|--------|---|
| 重点戦略 | 2 産業成長戦略   | プロジェクト | 3 観光立県躍進プロジェクト  |
| 目標   | 優れた歴史遺産や豊かな自然等の観光資源、東京圏との近接性等の強みを生かした、魅力ある観光地づくりや観光誘客を推進します。 | 重点的取組  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 選ばれる観光地づくりの推進</li> <li>2 観光客受入態勢の整備</li> <li>3 国内観光客の誘客強化</li> </ol> |

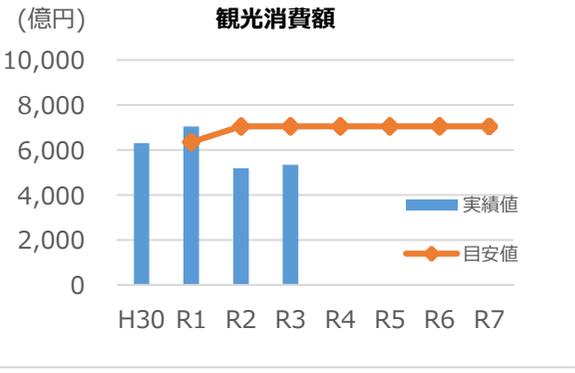
## 1 総合評価

|  |  |
|--|--|
| <b>やや遅れ</b><br> | <p>観光需要喚起に向けた県民一家族一旅行推進事業の実施や新しい生活様式に対応した旅行商品造成等の積極的な取組により、成果指標「観光消費額」は前年を約3%上回り、関連指標「観光客入込数」や「宿泊数」についても前年を上回った。</p> <p>一方で、感染症拡大前の実績値である基準値には至らなかったため、総合評価はやや遅れと判断した。</p> |
|--|--|

## 2 成果指標の状況

| ①観光消費額☆ |   | 基準値<br>H30<br>(2018) | 現状値<br>R1<br>(2019) | R2<br>(2020)         | R3<br>(2021) | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024) | 目標値<br>R7<br>(2024) |
|---------|---|----------------------|---------------------|----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|
|         | 目安値   | 6,297                | 6,530               | 現状値（R1：7,054億円）を上回る* |              |              |              |              |                     |
| 実績値     | (億円)  | 7,054                | 5,182               | 5,351                |              |              |              |              |                     |
| 達成見込    |   |                      | A                   | C                    | C            |              |              |              |                     |
| 要因分析等   | <p>・観光目的、ビジネス目的での観光入込数ともに前年を上回ったことなどから、観光消費額は前年から増加したが、感染症拡大前の実績値である基準値を下回った。</p> <p>*新型コロナウイルス感染症の状況や影響を踏まえ目標値の見直しを行う。</p> |                      |                     |                      |              |              |              |              |                     |

出典：観光庁「共通基準による観光入込客統計」



観光消費額

(億円)

10,000  
8,000  
6,000  
4,000  
2,000  
0

H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7

■ 実績値  
◆ 目安値

☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|  |  |              |                    |              |              |              |                     |                                  |  |
|--|--|--------------|--------------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|----------------------------------|--|
| <b>①県内のDMO※の形成数(累計)</b><br>※DMO(観光地域づくり法人)<br>出典: 栃木県産業労働観光部集計   | 基準値<br>R1<br>(2019)  | R2<br>(2020) | R3<br>(2021)       | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024) | 目標値<br>R7<br>(2025) | <b>県内のDMOの形成数</b><br>(件)<br>     |  |
|  | 目安値  | 3            | 3                  | 4            | 5            | 6            | 7                   |                                  |  |
|  | 実績値  | 3            | 3                  |              |              |              |                     |                                  |  |
|  | 達成見込   |              | A                  | B            |              |              |                     |                                  |  |
| 要因分析等  | ・R元年度から「観光地域づくり法人(登録DMO)」に3団体が継続して登録されているほか、「観光地域づくり候補法人(候補DMO)」に5団体が登録されており、「登録DMO」は今後も増加が見込まれる。        |              |                    |              |              |              |                     |                                  |  |
| <b>②宿泊客の総合満足度※</b><br>※自然景観、宿泊施設等の項目ごとに-2~2点で評価<br>出典: 栃木県観光動態調査 | 基準値<br>R1<br>(2019)  | R2<br>(2020) | R3<br>(2021)       | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024) | 目標値<br>R7<br>(2025) | <b>宿泊客の総合満足度</b><br>             |  |
|  | 目安値  | 1.18         | 1.18               | 1.20         | 1.22         | 1.24         | 1.27                |                                  |  |
|  | 実績値  | 1.33         | 1.39               |              |              |              |                     |                                  |  |
|  | 達成見込   |              | A                  | A            |              |              |                     |                                  |  |
| 要因分析等  | ・感染症防止対策の取組や周遊促進の支援等により「体験活動」や「観光施設」、「現地での観光情報・案内」等に関する満足度が増加し、目安値を上回った。                                 |              |                    |              |              |              |                     |                                  |  |
| <b>③県公式観光ホームページの閲覧数</b><br>出典: 栃木県産業労働観光部集計                      | 基準値<br>R1<br>(2019)  | R2<br>(2020) | R3<br>(2021)       | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024) | 目標値<br>R7<br>(2025) | <b>県公式ホームページの閲覧数</b><br>(万回)<br> |  |
|  | 目安値  | 703          | 現状値(R1: 703万回)を上回る |              |              |              |                     |                                  |  |
|  | 実績値  | (万回)         | 716                | 564          |              |              |                     |                                  |  |
|  | 達成見込   |              | A                  | C            |              |              |                     |                                  |  |
| 要因分析等  | ・R2年度は需要喚起策で観光情報のニーズが高まり閲覧が伸びたが、R3年度は予定されていたG・O・T・Oトラベルが実施されなかったことや、県民一家族一旅行の実施が短期間であったことなどにより、閲覧数は減少した。 |              |                    |              |              |              |                     |                                  |  |

※達成見込 A: 達成見込が80%以上 B: 達成見込が50%以上~80%未満 C: 達成見込が50%未満 - : 実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①観光公式サイト「とちぎ旅ネット」内に周遊プラン自動作成機能やチャットボットの導入をするとともに、観光情報発信のためのSNSの立ち上げやウェブプロモーション等を展開した。
- ・デジタル人材を活用したInstagramによる国内向け情報発信：29件
  - ・[Winter] Tochigi Japan in 8K-日光・那須/栃木  
※広告配信期間の再生回数 約220万回（目標値143万回）
  - ・「本物の出会いと栃木」チャンネル登録累計数：5,030件（R4.6.1現在）
- ②感染症の影響により落ち込んだ観光需要の回復を図るため、各種取組を展開した。
- ・県民一家族一旅行推進事業：約15万人泊（R3年度：(県民)10/16～12/31、(隣県拡大)1/5～2/1）
  - ・「まるごととちぎいただきます」事業 まる栃割キャンペーン総売上高：約800万円
- ③感染症に関し、需要回復、感染防止対策のための事業者支援を行った。
- ・安全安心な教育旅行推進事業：貸切バス1,439台（60,000円/バス1台を上限に助成）
  - ・宿泊事業者感染症対策支援補助金：211宿泊事業者 ・三密回避旅行商品造成促進事業：8件
- ④関西圏における県の認知度向上を図るとともに、消費者ニーズ等を把握し、今後の特産品の販売拡大や効果的な観光PRにつなげるため、「お試し関西アンテナショップ」を実施した。
- ・お試し関西アンテナショップ売上高  
（貸店舗活用14日間：約280万円、いちご王国連携2日間：約50万円）
- ⑤ワーケーションの一層の推進を図るため、「栃木スマートワーケーション」（手軽に、賢く、効率的に）をコンセプトに動画・HP制作やWi-Fi整備に対する助成等を実施した。
- ・利用環境整備補助金（Wi-Fi整備等）：29事業者（R2、R3）
  - ・受入環境整備助成事業費補助金（ワークスペースの改修等）：4事業者（R3）
- ⑥観光地における渋滞対策として、日光地域においては臨時駐車場の開設（計約400台）及びLED表示板による臨時駐車場への迂回路案内を実施し、那須地域においては那須ロープウェイ付近等で路上駐車対策を実施した。
- ⑦日光国立公園（那須・塩原エリア）にEバイクを合計26台導入。3箇所に利用拠点を設置し、セルフガイドツアーシステムを構築した。

#### <関連指標>

|          |         |             |
|----------|---------|-------------|
| ・観光客宿泊数  |         |             |
| H30（現状値） | 827万人   |             |
| R元       | 826万人   |             |
| R2       | 507万人   |             |
| R3       | 507万人   |             |
|          |         | （前年比100.1%） |
| R6（目標値）  | 888万人   |             |
| ・観光客入込数  |         |             |
| H30      | 9,544万人 |             |
| R元       | 9,228万人 |             |
| R2       | 6,117万人 |             |
| R3       | 6,414万人 |             |
|          |         | （前年比104.9%） |

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                  | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題   |
|------------------------|--|
| <p>1 選ばれる観光地づくりの推進</p> | <p>&lt;「地域DMO」の形成促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度までに、県内4地域（足利、佐野、那須塩原、益子）の団体が地域候補DMOに登録されるなど、各地でDMO登録に向けた動きがあり、地域が主体となって進める観光地づくりを支援していく必要がある。</li> </ul>   |
| <p>2 観光客受入態勢の整備</p>    | <p>&lt;観光地の渋滞対策におけるデジタル技術の活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日光地域においては、毎年のGWや秋の行楽シーズンにおいて、二社一寺周辺地域及び奥日光地域を中心に激しい交通渋滞が発生している。</li> <li>・二社一寺周辺地域においては臨時駐車場の設置や迂回路案内、SNSによる情報発信等といった対策を実施し一定の効果が確認されている。しかし、各対策については人力によるものが多く、また、リアルタイムの情報を効率的に観光客へ提供する上で課題がある。</li> <li>・奥日光（中禅寺湖周辺）地域においては、明智平～二荒橋間の一方通行化を実施し、一定の効果が確認されている。一方で、特定の駐車場に利用者が集中することによる入庫待ちや、駐車場の不適正利用が渋滞の原因となっており、対策を進める必要がある。</li> </ul> <p>&lt;観光客受入態勢整備に向けたデジタル化の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光情報の入手ツールとしてGoogleマップが主流となっている中、県内の観光施設等のGoogleマップへの登録状況は低調であり、観光誘客の機会損失が発生している。</li> </ul> |
| <p>3 国内観光客の誘客強化</p>    | <p>&lt;ワーケーションなど「新しい生活様式」への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな日常の実現に向け、「新しい生活様式」にも対応した新たな宿泊モデルであるワーケーションを推進していく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;アフターコロナの誘客促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の影響により落ち込んだ本県観光需要の回復を図る必要がある。また、本年度は「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」が開催されることから、大会をきっかけとした観光誘客促進に向けた取組が必要である。</li> </ul>   |

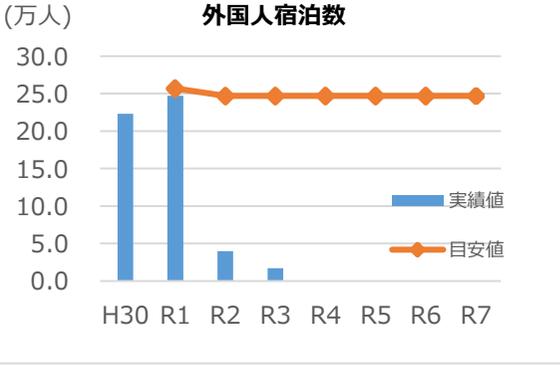
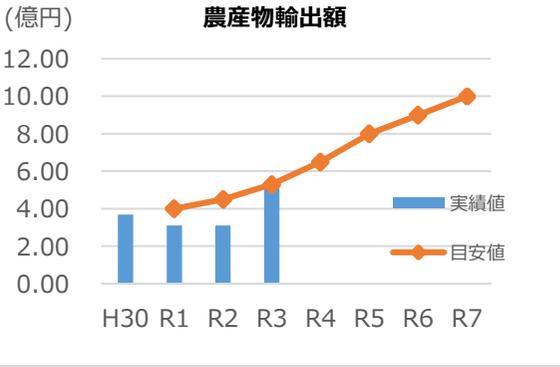
# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |   |           |   |   |             |   |             |   |            |   |                |
|------|---|-----------|---|---|-------------|---|-------------|---|------------|---|----------------|
| 重点戦略 | 2 産業成長戦略  | プロジェクト    | 4 国際戦略推進プロジェクト  |   |             |   |             |   |            |   |                |
| 目標   | 外国人観光客の誘客強化や県内企業の海外展開への支援、栃木県の強みである観光地や県産品・県産農産物等の魅力・実力を生かした海外市場への展開により、県内産業の発展や地域活性化を図ります。 | 重点的<br>取組 | <table border="1"> <tr><td>1</td><td>外国人観光客の誘客強化</td></tr> <tr><td>2</td><td>県内企業の海外展開支援</td></tr> <tr><td>3</td><td>国際交流・協力の促進</td></tr> <tr><td>4</td><td>県産品・県産農産物の輸出促進</td></tr> </table> | 1 | 外国人観光客の誘客強化 | 2 | 県内企業の海外展開支援 | 3 | 国際交流・協力の促進 | 4 | 県産品・県産農産物の輸出促進 |
| 1    | 外国人観光客の誘客強化   |           |   |   |             |   |             |   |            |   |                |
| 2    | 県内企業の海外展開支援   |           |   |   |             |   |             |   |            |   |                |
| 3    | 国際交流・協力の促進  |           |   |   |             |   |             |   |            |   |                |
| 4    | 県産品・県産農産物の輸出促進  |           |   |   |             |   |             |   |            |   |                |

## 1 総合評価

|  |  |
|--|--|
| <p><b>やや遅れ</b></p>  | <p>成果指標「外国人宿泊数」は、感染症の影響により、目安値を下回ったものの、「農産物輸出額」は、米国や東南アジア等の経済活動が回復傾向となり外食需要も回復するなどしたことにより目安値を上回った。</p> <p>取組指標「海外取引（輸出又は輸入）を行う県内企業数」については、酒類輸出企業が増加するなどした結果、順調に推移しているが、「県公式観光ホームページの多言語サイト閲覧数」及び「国際理解に関する講座の開催件数」は感染症拡大に伴う入国制限等により基準値を下回っていることから、総合評価は「やや遅れ」と判断した。</p> |
|--|--|

## 2 成果指標の状況

| ①外国人宿泊数☆   |   | 基準値<br>H30<br>(2018) | 現状値<br>R1<br>(2019) | R2<br>(2020)        | R3<br>(2021) | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024) | 目標値<br>R7<br>(2025) |
|--|---|----------------------|---------------------|---------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|
|  | 目安値   | 22.3                 | 25.7                | 現状値(R1:24.7万人)を上回る* |              |              |              |              |                     |
|  | 実績値<br>(万人)   |                      | 24.7                | 4.0                 | 1.7          |              |              |              |                     |
|  | 達成見込  |                      | B                   | C                   | C            |              |              |              |                     |
| 出典：栃木県「栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査」  |   |                      |                     |                     |              |              |              |              |                     |
| 要因分析等  | <p>・感染症の影響により、R3年は年間を通して観光目的の外国人については入国できなかったことから、前年より更に減少した。</p> <p>*新型コロナウイルス感染症の状況や影響を踏まえ目標値の見直しを行う。</p> |                      |                     |                     |              |              |              |              |                     |
|   |   |                      |                     |                     |              |              |              |              |                     |
| ②農産物輸出額☆   |   | 基準値<br>H30<br>(2018) | 現状値<br>R1<br>(2019) | R2<br>(2020)        | R3<br>(2021) | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024) | 目標値<br>R7<br>(2025) |
|  | 目安値   | 3.69                 | 4.0                 | 4.5                 | 5.3          | 6.5          | 8.0          | 9.0          | 10.0                |
|  | 実績値<br>(億円)   |                      | 3.1                 | 3.1                 | 5.3          |              |              |              |                     |
|  | 達成見込  |                      | C                   | C                   | A            |              |              |              |                     |
| 出典：栃木県農政部集計  |   |                      |                     |                     |              |              |              |              |                     |
| 要因分析等  | <p>・米国や東南アジア等で、新型コロナにより停滞していた経済活動が回復基調となり、外食需要も回復してきたことから、牛肉及び梨を中心に輸出額が過去最高となった。</p>                        |                      |                     |                     |              |              |              |              |                     |
|  |   |                      |                     |                     |              |              |              |              |                     |

☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|   |  |                            |               |               |               |               |                      |                                     |     |
|---|--|----------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|-------------------------------------|-----|
| ①県公式観光ホームページの多言語サイト閲覧数<br><br>出典：栃木県産業労働観光部集計 | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020)              | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <p>県公式ホームページの多言語サイト閲覧数<br/>(万回)</p> |     |
|   | 目安値  | 現状値 (R 1 : 28.0 万回) を上回る * |               |               |               |               |                      |                                     |     |
|   | 実績値  | 28.0<br>(万回)               | 13.6          | 12.3          |               |               |                      |                                     |     |
|   | 達成見込   |                            | C             | C             |               |               |                      |                                     |     |
| 要因分析等   | <p>・感染症の影響により、年間を通して観光目的の入国が制限され、旅行前・旅行中の情報収集ページとしての利用がわずかであったことから、国外からのアクセスを中心に閲覧数が減少した。</p> <p>* 新型コロナウイルス感染症の状況や影響を踏まえ目標値の見直しを行う。</p>             |                            |               |               |               |               |                      |                                     |     |
| ②海外取引（輸出又は輸入）を行う県内企業数<br><br>出典：栃木県「国際経済交流調査」 | 基準値<br>H30<br>(2018)   | R 1<br>(2019)              | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | 目標値<br>R 6<br>(2024) | <p>海外取引(輸出又は輸入)を行う県内企業数<br/>(社)</p> |     |
|   | 目安値  | 275                        | 290           | 298           | 307           | 316           | 325                  |                                     |     |
|   | 実績値  | 282<br>(社)                 | 284           | 300           |               |               |                      |                                     |     |
|   | 達成見込   |                            | A             | A             |               |               |                      |                                     |     |
| 要因分析等   | <p>・前年度より輸出額は減少（対前年度比 85%）したが、酒類輸出企業が増加した飲料等製造業（同 133.3%）や食料品製造業（対前年度比 121.1%）の輸出関連企業数が増加した。</p>   |                            |               |               |               |               |                      |                                     |     |
| ③国際理解に関する講座の開催件数<br><br>出典：栃木県産業労働観光部集計       | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020)              | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <p>国際理解に関する講座の開催件数<br/>(件)</p>      |     |
|   | 目安値  | 78                         | 85            | 93            | 101           | 109           | 117                  |                                     | 125 |
|   | 実績値  | 78<br>(件)                  | 20            | 35            |               |               |                      |                                     |     |
|   | 達成見込   |                            | C             | C             |               |               |                      |                                     |     |
| 要因分析等   | <p>・（公財）栃木県国際交流協会主催講座の開催件数は J I C A 元協力隊員の派遣増により前年度より増加（14→26）した。一方、県主催講座の開催件数は R 2 年度より増加（6→9）したものの、講師となる県国際交流員の来日の遅れ等により R 1 年度に比べ大幅な減少が続いている。</p> |                            |               |               |               |               |                      |                                     |     |

※達成見込 A：達成見込が 80%以上 B：達成見込が 50%以上～80%未満 C：達成見込が 50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

## 4 主な取組成果

- ①デジタルマーケティング手法に基づき動画を制作・配信し、食をテーマとした動画が全国コンテストで最優秀賞獲得という成果も得られたことにより、海外での認知度・ブランドイメージ向上が図られた。
  - ・動画総再生回数：約1,210万回（目標値300万回）
  - ・ランディングページ誘導数（広告クリック数）：約18万回（目標値6万回）
- ②海外との往来が難しい中、日本に支店を持つ旅行会社や国内在住の海外インフルエンサーの招請、オンラインによる現地説明会の開催など、工夫して誘客プロモーションを実施した。
  - ・海外インフルエンサー等 計4名招請（動画投稿 計6本、記事投稿 計23本）
  - ・日本支店等を持つ旅行会社 計8名招請 ・オンライン説明会等 計99名参加
- ③浙江省（中国）とは、定期協議及び県内企業向け経済セミナーをオンライン開催した。高雄市（台湾）とは、観光PR動画の相互発信等を通じて理解を深めた。インディアナ州（米国）のパデュー大学とは、学術的な国際協力を発展させるための同意書の期間延長を行った。
- ④とちぎ型大使館外交として、タイ・ベトナムをはじめとした駐日大使館等を5件訪問するとともに、ベトナム首相一行を含む5件を受入れ、農産物や観光地、投資環境等の本県の魅力・実力をPRした。
- ⑤現地バイヤー等との対面での商談が難しい中、オンライン商談会を開催するなど、新たな手法を活用し県内企業の海外販路開拓を支援した。
  - ・食品輸出オンライン商談会参加企業数：17社
  - ・国内輸出商社との食品輸出商談会参加企業数：8社
  - ・補助金を活用したECサイト出店企業数：2社
- ⑥農産物の販路開拓・拡大については、次のとおり取り組み、輸出額が増加した。
  - ・牛肉については、主要な輸出先である米国やシンガポールの経済活動の回復や、新たな輸出事業者のEUへの輸出開始などにより輸出額が増加した。R2：1.18億円→R3：3.18億円
  - ・梨については、東南アジア等の経済活動の回復や継続的かつコロナ禍での効果的なプロモーションを実施したことにより需要が拡大したことに加え、出荷規格を拡大するなどの産地の取組により供給量が確保できたため輸出額が増加した。R2：0.09億円→R3：0.30億円
  - ・いちごについては、新品種「とちあいか」の輸出が開始したほか、生産者と輸出事業者の直接取引が拡大するなど東南アジアや米国への輸出が堅調となり、輸出額が増加した。R2：0.1億円→R3：0.19億円

## <関連指標>

- ・外国人宿泊者数全国順位  
R元：32位 R2：31位 R3：25位  
（出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」）
- ・県内本社の食料品製造業における海外取引を行う企業数、輸出額  
H30：12社/54,870万円  
R元：15社/57,330万円  
R2：17社/69,893万円
- ・日本酒の輸出数量（H26年→R元年）  
（全国）16,118kl→24,557kl  
（県）682kl→434kl  
※県が減少している要因：韓国向け輸出の減  
※主要2社（H30：808kl→R元：35kl）
- ・R3年度県産農産物輸出実績及びR7年度目標  
牛肉：3.18億円（270%）  
花き：0.88億円（118%）  
コメ：0.71億円（72%）  
なし：0.30億円（346%）  
いちご：0.19億円（190%）  
その他：0.06億円（R7目標）  
金額：5.3億円（172%）→10億円  
※（ ）：前年度比

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                                    | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題   |
|--|--|
| <p>1 外国人観光客の誘客強化</p>                     | <p>&lt;ウィズ・アフターコロナにおけるインバウンド誘客策の新たな展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光目的の入国が段階的に再開されることに伴い、早期にV字回復を目指していく必要があるが、コロナ禍を経てインバウンド市場を取り巻く環境が大きく変化し、ポストコロナを見据えて、市場のニーズ等を踏まえた新たな手法を取り入れるなどの対応が求められる。</li> <li>・コロナ禍で生じた各国の旅行トレンドやニーズの変化を的確に把握し、リアルとデジタルを効果的に組み合わせたプロモーション等を現地で継続的に実施する必要がある。また、他県や他国との誘客競争が激化する中、団体及び個人旅行者ともに本県を目的地として選択してもらうための後押しとなる即効性のある施策を展開していく必要がある。</li> </ul>  |
| <p>2 県内企業の海外展開支援</p> <p>3 国際交流・協力の促進</p> | <p>&lt;とちぎ型大使館外交から経済交流への展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外への渡航が制限されている中において、R3年度より取組を開始したとちぎ型大使館外交の実績及び成果を一過性のものとする事のないよう、経済交流にも繋がる施策を展開していくことが重要である。</li> </ul> <p>&lt;新たな交流事業の検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外展開に取り組む企業や人手不足が深刻な産業等もあることから、地域経済の活性化に繋がるような交流の検討が必要である。</li> </ul> <p>&lt;社会経済情勢の変化に対応した海外展開支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウクライナ情勢や円安の進行等により、原油・原材料価格の高騰などの県内経済への影響の長期化が懸念され、先行きが不透明な中、海外進出や輸出に取り組む県内企業を支援する必要がある。</li> </ul> |
| <p>4 県産品・県産農産物の輸出促進</p>                  | <p>&lt;県産品の輸出促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外取引を行う企業は増加し、県内本社の食料品製造業では企業数、輸出額ともに増加傾向にあるが、加工食品においては、品目により輸出の条件が異なることから、海外展開に向け個別の支援が必要となる。その中でも、日本酒においては、世界的な和食ブームを背景に全国の輸出数量はH26から5年間で約5割増加しているものの、県内酒造会社ではノウハウ不足等の理由により、約3割が未だに輸出に取り組めておらず、他県との差別化も発信できていない。このため、専門家によるマーケティング等も活用しながら、輸出促進に向けて、各段階に応じた取組を進める必要がある。</li> </ul>   |

|                         |   |
|-------------------------|---|
| <p>4 県産品・県産農産物の輸出促進</p> | <p>＜新たな国・地域への県産農産物の販路開拓・拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ R 4 年 2 月に輸入規制が緩和された台湾は、日本産食品の輸出額が第 4 位であり県産農産物の輸出先としても有望であるが、H23 年 4 月以降、本県産農産物の商流は途絶えていることから、物流や販路を開拓していく必要がある。</li><li>・ EU は、人口が約 5 億人と多く、輸出拡大の余地は大きいですが、日本産食品の輸出額は台湾に次ぐ第 5 位にとどまっている。本県産農産物については、これまで牛肉を中心に輸出してきたが、今後は、海外バイヤーからの取扱要望がある青果物や、市場規模が拡大傾向のグルテンフリー食品である米粉などの販路開拓が期待できる。</li></ul> |
|-------------------------|---|

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |   |           |  |
|------|---|-----------|--|
| 重点戦略 | <b>3 健康長寿・共生戦略</b>  | プロジェクト    | <b>1 人生100年健康いきいきプロジェクト</b>  |
| 目 標  | すべての県民が若い頃から運動習慣を日常的に取り入れるなど、健康的な生活習慣を実践できる環境づくりや疾病の予防・早期発見等を推進します。 | 重点的<br>取組 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 いつまでも元気に暮らせるからだところの健康づくりの推進</li> <li>2 疾病の予防・早期発見の推進</li> </ol> |

## 1 総合評価

|   |   |
|---|---|
| <b>概ね<br/>順調</b><br> | <p>成果指標「健康長寿高齢者の割合」は目安値を維持し、「三大死因」による死者数は目安値を上回って減少している。</p> <p>また、健康長寿とちぎづくり県民会議の会員拡充による県民運動の裾野の広がり等により、取組指標「とちぎ健康経営事業所認定数」は目安値を大きく上回り、「特定健康診査実施率」も着実に向上している。一方でR2年においては、各種の健（検）診受診率など、生活習慣病の早期発見・早期治療に係る取組実績が、新型コロナウイルス感染症による受診控え等の影響により減少傾向となることが見込まれる状況なども勘案し、総合評価は「概ね順調」と判断した。</p> |
|---|---|

## 2 成果指標の状況

|  |   |               |               |               |               |               |                      |                                       |
|--|---|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|---------------------------------------|
| <b>①健康長寿高齢者の割合*</b><br>※65歳以上人口のうち要介護2未満の割合<br>出典：栃木県保健福祉部集計 | 基準値<br>H30<br>(2018)  | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | 目標値<br>R 6<br>(2024) | <b>健康長寿高齢者の割合</b><br>(%)<br>          |
|  | 目安値   | 91.4          | 91.4          | 91.4          | 91.4          | 91.4          | 91.4                 |                                       |
|  | 実績値   | (%)           | 91.4          | 91.4          |               |               |                      |                                       |
|  | 達成見込  |               | A             | A             |               |               |                      |                                       |
| 要因分析等  | 全国順位 6 6 6<br>・健康的な生活習慣を实践できる環境づくりや疾病の予防・早期発見等の取組により、目安値を維持している（全国6位）。                |               |               |               |               |               |                      |                                       |
| <b>②三大死因（がん・心疾患・脳卒中）による死者数（人口10万人対）</b><br>出典：栃木県保健福祉部集計     | 基準値<br>H30<br>(2018)  | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | 目標値<br>R 6<br>(2024) | <b>三大死因による死者数（人口10万人対）</b><br>(人)<br> |
|  | 目安値   | 208.1         | 204.5         | 200.9         | 197.3         | 193.7         | 190.1                |                                       |
|  | 実績値   | (人)           | 204.8         | 195.0         |               |               |                      |                                       |
|  | 達成見込  |               | A             | A             |               |               |                      |                                       |
| 要因分析等  | 全国順位 45 45 43<br>・がん、心疾患、脳卒中の死者数（人口10万人対）は、それぞれ前年値より減少しており、3疾患合わせた値も目安値を下回り着実に減少している。 |               |               |               |               |               |                      |                                       |

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|   |   |                      |               |               |               |                      |                      |                  |  |
|---|---|----------------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|----------------------|------------------|--|
| ①とちぎ健康経営事業<br>所認定数<br><br>出典：栃木県保健福祉部集<br>計         | 基準値<br>R 2<br>(2020)  | R 3<br>(2021)        | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <p>とちぎ健康経営認定事業所数</p> |                  |  |
|   | 目安値   | 200                  | 300           | 350           | 400           | 450                  |                      |                  |  |
|   | 実績値   | 165<br>(事業所)         | 420           |               |               |                      |                      |                  |  |
|   | 達成見込  |                      | A             |               |               |                      |                      |                  |  |
| 要因分析等   | <p>・事業所による働く世代の健康づくりの促進を図るため、県・協会けんぽ栃木支部・健保連栃木連合会の3者が連携して取組を推進しており、引き続き認定数が堅調に推移していくことが見込まれる。</p> |                      |               |               |               |                      |                      |                  |  |
| ②特定健康診査実施率<br>☆<br><br>出典：厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況」 | 基準値<br>H29<br>(2017)  | 現状値<br>H30<br>(2018) | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022)        | 目標値<br>R 5<br>(2023) | <p>特定健康診査実施率</p> |  |
|   | 目安値   | 53.5                 | 55.6          | 58.9          | 62.4          | 66.2                 | 70.0                 |                  |  |
|   | 実績値   | 51.4<br>(%)          | 53.4          | 54.2          |               |                      |                      |                  |  |
|   | 達成見込  |                      | A             | B             |               |                      |                      |                  |  |
| 要因分析等   | <p>・市町や医療保険者等と連携し、受診勧奨の啓発等を実施しており、目安値は下回ったものの、着実に向上している。</p>                                      |                      |               |               |               |                      |                      |                  |  |

☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①従業員等の健康管理に積極的に取り組む事業所をとちぎ健康経営事業所として認定するとともに、事業所における優れた健康経営の取組を「健康長寿とちぎづくり表彰（健康経営部門）」として表彰することで事業所等における健康経営の促進を図り、働く世代の健康づくりを推進した。
- ・とちぎ健康経営事業所認定件数：255 事業所（合計 420 事業所）
  - ・健康長寿とちぎづくり表彰（健康経営部門）：最優秀賞 1、優秀賞 3、入選 8
- ②ICTを活用した特定保健指導モデル事業の実施により、保険者等のICT導入を促進するとともに、市町等を対象としたデータヘルス分析評価研修の実施により、担当者のデータに基づく効果的・効率的な保健事業を実施するための知識や技術の習得を支援するなど、健康的な生活習慣の確保に向けた社会環境づくりを推進した。
- ・特定保健指導モデル事業：5 保険者等参加、30 件
  - ・データヘルス分析評価研修：受講者延べ 46 人
- ③自殺対策について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により不安や悩み、ストレスがある方に対して、LINEを使用したSNS相談「こころの相談@とちぎ」の相談時間を拡充した。
- ・15 時～23 時 → 11 時～23 時（R 3. 12. 20～）
- ④栃木県脳卒中啓発プロジェクトにおいて、初期症状や早期受診の啓発を行うことにより、適切な受療行動の促進を図った。脳卒中発症後 3 時間以内に受診した患者の割合は増加傾向である。
- ・脳卒中発症後 3 時間以内に受診した患者の割合：（H30）35.7%→（R元）37.7%→（R 2）37.5%
- ⑤企業等と連携し、糖尿病重症化予防プログラムの周知を行うほか、保健指導従事者を対象とした専門家派遣事業や保健指導者スキルアップ研修等の実施により、医療保険者による取組を支援した。医療保険者によるプログラムに基づく取組実績は、情報提供は対象者の 9 割以上に実施しているが、感染症による影響で、受診勧奨及び保健指導の実施率は減少した。
- |       | 情報提供  | 受診勧奨  | 保健指導  |
|-------|-------|-------|-------|
| （H30） | 95.3% | 96.1% | 10.6% |
| （R元）  | 99.1% | 91.5% | 15.0% |
| （R 2） | 98.5% | 73.7% | 8.7%  |
- ⑥国保データベースシステム（KDB）データ分析事業の実施により、各市町のデータヘルス計画の推進及び次期データヘルス計画策定並びに生活習慣病予防対策や医療費適正化等の推進の一助となることを目的として、KDBや公的調査統計データ等を活用し、栃木県及び県内 25 市町に係る健康課題等について分析を行い、市町に情報提供した。

#### <関連指標>

- ・健康寿命
  - 男性：R元 72.62（25 位）  
（H28 72.12（19 位））
  - 女性：R元 76.36（7 位）  
（H28 75.73（6 位））
- ・平均寿命（H27）
  - 男性：80.10 年、女性：86.24 年
- ・平均寿命と健康寿命の伸び幅の比較
  - 男性：平均寿命 +1.04 年  
（H22→ H27）  
健康寿命 +1.39→+1.89 年  
（H22→ H28→ R元）
  - 女性：平均寿命 +0.58 年  
（H22→ H27）  
健康寿命 +0.87→+1.50 年  
（H22→ H28→ R元）
- ・市町別健康寿命の格差
  - 男性：H22:3.16 年  
H28:2.54 年（-0.62 年）  
→R元:3.82 年（+0.66 年）
  - 女性：H22:2.87 年  
H28:2.22 年（-0.65 年）  
→R元:4.06 年（+1.19 年）
- ・脳卒中の初発・再発の割合
  - 初発：
    - H22:65.6%→H26:68.8%→
    - H30:69.4%→R 2 : 69.8%
  - 再発：
    - H22:23.3%→H26:24.5%→
    - H30:22.3%→R 2 : 23.3%
- （目標値：再発者の割合 20%以下（R 5 年度））
- ・高齢化率 R元:28.6%（全国 28.4%）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                                 | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |
|---------------------------------------|---|
| <p>1 いつまでも元気に暮らせるからだとこころの健康づくりの推進</p> | <p>&lt;健康づくりの推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とちぎ健康 21 プラン（2期計画）の中間評価（H29）の結果、働く世代の生活習慣に関する指標に改善の遅れや悪化が多く見られたことから、特に働く世代に対する取組が必要である。</li> <li>・人生 100 年フレイル予防プロジェクトについては、県民の理解促進に加え、市町の高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に向けた取組促進や取組格差縮小のための支援として、基盤整備や連携体制の構築、人材育成等を実施しているが、感染症の影響もあり、市町における活用に遅れが見られ、活用を促す取組が必要である。</li> </ul> <p>（参考）改善の遅れや悪化が見られた指標（目標値／実績値）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総コレステロール 240mg/dl 以上（男 4.9%以下／13.0%、女 10.2%以下／19.6%）<br/>うち 20～59 歳実績値：男 17.5%、女 20.6%</li> <li>・野菜摂取量の平均値（350 g 以上／276.1 g）<br/>うち 20～59 歳実績値：254.5 g</li> <li>・20～64 歳の運動習慣者（男 41%以上／15.3%、女 32%以上／12.5%）<br/>65 歳以上も含んだ実績値：男 24.6%、女 23.3%</li> </ul> <p style="text-align: center;">等</p> <p>&lt;依存症対策の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R 2 年度に県立岡本台病院をアルコール及び薬物の依存症専門医療機関に選定したが、今後は他の医療機関の選定、対象をキャンセル等に拡大するなど、専門医療機関を拡充していく必要がある。</li> </ul> |
| <p>2 疾病の予防・早期発見の推進</p>                | <p>&lt;生活習慣病の発症予防及び重症化予防の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3大死因による死者数は減少傾向にあるが、特に、脳卒中や心血管疾患等の循環器病については、再発リスクが高い疾患であるため、再発を防ぎ、重症化や合併症を予防する取組が必要である。</li> <li>・歯及び口腔の健康が、脳卒中、心血管疾患、糖尿病等の生活習慣病やフレイル予防等につながるため、定期的に歯科健診を受けること等の啓発を行っているが、市町が実施する歯周病健診の受診率は5～6%台と低いことや、糖尿病重症化予防プログラムに基づく受診勧奨及び保健指導実施率が低下していることから、受診の重要性に係る効果的な啓発手法等、市町の取組を支援する必要がある。</li> <li>・大動脈瘤及び解離等の特に緊急を要する患者に対して行われる治療の多くは、三次救急医療機関で実施しているが、定時手術中などにより受け入れが困難な場合は、県外へ搬送している事例も発生しており、心血管疾患に係る急性期医療ネットワークの強化が必要である。</li> </ul>  |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |   |           |   |
|------|---|-----------|---|
| 重点戦略 | <b>3 健康長寿・共生戦略</b>  | プロジェクト    | <b>2 生涯安心医療・介護プロジェクト</b>  |
| 目 標  | 感染症等の発生にも備えながら、住み慣れた地域に生涯にわたって安心して暮らすことができるよう、地域の実情に応じた医療提供体制等の充実を図ります。 | 重点的<br>取組 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染症等の発生にも備えた地域医療提供体制の整備・充実</li> <li>2 がんや生活習慣病等の治療が必要な方に対するライフステージ等に応じたきめ細かな支援</li> <li>3 地域包括ケアシステムの推進</li> </ol> |

## 1 総合評価

|   |   |
|---|---|
| <b>概ね<br/>順調</b><br> | <p>成果指標「医療施設従事医師数」、取組指標「看護職員再就業支援研修受講者数」、「訪問看護事業所の訪問看護職員数」のいずれも、目安値を上回っている。また、取組指標「がん患者支援事業を行う市町数」については、県が補助制度を創設したことにより、新たに支援を開始する市町や支援項目を拡大する市町が出てきている。しかし、成果指標「介護職員数」及び取組指標「介護予防につながる通いの場への高齢者の参加率」が新型コロナウイルス感染症の影響により目安値を下回っていることから、総合評価は「概ね順調」と判断した。</p> |
|---|---|

## 2 成果指標の状況

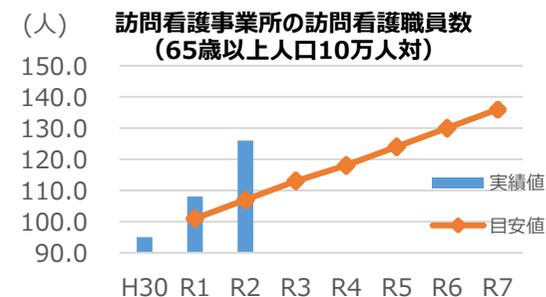
|  |  |               |               |               |               |               |                      |  |       |
|--|--|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|--|-------|
| <b>①医療施設従事医師数<br/>(人口10万人対)</b><br><br>出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」   | 基準値<br>H30<br>(2018)                                       | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | 目標値<br>R 6<br>(2024) | (位) <b>医療施設従事医師数 (人口10万人対)</b><br><br>         |       |
|  | 目安値  | 34 位          | —             | 33            | —             | 32            | —                    |  | 31    |
|  | 実績値  | (226.1 人)     | —             | (236.9 人)     | —             | —             | —                    |  | —     |
|  | 達成見込   |               | —             | A             | —             | —             | —                    |  | —     |
|  | 全国順位   | 34            | —             | 32            | —             | —             | —                    |  | —     |
| 要因分析等  | ・医師数の増加は地域枠（臨時定員）設置、勤務環境改善支援等の取組によるものと推察されるが、全国順位は下位にとどまる。 |               |               |               |               |               |                      |  |       |
| <b>②介護職員数（要介護<br/>（要支援）認定者1<br/>万人対）</b><br><br>出典：<br>①厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」に基づく提供資料<br>②厚生労働省「第7期介護保険事業計画」に基づく介護人材の必要数 | 基準値<br>H30<br>(2018)                                       | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | 目標値<br>R 6<br>(2024) | (人) <b>介護職員数<br/>（要介護（要支援）認定者1万人対）</b><br><br> |       |
|  | 目安値  | 2,901         | 2,985         | 3,083         | 3,119         | 3,145         | 3,173                |  | 3,201 |
|  | 実績値  | (人)           | 3,065         | 2,947         | —             | —             | —                    |  | —     |
|  | 達成見込   |               | A             | C             | —             | —             | —                    |  | —     |
|  | 全国順位   | 35            | 29            | 40            | —             | —             | —                    |  | —     |
| 要因分析等  | ・感染症の影響により、介護サービス需要の減少に伴い介護職員の雇用も減少したものと考えられる。             |               |               |               |               |               |                      |  |       |

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|   |   |                      |               |               |               |               |                      |                                   |   |     |
|---|---|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|-----------------------------------|---|-----|
| ①看護職員再就業支援<br>研修受講者数<br><br>出典：栃木県保健福祉部集計   | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020)        | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | (人)<br><b>看護職員再就業支援研修受講者数</b><br> |   |     |
|   | 目安値   | 343<br>(人)           | 360           | 376           | 392           | 408           | 424                  |                                   | 440   |     |
|   | 実績値   |                      | 240           | 390           |               |               |                      |                                   |   |     |
|   | 達成見込  |                      | C             | A             |               |               |                      |                                   |   |     |
| 要因分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、動画配信など研修方法を工夫することにより、受講者を確保した。</li> </ul>  |                      |               |               |               |               |                      |                                   |   |     |
| ②がん患者支援事業を<br>行う市町数<br><br>出典：栃木県保健福祉部集計  | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020)        | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | (市町)<br><b>がん患者支援事業を行う市町数</b><br> |   |     |
|   | 目安値   | 6<br>(市町)            | 10            | 13            | 16            | 19            | 22                   |                                   | 25  |     |
|   | 実績値   |                      | 10            | 11            |               |               |                      |                                   |   |     |
|   | 達成見込  |                      | A             | B             |               |               |                      |                                   |   |     |
| 要因分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、がん患者支援への意識が高まっており、R 3年7月に市町への補助制度を創設したことにより、新たに支援を開始する市町や支援項目を拡大する市町が出てきた。</li> <li>・R 4には、新たに8市町ががん患者支援を開始し、県内19市町で実施となっている。</li> </ul> |                      |               |               |               |               |                      |                                   |   |     |
| ③介護予防につながる<br>通いの場への高齢者<br>の参加率☆<br><br>出典：介護予防・日常生活支援<br>総合事業(地域支援事業)<br>の実施状況に関する調査 | 基準値<br>H30<br>(2018)  | 現状値<br>R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025)              | (%)<br><b>介護予防につながる通いの場への<br/>高齢者の参加率</b><br> |     |
|   | 目安値   | 6.0<br>(%)           | 6.3           | 6.6           | 6.9           | 7.2           | 7.5                  | 7.8                               |   | 8.0 |
|   | 実績値   |                      | 6.5           | 3.4           |               |               |                      |                                   |   |     |
|   | 達成見込  |                      | A             | C             |               |               |                      |                                   |   |     |
| 要因分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の感染拡大に伴い、通いの場が開催中止となった。また、再開後も、感染症予防の観点から、高齢者が参加を控えるとともに、開催する通いの場においても、参加人数を制限するなど活動が縮小されたことが要因と考えられる。</li> </ul>                        |                      |               |               |               |               |                      |                                   |   |     |

| ④訪問看護事業所の訪問看護職員数（65歳以上人口10万人対）<br>☆ |                                | 基準値<br>H30<br>(2018) | 現状値<br>R1<br>(2019) | R2<br>(2020) | R3<br>(2021) | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024) | 目標値<br>R7<br>(2025) |
|-------------------------------------|--------------------------------|----------------------|---------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|
|                                     | 目安値                            | 95<br>(人)            | 101                 | 107          | 113          | 118          | 124          | 130          | 136                 |
|                                     | 実績値                            |                      | 108                 | 126          |              |              |              |              |                     |
|                                     | 達成見込                           |                      | A                   | A            |              |              |              |              |                     |
| 要因分析等                               | ・人材養成・体制整備等の事業効果により目安値を上回っている。 |                      |                     |              |              |              |              |              |                     |



☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①感染症の診療・検査体制の強化を図るため、県・郡市医師会や市町等の協力を得ながら、地域外来・検査センターを設置、発熱患者を受け入れる診療・検査医療機関を指定したことにより、必要な検査が実施できる体制を構築できている。
  - ・地域外来・検査センター：12箇所（R4.4.1現在）
  - ・診療・検査医療機関：658機関（R4.4.1現在）
- ②とちぎ地域医療支援センター（医療政策課地域医療担当）において「栃木県医師確保計画（R2年3月策定）」に基づく医師・医学生の確保及びキャリア形成支援等を行っている。
- ③とちぎ医療勤務環境改善支援センター（県医師会に運営委託）において、医師の働き方改革や勤務環境改善等に係る医療機関の取組を支援している。
- ④妊孕性温存治療への助成やアピランスケア・在宅ターミナルケアを実施する市町への補助制度の創設、ピアサポーター養成研修の開催など、がん患者支援事業を実施した。
- ⑤がん相談支援センターへ社会保険労務士の助言や派遣を実施し、より専門的・具体的な支援を行うことで、治療と就労に不安を抱える患者への負担を軽減した。
- ⑥住民主体による生活支援サービスの充実を図るため、生活支援コーディネーター養成研修や移動・外出支援セミナーを開催するとともに、認知症の人や家族の視点に立った認知症に対する理解促進を図った。
  - ・栃木県移動・外出支援セミナー（関東信越厚生局・県社協共催）参加者95名
  - ・出張どこでも認知症カフェ（認知症の本人による認知症カフェ）の開催（参加者：58名）
  - ・家族介護交流会の開催や、新聞紙面を活用した県内市町の認知症カフェの紹介
- ⑦介護職への就労を支援するため、福祉人材・研修センターにおいてキャリア支援専門員によるハローワーク等での出張相談や就職フェアを実施した。
  - ・ハローワークへの出張相談：相談件数370件（193日）
  - ・就職フェア：7回、来場者計148名、採用数28名
- ⑧訪問看護師の確保・育成・定着を図るため、2次保健医療圏ごとに訪問看護教育ステーションを設置し、潜在看護師や新任訪問看護師を対象とした体験研修、相談支援及び勉強会等を実施したことにより、訪問看護事業所の訪問看護職員数の増加につながった。
  - ・体験研修：35名、相談支援：105件、勉強会：19回
  - ・訪問看護事業所の訪問看護職員数：707.2人（R2）、前年比18%増
- ⑨高齢者の安心した生活の見守り活動のため、民生委員による高齢者世帯への訪問活動や実態調査を地域の实情に応じて実施したほか、郵便局や宅配業者等による安否確認を行う「とちまる見守りネット」において、民間事業者等と協定を締結している。

#### <関連指標>

- ・通いの場（R2）

|         |         |
|---------|---------|
| 高齢者の参加率 | 3.4%    |
| 参加者実人数  | 18,980人 |
| 設置数     | 1,355か所 |
- ・訪問看護職員数  
707.2人（R2：常勤換算）
- ・人口10万人対訪問看護職員数  
49.9人（R2：実人数・37位）
- ・訪問看護事業所数  
119施設（R2）
- ・人口10万人対訪問看護事業所数  
6.1施設（R2：47位）
  
- ・県養成医師：108名（病院等派遣：58名、大学への研修派遣：50名）
- ・地域卒等医学生：97名  
(※R4.4.1現在)
  
- ・妊孕性温存治療助成：19件
- ・アピランスケア（医療用ウィッグ・乳房補整具）：360件（11市町）
- ・在宅ターミナルケア：4名（2市町）
- ・ピアサポーター養成研修  
：2回（12/7医療従事者（70名）  
2/12ピアサポーター希望者等（70名））
  
- ・「とちまる見守りネット」における協定締結事業者：25者（R4.4月現在）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組   | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |
|---|---|
| <p>1 感染症等の発生にも備えた地域医療提供体制の整備・充実</p>               | <p>&lt;医師確保対策の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の10万人当たり医師数は全国順位30位台半ばで推移しており、将来の医療需要や感染症、災害等への対応を見据えた医療提供体制を整備する必要がある。</li> </ul> <p>&lt;看護職員確保対策の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の10万人当たり看護師数が全国順位40位前後で推移している中、医療機関のみならず、在宅分野等における需要が増大していることから、看護職員の新規養成、離職の防止等に取り組むほか、再就業を希望する未就業看護職員のキャリア継続に向けた取組についても強化する必要がある。</li> </ul>   |
| <p>2 がんや生活習慣病等の治療が必要な方に対するライフステージ等に応じたきめ細かな支援</p> | <p>&lt;がん患者支援事業の拡充&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アピアランスケア・在宅ターミナルケア支援について、全市町での実施とし、地域差を解消する必要がある。(R4.4.1現在19市町で実施)</li> <li>・妊孕性温存治療への助成制度を患者・医療機関等へ広く周知し、助成の活用促進を図る必要がある。</li> <li>・がん患者の心的負担を軽減できる、相談対応力のあるピアサポーターの養成に向け、引き続き研修を進める必要がある。</li> </ul>   |
| <p>3 地域包括ケアシステムの推進</p>                            | <p>&lt;介護予防・日常生活支援の更なる推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、高齢者の外出機会や社会とのつながりが減少することにより、身体機能や認知機能が低下する恐れもあることから、県として、市町が取り組む、多様な通いの場の取組や地域における支え合いづくりを支援する必要がある。</li> </ul> <p>&lt;在宅医療・介護連携の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築するため、各市町が、PDCAサイクルにより地域の実情に応じて取組内容の充実を図るとともに、継続的に取り組んでいけるよう、各市町に応じたきめ細かな支援をしていく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;介護人材確保対策事業の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場における人手不足感は依然高い状況にあり、今後の労働力人口の減少を考慮すると、必要な介護人材を確保するには、多様な人材の参入促進や働きやすい環境の整備、人材育成の支援等これまでの取組を強化していく必要がある。</li> </ul> |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |  |           |   |
|------|--|-----------|---|
| 重点戦略 | 3 健康長寿・共生戦略  | プロジェクト    | 3 多様な人材活躍推進プロジェクト   |
| 目標   | 女性、若者、高齢者、障害者、外国人などすべての人が、それぞれの生活環境に合わせながら、多様で柔軟な働き方などを選択し、あらゆる場で活躍できる社会環境づくりを推進します。 | 重点的<br>取組 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 あらゆる分野における女性の活躍推進</li> <li>2 若者・高齢者・障害者・外国人の活躍に向けた環境づくりの推進</li> <li>3 働きやすい環境づくりの推進</li> </ol> |

## 1 総合評価

|   |   |
|---|---|
| 概ね<br>順調<br> | 取組指標「高齢者の社会貢献活動参加率」については、感染症の影響等により、目安値に達していないが、成果指標「女性就業率」は目安値を達成するとともに、「障害者の雇用率」は10年連続で上昇し、過去最高値を更新するなど、他の成果指標及び取組指標の実績は順調に推移していることから、総合評価は概ね順調と判断した。 |
|---|---|

## 2 成果指標の状況

|  |   |                      |                     |              |              |              |              |                     |                     |  |
|--|---|----------------------|---------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|---------------------|--|
| <b>①女性就業率（15～64歳）〔事業所規模30人以上〕☆</b><br><br><small>出典：栃木県産業労働観光部集計</small> |   | 基準値<br>H30<br>(2018) | 現状値<br>R1<br>(2019) | R2<br>(2020) | R3<br>(2021) | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024)        | 目標値<br>R7<br>(2025) |  |
|  | 目安値   | 31.6                 | 32.2                | 32.8         | 33.5         | 34.2         | 35.0         | 35.0                | 35.0                |  |
|  | 実績値   | (%)                  | 33.7                | 33.6         | 34.0         |              |              |                     |                     |  |
|  | 達成見込  |                      | A                   | A            | A            |              |              |                     |                     |  |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・とちぎ女性・高齢者等新規就業支援事業等の成果により、仕事に就いていない女性等の就労意欲を醸成するとともに、企業における働き方を考慮した環境整備が進み、順調に増加している。</li> </ul>          |                      |                     |              |              |              |              |                     |                     |  |
| <b>②障害者の雇用率☆</b><br><br><small>出典：厚生労働省「障害者の雇用状況について」</small>            |   | 基準値<br>R1<br>(2019)  | R2<br>(2020)        | R3<br>(2021) | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024) | 目標値<br>R7<br>(2025) |                     |  |
|  | 目安値   | 2.07                 | 2.30                | 2.33         | 2.36         | 2.40         | 2.45         | 2.45                |                     |  |
|  | 実績値   | (%)                  | 2.18                | 2.26         |              |              |              |                     |                     |  |
|  | 達成見込  |                      | C                   | B            |              |              |              |                     |                     |  |
|  | 全国順位  | 43                   | 33                  | 28           |              |              |              |                     |                     |  |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の就業体験や企業へのコンサルティング等に取り組んだことにより、障害者雇用率は、10年連続して増加し、過去最高となったものの、未だ障害者雇用への理解不足等により目安値には達していない。</li> </ul> |                      |                     |              |              |              |              |                     |                     |  |

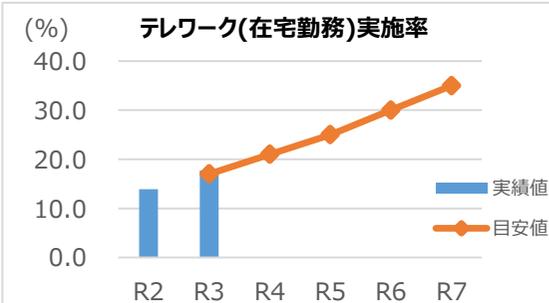
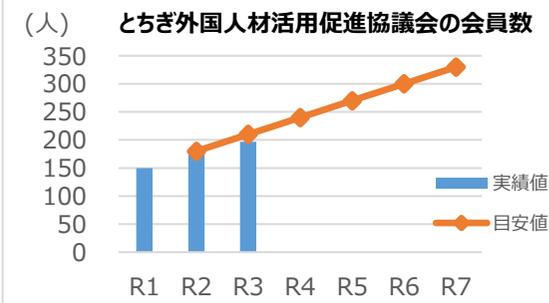
☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|  |  |               |                    |               |               |                      |                      |                          |      |
|--|--|---------------|--------------------|---------------|---------------|----------------------|----------------------|--------------------------|------|
| <b>①県の審議会等委員に占める女性の割合</b><br><br>出典：男女共同参画に関する年次報告 | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021)      | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <p>県の審議会等委員に占める女性の割合</p> |      |
|  | 目安値  | 37.5          | 37.9               | 38.3          | 38.7          | 39.1                 | 39.5                 |                          | 40.0 |
|  | 実績値  | (%)           | 37.5               | 37.6          |               |                      |                      |                          |      |
|  | 達成見込   |               | C                  | C             |               |                      |                      |                          |      |
| 要因分析等  | ・審議会における女性登用の促進に向け、女性委員の割合が低い審議会等を中心に委員構成の見直しや関係団体への働きかけなどを依頼したことにより微増したが、女性人材が少ない分野において見直しが困難等の理由により、目標値に達していない状況にある。 |               |                    |               |               |                      |                      |                          |      |
| <b>②男女生き生き企業認定企業数</b><br><br>出典：男女共同参画に関する年次報告     | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021)      | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <p>男女生き生き企業認定企業数</p>     |      |
|  | 目安値  | 36            | 100                | 189           | 204           | 220                  | 235                  |                          | 250  |
|  | 実績値  | (社)           | 175                | 202           |               |                      |                      |                          |      |
|  | 達成見込   |               | A                  | A             |               |                      |                      |                          |      |
| 要因分析等  | ・R 2年度に新たに付与したインセンティブ（栃木県建設工事入札参加資格の技術評価点数の加点）により、認定数が大幅に増加した。   |               |                    |               |               |                      |                      |                          |      |
| <b>③高齢者の社会貢献活動参加率</b><br><br>出典：栃木県「県政世論調査」        | 基準値<br>R 2<br>(2020)   | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022)      | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <p>高齢者の社会貢献活動参加率</p> |                          |      |
|  | 目安値  | 52.3          | 現状値（R 2：52.3%）を上回る |               |               |                      |                      |                          |      |
|  | 実績値  | (%)           | 51.4               |               |               |                      |                      |                          |      |
|  | 達成見込   |               | C                  |               |               |                      |                      |                          |      |
| 要因分析等  | ・感染症の影響に伴う外出控え等により、高齢者の社会貢献活動が停滞していると考えられる。  |               |                    |               |               |                      |                      |                          |      |

|  |   |               |               |               |               |                      |                      |     |
|--|---|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|----------------------|-----|
| ④とちぎ外国人材活用促進協議会の会員数<br><br>出典：栃木県産業労働観光部集計 | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025) |     |
|  | 目安値   | 150<br>(人)    | 180           | 210           | 240           | 270                  | 300                  | 330 |
|  | 実績値   |               | 175           | 197           |               |                      |                      |     |
|  | 達成見込  |               | A             | A             |               |                      |                      |     |
| 要因分析等                                      | ・企業訪問やセミナー等でのPRにより増加傾向にある。  |               |               |               |               |                      |                      |     |
| ⑤テレワーク（在宅勤務）実施率<br><br>出典：栃木県「労働環境等調査」     | 基準値<br>R 2<br>(2020)  | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |                      |     |
|  | 目安値   | 13.9<br>(%)   | 17.0          | 21.0          | 25.0          | 30.0                 | 35.0                 |     |
|  | 実績値   |               | 17.7          |               |               |                      |                      |     |
|  | 達成見込  |               | A             |               |               |                      |                      |     |
| 要因分析等                                      | ・感染症の長期化により、「新たな日常」に対応した働き方として、テレワーク（在宅勤務）が注目される中、経済団体等の関係機関と連携した情報発信や企業への導入支援等の施策を展開したことにより導入が進んだ。 |               |               |               |               |                      |                      |     |



☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①政策・方針決定過程における女性の活躍を促進するため「とちぎウーマン応援塾」を開催し、県や市町の審議会や自治会等に参画可能な女性人材を育成した。
  - ・とちぎウーマン応援塾参加者数：24名
- ②固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みを起因とする課題を解消するため、県民を対象とした講座やセミナーを実施し意識変革を図ったことにより、意識の改善が図られた。
  - ・県政世論調査結果「男は外で働き、女は家庭を守るべき」  
「賛成」R2：24.9% → R3：24.2%、「反対」R2：53.9% → R3：58.1%
- ③職に就いていない女性・高齢者等を掘り起こし、新規就業につなげるため、市町と連携しながらセミナーや面接会等を実施した。
  - ・とちぎ女性・高齢者等新規就業支援事業における新規就業者数：175名
- ④就職氷河期世代への支援のため、ジョブモールに設置した専門相談窓口での就労支援、再就職・スキルアップ支援のためのセミナーの開催及び産業技術専門校の「就職氷河期世代優先枠」の設定等に取り組んだ。
  - ・窓口相談件数：延べ494件   ・セミナー参加者：35人   ・優先枠入校者：34人
- ⑤企業における障害者雇用率の向上及び職場定着を図るため、企業向けセミナーやコンサルティングを実施するほか、就職を希望する障害者に対して企業での就労体験の機会を提供し、就労意欲向上を図った。
  - ・コンサルティング：20社
  - ・障害者就業体験実施者：95名（うち、就労に結びついた者53名）
- ⑥外国人材の円滑な受入れ及び適切な活用促進のため、「とちぎ外国人材活用促進協議会」においてセミナー等の開催や、「外国人材コーディネーター」の活用等により、企業からの相談にきめ細かに対応した。
  - ・セミナー等開催件数：9回   ・コーディネーター相談件数：185件
- ⑦企業のテレワーク導入を支援するため、公労使の関係機関による「とちぎ雇用維持確保・テレワーク等推進会議」において課題等を議論したほか、企業への専門家派遣や導入事例集の作成等を行った。
  - ・専門家派遣件数 11社

#### <関連指標>

- ・障害者雇用率の推移（R元～3）  
R元：2.07%（全国43位）（法定2.2%）  
R2：2.18%（全国33位）（法定2.2%）  
R3：2.26%（全国28位）（法定2.3%）
- ・栃木県知事部局の障害者雇用率  
R3：3.06%（全国7位）（法定2.6%）
- ・栃木県教育委員会事務局の障害者雇用率  
R3：2.69%（全国4位）（法定2.5%）
- ・総労働時間（15戦略KPI）  
R元：1,706時間   R2：1,692時間  
R3：1,701時間
- ・男性の育児休業取得率  
H30：8.9%   R元：12.8%  
R2：17.9%
- ・高齢者の就業率（65歳以上）  
H30：2.9%   R元：3.2%  
R2：3.5%   R3：3.8%

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                                  | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題   |
|--|--|
| <p>1 あらゆる分野における女性の活躍推進</p>             | <p>&lt;女性が活躍できる職場環境づくりの推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の女性の就業状況を見ると、育児をしている女性の有業率が低く（全国 30 位）、女性の有業率は 30～34 歳で M 字カーブの底となり、35～39 歳から非正規雇用の割合が正規雇用の割合を上回ることから、出産・育児で退職し、復職する際には非正規雇用となる女性が多くいることが推測される。女性が、出産・育児・介護等といったライフステージに合わせて、希望に応じた就労が実現できるよう、女性が活躍できる環境を整備していく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;理工系分野における女性の活躍促進に向けた取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の企業等で働く研究職・技術開発職の女性が活躍するよう、R4 年度に事業開始した生徒・学生や企業等で働く若手女性研究者・技術開発者に向けたキャリアビジョン形成に資する事業に継続的に取り組むとともに、今後は、理工系分野への進路選択を促進するために、早い段階から若年層及び保護者等に対する働きかけを幅広く講じる必要がある。</li> </ul> <p>&lt;政策決定過程への女性の参画促進への取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県や市町の審議会等における女性の登用がさらに進むよう、引き続き人材育成に取り組むとともに、登用について働きかけを行っていく必要がある。</li> </ul> |
| <p>2 若者・高齢者・障害者・外国人の活躍に向けた環境づくりの推進</p> | <p>&lt;若者が活躍するとちぎづくりの推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で若者が直接集い、ネットワークを広げていく機会は減少しており、社会的な成長へとつながる経験の不足が懸念されている。</li> <li>・こうした中において、心豊かでたくましいとちぎの青少年を育成していくため、若者同士のつながりと交流の機会を創出し、ネットワークを持続的に発展させることにより、若者が主体となり活躍するとちぎづくりを進める必要がある。</li> </ul> <p>&lt;高齢者の社会参加の促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の社会参加活動へのきっかけづくりや身近な地域で継続して活動に参加できる環境づくりを進めていく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;障害者雇用の更なる促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の民間企業における障害者雇用率は、依然として法定雇用率を下回る状況が継続していることから、未達成企業を中心に障害者雇用の普及啓発、新規採用及び職場定着の促進に取り組む必要がある。</li> </ul>  |

|                        |   |
|------------------------|---|
|                        | <p>&lt;外国人材の生活・就労環境づくりの促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の雇用を希望するにも関わらず、条件等の問題により雇用に至っていない企業が約3割も存在するとともに、「募集や採用活動」、「在留資格の手続き」、「労務管理」に困難を感じている企業が多く、制度や雇用方法について支援を求める声があるため、ニーズに沿った支援が必要である。併せて、外国人の雇用における困難のトップに「日本語能力の不安」がランクインするなど、「日本語能力向上のための支援」を求める声が多い。</li> </ul>   |
| <p>③ 働きやすい環境づくりの推進</p> | <p>&lt;多様な働き方の推進とウェル・ビーイングの向上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週間就業時間 60 時間以上の雇用者の割合は、子育て期にある 30 代及び 40 代の男性において高く、育児に関わる時間が少ない状況にある。一方、法改正により、R4 年 10 月から産後パパ育休が新設されるなど、男性の育休取得を推進する動きもあり、男性の育休取得率は向上しているものの、未だ低い水準であり、夫婦がともに、仕事と子育てが両立できる環境整備を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;男性の家事分担の促進に向けた取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の家事・育児の参画を促進することにより、女性の家事負担を減少させ、男女が協力して家事や子育てをする家庭環境の構築を促進するほか、女性が就業を継続できる社会の実現に向けて、引き続き講座等の開催に取り組むとともに行動変容につなげる効果的な普及啓発に取り組む必要がある。</li> </ul> |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

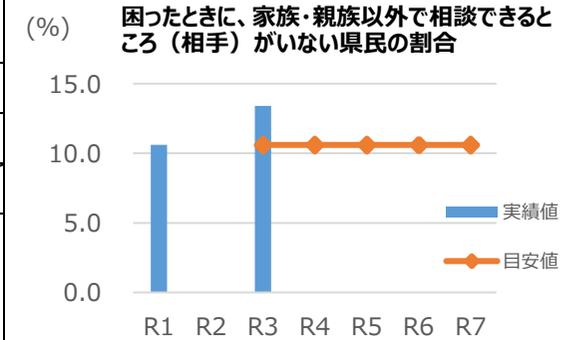
|      |   |           |  |   |                       |   |          |
|------|---|-----------|--|---|-----------------------|---|----------|
| 重点戦略 | <b>3 健康長寿・共生戦略</b>  | プロジェクト    | <b>4 誰一人取り残さない地域共生社会づくりプロジェクト</b>  |   |                       |   |          |
| 目 標  | 子どもや高齢者、障害者、外国人、性的マイノリティなど、すべての人が「地域」、「暮らし」、「生きがい」を共に創り、高め合い、誰もが社会で活躍し、快適に安心して生活できる地域社会の実現を推進します。 | 重点的<br>取組 | <table border="1"> <tr> <td style="background-color: #f8d7da;">1</td> <td>誰もが安心して暮らすことができる環境づくり</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f8d7da;">2</td> <td>多文化共生の推進</td> </tr> </table> | 1 | 誰もが安心して暮らすことができる環境づくり | 2 | 多文化共生の推進 |
| 1    | 誰もが安心して暮らすことができる環境づくり   |           |  |   |                       |   |          |
| 2    | 多文化共生の推進  |           |  |   |                       |   |          |

## 1 総合評価

|   |   |
|---|---|
| <b>概ね<br/>順調</b><br> | <p>「包括的支援体制の構築に取り組む市町数」については、市町への支援などに向けた取組を進めてきた結果、「重層的支援体制整備事業への移行準備事業（移行準備事業）」に取り組んでいた10市町のうち、R4年度から新たに3市町が「重層的支援体制整備事業（本事業）」に移行するに至った。一方、取組に着手していない15市町においても、各種セミナーや研修等を通して、今後の取組に向けた検討が着実に進められている。</p> <p>また、日本語教育に関する県の基本的な方針を策定するなど、多文化共生の推進に努めたほか、栃木県障害者コミュニケーション条例の制定や栃木県障害者ICTサポートセンターの設置とともに、重度心身障害者医療費助成制度について精神障害者への対象拡大を図ったことから、総合評価は「概ね順調」と判断した。</p> |
|---|---|

## 2 成果指標の状況

| ①困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）がない県民の割合 | 基準値   | R 1    | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | R 6    | 目標値    |  |
|--------------------------------------|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
|                                      |   | (2019) | (2020) | (2021) | (2022) | (2023) | (2024) | (2025) |  |
|                                      | 目安値   | 10.6   | —      | 減少を目指す | →      |        |        |        |  |
|                                      | 実績値   | (%)    | —      | 13.4   |        |        |        |        |  |
|                                      | 達成見込  |        | —      | C      |        |        |        |        |  |
| 出典：栃木県「県政世論調査」                       | 全国順位  |        |        |        |        |        |        |        |  |
| 要因分析等                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法（H30. 4改正）において市町の努力義務とされ、体制構築に取り組んでいる市町は着実に増加しており、様々な課題を包括的に受け止め、支援する体制の構築に向けた取組が進められている。（関係指標：3－①）</li> <li>・ R 3年度県政世論調査では、新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛等による人とのつながりの希薄化などの影響を受け、R 3の数値は13.4%と増加した。</li> </ul> |        |        |        |        |        |        |        |  |



※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|   |  |               |               |               |               |                      |                                     |                                  |     |
|---|--|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|-------------------------------------|----------------------------------|-----|
| <b>①包括的な支援体制※の構築に取り組む市町数</b><br>※相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援の一体的な実施等<br>出典：栃木県保健福祉部集計   | 基準値<br>R 2<br>(2020)   | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | (市町) <b>包括的な支援体制の構築に取り組む市町数</b><br> |                                  |     |
|   | 目安値  | 8<br>(市町)     | 10            | 13            | 16            | 19                   |                                     | 22                               |     |
|   | 実績値  |               | 10            |               |               |                      |                                     |                                  |     |
|   | 達成見込   |               | A             |               |               |                      |                                     |                                  |     |
| 要因分析等   | ・ R 2 年 6 月に改正社会福祉法が公布、R 3 年 4 月から新事業が創設されたことが、市町の取組推進の大きな要因と推測される。<br>R 1 : 6 市町、R 2 : 8 市町、R 3 : 10 市町 |               |               |               |               |                      |                                     |                                  |     |
| <b>②在県外国人支援に係る人材※の登録者数</b><br>※トランスレーター、災害時外国人サポーター、やさしい日本語普及員<br>出典：栃木県産業労働観光部集計 | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025)                | (人) <b>在県外国人支援に係る人材の登録者数</b><br> |     |
|   | 目安値  | 355<br>(人)    | 400           | 440           | 480           | 520                  | 560                                 |                                  | 600 |
|   | 実績値  |               | 388           | 429           |               |                      |                                     |                                  |     |
|   | 達成見込   |               | B             | A             |               |                      |                                     |                                  |     |
| 要因分析等   | (公財) 栃木県国際交流協会の積極的なPR等により、順調に推移している。   |               |               |               |               |                      |                                     |                                  |     |

※達成見込 A : 達成見込が 80%以上 B : 達成見込が 50%以上～80%未満 C : 達成見込が 50%未満 — : 実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①市町における包括的支援体制の構築を促進するため、地域共生社会の理念の浸透を図るセミナー等や、様々な課題を適切な支援へとつなぐことができる人材を育成する研修を開催したほか、新たに「とちまる地域共生社会スタディグループ（SG）」を設置するなど、各種施策の展開を通じて市町の取組を支援してきたことにより、体制構築に取り組む市町の気運の醸成が図れている。
- ・包括的な支援体制の構築に取り組む市町数：R2年度8市町、R3年度10市町（2市町増）  
R4年度10市町（うち、本事業移行3市町）
- ②障害者の自立と社会参加を促すとともに、共生社会を実現するため、「栃木県障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を制定するとともに、「栃木県障害者ICTサポートセンター」を設置した。
- ③重度心身障害児・者の健康の保持・増進を図るため、精神障害者保健福祉手帳1級所持者を助成対象に加えた。
- ④性的マイノリティの当事者や家族等からの様々な相談に応じるため、R3年10月に専門相談員による電話相談窓口「とちぎにじいろダイヤル」を開設し、性的指向や性自認に関する悩みや不安等に対応した。
- ・R3年度（10月～3月）相談件数：16件
- ⑤各学校において、性的マイノリティへの理解を促進し、性の多様性を認め合う意識の醸成を図るため、「性の多様性を考える研修会」を開催した。
- ・参加者101名
- ⑥県民の多文化共生意識の醸成を図るため、とちぎ多文化共生フォーラムの開催や、やさしい日本語の普及啓発、外国人キーパーソンによる感染症に関する情報等発信を行った。また、日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための県の基本的な方針を策定した。
- ・とちぎ多文化共生フォーラムの開催：来場者数170名
  - ・やさしい日本語の普及啓発：実践セミナー23名、普及員養成セミナー30名
  - ・外国人キーパーソンによる情報等発信：22件（うちコロナ関連：8件）

#### <関連指標>

- ・合理的配慮の提供  
96.6%（R2）
- ・ヘルプマーク認知度  
60.5%（R2）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                          | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |
|--------------------------------|---|
| <p>1 誰もが安心して暮らすことができる環境づくり</p> | <p>&lt;包括的支援体制構築促進に向けた市町支援の着実な推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながりの希薄化や社会の変容等に伴い、孤独・孤立化などの社会的つながりが弱い要支援者の存在や、ヤングケアラーをはじめとする外見上見えにくい困り事を抱えた者の存在が顕在化するなど、個人や世帯が抱える多様化・複雑化する課題を包摂的に支援していく必要がある。こうした中、市町では、社会福祉法において様々な課題を包括的に支援する体制の構築が努力義務とされていることから、引き続き市町の取組を支援し、地域福祉の基盤整備を図る必要がある。</li> </ul> <p>&lt;デジタル技術等の活用も含めた取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少や少子高齢化が進行し、様々な場面で地域福祉の担い手が不足している。このため、担い手不足を補うためのデジタル技術等の活用について、支援者の活動負担軽減等、地域福祉の主体である市町のニーズ等を踏まえ支援していく必要がある。</li> </ul> |
| <p>2 多文化共生の推進</p>              | <p>&lt;多文化共生意識の醸成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県が実施した調査では、多文化共生の「意味がわからない」と回答した日本人住民が約5割を占めていることから、市町や関係団体と連携し、県民の多文化共生意識の醸成を図る必要がある。</li> <li>・さらに、「やさしい日本語」が使われるとよい場所として、「仕事先」「市役所・町役場」を希望する外国人住民の声が多いことから、引き続き企業や行政職員に対して普及啓発を行う必要がある。</li> </ul> <p>&lt;外国人支援を担う人材の育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人キーパーソン数は十分とはいえず、また、外国人住民の居住地に地域的偏在があることや多国籍化が進んでいるため、より様々な居住地や国籍のキーパーソンを確保していく必要がある。</li> <li>・地域における日本語教育体制の整備に向けて、地域における日本語教育に従事する人材育成を行う必要がある。</li> </ul>              |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |  |        |   |
|------|--|--------|---|
| 重点戦略 | 4 安全・安心戦略  | プロジェクト | 1 危機対応力強化プロジェクト   |
| 目標   | 大規模な自然災害の発生に備えるため、「自助・共助・公助」の連携によるソフト対策を充実・強化することにより、県民一人ひとりの防災意識を高めるとともに、災害等の危機事象に強い地域社会を構築します。 | 重点的取組  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 防災意識の高揚や適切な避難行動の促進</li> <li>2 地域防災力の充実・強化</li> <li>3 災害から県民や地域を守る体制の充実・強化</li> </ol> |

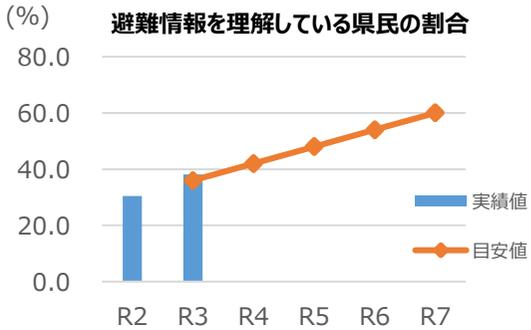
## 1 総合評価

|  |  |
|--|--|
| <br><b>順調</b> | <p>成果指標「避難情報（5段階の警戒レベル）を理解している県民の割合」及び取組指標「県広報課 LINE（ライン）の登録者数」とともに目安値を上回っており、順調に進捗している。</p> <p>一方、取組指標「地区防災計画策定数」については、感染症の影響により計画策定に係る地域の活動が停滞し、目安値には満たなかったものの、着実に増加していることから、総合評価は順調と判断した。</p> |
|--|--|

## 2 成果指標の状況

| ①避難情報（5段階の警戒レベル）を理解している県民の割合 |   | 基準値<br>R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |
|------------------------------|---|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|
|                              | 目安値   | 30.5                 | 36.0          | 42.0          | 48.0          | 54.0          | 60.0                 |
|                              | 実績値   | (%)                  | 38.1          |               |               |               |                      |
|                              | 達成見込  |                      | A             |               |               |               |                      |
| 出典：県政世論調査                    |   |                      |               |               |               |               |                      |
| 要因分析等                        | <p>・住民の適切な避難行動を促すためのリーフレットを作成し、自治会を通じ県内各世帯に配布したほか、SNSやテレビ、ラジオ等の各種メディアを用いて発信するなど、様々な広報媒体で周知を行ったことにより、目安値を上回った。</p> |                      |               |               |               |               |                      |

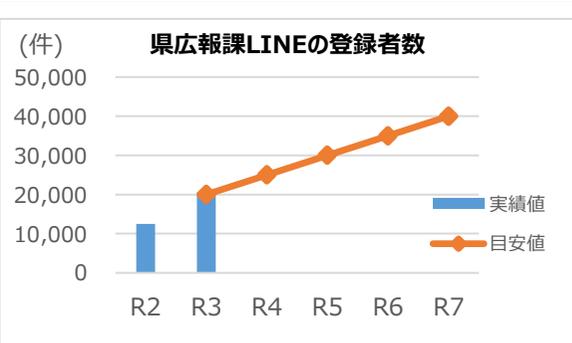
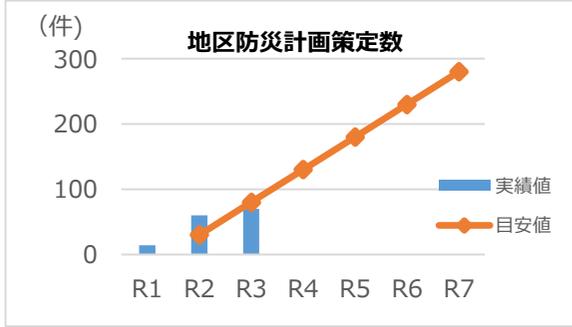
(%) **避難情報を理解している県民の割合**



Legend: 実績値 (Actual Value) - Blue bar, 目安値 (Target Value) - Orange line with diamond markers.

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|                                       |   |                      |               |               |               |               |                      |   |   |
|---------------------------------------|---|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|---|---|
| ①県広報課LINE（ライン）の登録者数<br><br>出典：県民生活部集計 |   | 基準値<br>R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |  <p>県広報課LINEの登録者数</p> <p>(件)</p> <p>50,000<br/>40,000<br/>30,000<br/>20,000<br/>10,000<br/>0</p> <p>R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p>実績値 目安値</p> |   |
|                                       | 目安値   | 12,494               | 20,000        | 25,000        | 30,000        | 35,000        | 40,000               |   |   |
|                                       | 実績値   | (件)                  | 20,572        |               |               |               |                      |   |   |
|                                       | 達成見込  |                      | A             |               |               |               |                      |   |   |
| 要因分析等                                 | <p>・ R 3 から県広報課 LINE を活用した防災情報の発信を行ったほか、県内各世帯に配布した住民の適切な避難行動を促すためのリーフレットにLINEのQRコードを掲載したことにより、登録者が増加した。</p> |                      |               |               |               |               |                      |   |   |
| ②地区防災計画策定数<br><br>出典：県民生活部集計          |   | 基準値<br>R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025)  |  <p>地区防災計画策定数</p> <p>(件)</p> <p>300<br/>200<br/>100<br/>0</p> <p>R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p>実績値 目安値</p> |
|                                       | 目安値   | 14                   | 30            | 80            | 130           | 180           | 230                  | 280   |   |
|                                       | 実績値   | (件)                  | 60            | 73            |               |               |                      |   |   |
|                                       | 達成見込  |                      | A             | A             |               |               |                      |   |   |
| 要因分析等                                 | <p>・ 感染症の影響により、計画策定に係る地域の活動が停滞したため、目安値を下回った。</p>  |                      |               |               |               |               |                      |   |   |

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①住民の適切な避難行動を促すためのリーフレットを作成し、自治会を通じ県内各世帯に配布したほか、SNSやテレビ、ラジオ等の各種メディアを用いて発信するなど、様々な広報媒体で周知を行うことにより、避難情報（5段階の警戒レベル）についての県民の理解が深まりつつある。
- ②R3から県広報課 LINE を活用した防災情報の発信を行ったほか、県内各世帯に配布した住民の適切な避難行動を促すためのリーフレットにLINEのQRコードを掲載し、登録者の増加を図った。
- ③ハザードマップ整備の基となる洪水浸水想定区域図等を28河川で公表し、洪水時における円滑で迅速な避難につなげる防災情報の充実を図った。
- ④危機管理型水位計を19河川21箇所、簡易型河川監視カメラを25河川31箇所増設し、河川情報の充実を図った。
- ⑤県南地区へ排水ポンプ車を3台配備するとともに、排水操作訓練を実施し、浸水の早期解消に向けた体制を整備した。
- ⑥地区防災計画策定促進に向けて、市町職員や防災士等が計画策定支援を効果的に行えるよう、モデル事業（R元～R2）の成果を踏まえたマニュアル・事例集及び映像教材を制作し、市町等に配布するとともに、事例の共有等を行う地区防災計画策定促進検討会（55名参加）を開催したほか、計画策定等に係る経費を市町に助成する制度の創設により、普及促進するための環境整備が図れた。
- ⑦消防団員の報酬等の見直しについて、担当者連絡会議（3回開催）において、オンラインによる消防庁への質疑応答を行うとともに、市町の検討状況一覧等の情報提供や意見交換による市町間の情報共有を図るなど、市町における団員の処遇改善に向けた取組を支援した。また、消防団員の確保に向け、プロスポーツチームと連携したPR動画の制作・放映等により、女性や若者における消防団活動への理解促進を図った。

#### <関連指標>

- ・BCPを策定している市町数  
R2：21市町、R3：25市町
- ・自主防災組織の平均訓練回数（回）
 

|       | 本県          | 全国   |
|-------|-------------|------|
| H31.4 | 0.25(全国41位) | 0.61 |
| R2.4  | 0.28(全国39位) | 0.59 |
| R3.4  | 0.11(全国41位) | 0.28 |
- ・消防団員定員充足率（%）
 

|       | 本県          | 全国   |
|-------|-------------|------|
| H31.4 | 90.1(全国27位) | 90.4 |
| R2.4  | 89.3(全国30位) | 89.6 |
| R3.4  | 88.4(全国30位) | 88.6 |

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                         | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |
|-------------------------------|---|
| <p>1 防災意識の高揚や適切な避難行動の促進</p>   | <p>&lt;ICTを活用した効果的な防災情報の発信&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT技術を活用した情報発信は、住民の防災意識の高揚において効果的な役割を果たすことが期待できることから、これを積極的に活用し、情報発信に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>  |
| <p>2 地域防災力の充実・強化</p>          | <p>&lt;地区防災計画策定の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に災害リスクが高い地区から、順次、自主防災組織等における地区防災計画策定を促進していく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;地域防災力の充実・強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害が頻発・激甚化する中、将来の地域防災の担い手確保に向けては、児童・生徒等に対して「共助」の視点からの防災教育を推進する必要がある。また、大規模災害時に的確な被災地支援を行えるよう、必要な機能等を備えておくなど、地域における総合的な防災力の充実・強化を図る必要がある。</li> </ul> <p>&lt;消防団の充実・強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災力の中核を担う消防団員は、少子化の進行や被用者割合の増加等の影響により、年々減少していることから、団員の担い手確保に向け、消防団活動に対する社会的な理解促進を図るとともに、特に若年層の入団促進を図っていく必要がある。</li> </ul> |
| <p>3 災害から県民や地域を守る体制の充実・強化</p> | <p>&lt;各市町における避難対策の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害が頻発・激甚化する中、感染症感染拡大等も踏まえ、市町における一層の避難対策と平時からの災害対応体制の充実・強化を支援していく必要がある。</li> </ul>   |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

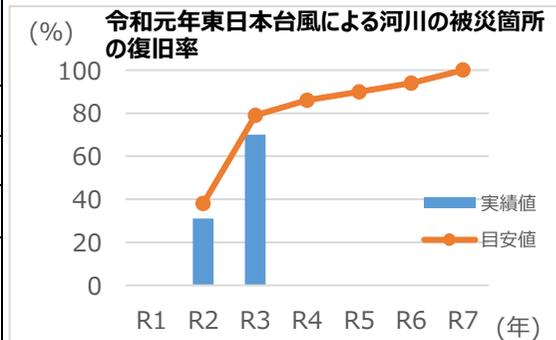
|      |  |        |  |
|------|--|--------|--|
| 重点戦略 | 4 安全・安心戦略  | プロジェクト | 2 県土強靱化プロジェクト  |
| 目標   | 豪雨災害や大規模地震等から県民の「命」や「財産」はもとより、日々の「暮らし」や「生業」を守るため、社会資本の整備・保全などのハード対策を計画的に推進し、ソフト対策との両面から、災害に強い県土を構築します。 | 重点的取組  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 災害に強く県民の命と暮らしを守る社会資本の整備推進</li> <li>2 社会資本の老朽化対策の推進</li> </ol> |

## 1 総合評価

|  |  |
|--|--|
| <br><b>順調</b> | <p>河川事業に関する指標は、目安値をやや下回ったものの、昨年度末までに原形復旧箇所の工事を完了させたことに加え、堤防決壊の被害が生じた箇所等 266 箇所の堤防強化対策を完了させるなど、防災・減災に向けた取組を着実に進めている。また、国の国土強靱化5か年加速化対策に呼応し、修繕が必要な橋梁の長寿命化対策を推進したことにより実施数は目安値を上回った。</p> <p>これらの状況から、総合評価は順調と判断した。</p> |
|--|--|

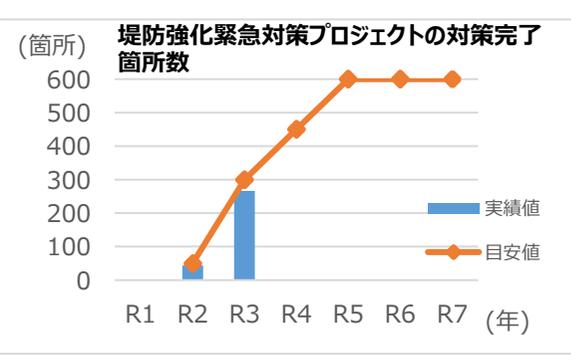
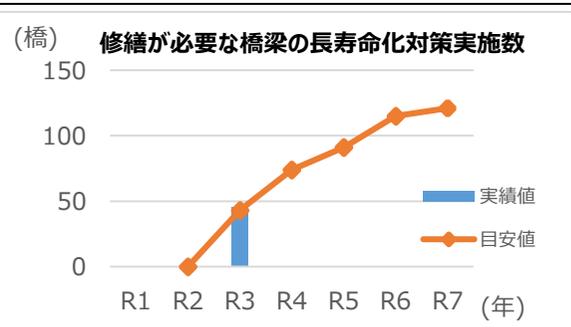
## 2 成果指標の状況

| ①令和元年東日本台風による河川の被災箇所の復旧率 | 基準値   | R 1    | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | R 6    | 目標値    |
|--------------------------|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                          |   | (2019) | (2020) | (2021) | (2022) | (2023) | (2024) | (2025) |
|                          | 目安値   | 0      | 38     | 79     | 86     | 90     | 94     | 100    |
|                          | 実績値   | (%)    | 31     | 70     |        |        |        |        |
| 達成見込                     |   | A      | A      |        |        |        |        |        |
| 出典：栃木県県土整備部集計            |   |        |        |        |        |        |        |        |
| 要因分析等                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>一部の箇所で用地取得に時間を要したことにより目安値をやや下回ったものの、原形復旧を行うこととした被災箇所の復旧を完了させ、目安値に対し80%以上の実績を確保した。</li> </ul> |        |        |        |        |        |        |        |



※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

| ①堤防強化緊急対策プロジェクトの対策完了箇所数<br><br>出典：栃木県県土整備部<br>集計 | 基準値  | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | R 6    | 目標値        |  <p>(箇所) 堤防強化緊急対策プロジェクトの対策完了箇所数</p> <p>600<br/>500<br/>400<br/>300<br/>200<br/>100<br/>0</p> <p>R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7 (年)</p> <p>実績値 目安値</p> |     |
|--|--|--------|--------|--------|--------|--------|------------|--|-----|
|  | R 1 (2019)   | (2020) | (2021) | (2022) | (2023) | (2024) | R 7 (2025) |  |     |
|  | 目安値  | 0      | 50     | 300    | 450    | 600    | 600        |  | 600 |
|  | 実績値  | (箇所)   | 44     | 266    |        |        |            |  |     |
| 達成見込   |  | A      | A      |        |        |        |            |  |     |
| 要因分析等  | <p>・ R 3 完了予定箇所の一部で用地取得に時間を要したことにより、目安値をやや下回ったものの、堤防決壊の被害が生じた箇所等 266 箇所の対策が完了し、目安値に対して 80% 以上の実績を確保した。</p> |        |        |        |        |        |            |  |     |
| ②修繕が必要な橋梁の長寿命化対策実施数<br><br>出典：栃木県県土整備部<br>集計     | 基準値  | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | R 6    | 目標値        |  <p>(橋) 修繕が必要な橋梁の長寿命化対策実施数</p> <p>150<br/>100<br/>50<br/>0</p> <p>R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7 (年)</p> <p>実績値 目安値</p>                               |     |
|  | R 1 (2019)   | (2020) | (2021) | (2022) | (2023) | (2024) | R 7 (2025) |  |     |
|  | 目安値  | —      | —      | 43     | 74     | 91     | 115        |  | 121 |
|  | 実績値  | (橋)    | —      | 46     |        |        |            |  |     |
| 達成見込   |  | —      | A      |        |        |        |            |  |     |
| 要因分析等  | <p>・ 国の国土強靱化 5 年加速化対策に呼応し、対策を推進したことにより、目安値を上回った。</p>   |        |        |        |        |        |            |  |     |

※達成見込 A：達成見込が 80% 以上 B：達成見込が 50% 以上～80% 未満 C：達成見込が 50% 未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①令和元年東日本台風による被災箇所のうち、原形復旧を行う箇所（867箇所）の工事が完了した。
- ②流域のあらゆる関係者が協働し、水災害を軽減させる取組を行うための「栃木県流域治水プロジェクト」をR3年9月に策定・公表した。また、減災対策協議会の下部組織として流域治水幹事会及び検討会を組織し、国や市町と連携して取組体制を構築した。
- ③緊急輸送道路である国道400号において、下塩原バイパスが延長3.6km全線供用したことから、連続雨量200mmに達した場合に通行止めとしていた区間が解消され、災害時の安定的な輸送が確保され、広域道路ネットワークが強化された。
- ④ため池保全法に基づき届出が必要な農業用ため池（392施設）※を対象に、ため池の諸元や施設管理者等の明確化を図るため、県への届出を促進し、R3年度までに全ての施設について届出を受理した。  
※届出が必要な農業用ため池（392施設）：県内農業ため池（527施設）のうち、農業用ダム、行政所有の農業用ため池を除いたもの
- ⑤県内全ての防災重点農業用ため池（218施設）を対象に以下の取組を支援した。
  - ・市町による健全度評価（116施設：劣化状況、地震・豪雨耐性について検証・評価）
  - ・転落事故未然防止対策（29施設：啓発看板設置、ため池ハザードマップの周知）
- ⑥山地災害危険地区について、新たに29箇所に対策に着手し、災害に強い森づくりを推進した。
- ⑦橋梁補修に関するワーキンググループを開催し、コスト縮減例や有効な新技術情報等の先進事例を土木事務所と共有することにより点検・工事の期間短縮と予算縮減に繋げ、長寿命化対策を推進した。

#### <関連指標>

- ・道路防災点検における要対策箇所の整備率（R7年度目標値67.2%）  
R2年：64.6%→R3：65.2%
- ・河川における優先整備区間の整備延長（R7年度目標値97.3km）  
R2：47.7km→R3：59.3km
- ・土砂災害警戒区域内における重点整備箇所の対策完了箇所（R7年度目標値40箇所）  
R2：20箇所→R3：27箇所
- ・流域下水道施設（マンホールと管渠の接続部）の耐震化率（R7年度目標値40%）  
R2：7%→R3：11%
- ・山地災害危険地区の着手箇所数（R7年度目標値125箇所）  
R3：29箇所

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                              | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題   |
|------------------------------------|--|
| <p>1 災害に強く県民の命と暮らしを守る社会資本の整備推進</p> | <p>&lt;流域治水対策の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地で水災害が頻発・激甚化していることから、河川管理者による対策だけでなく流域のあらゆる関係者が協働して治水対策に取り組む「流域治水」を推進している。しかし、流域治水は新たな概念であることから認知度が低く、取組実施数も少ないことが課題となっている。</li> </ul> |
| <p>2 社会資本の老朽化対策の推進</p>             | <p>&lt;効果的・効率的な長寿命化対策の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資本の老朽化対策においては、ライフサイクルコストの抑制を図るため、事後保全から予防保全へ移行し、効果的・効率的な対策を推進する必要がある。</li> </ul>  |

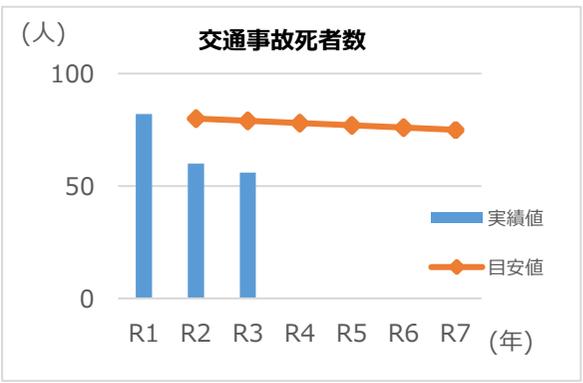
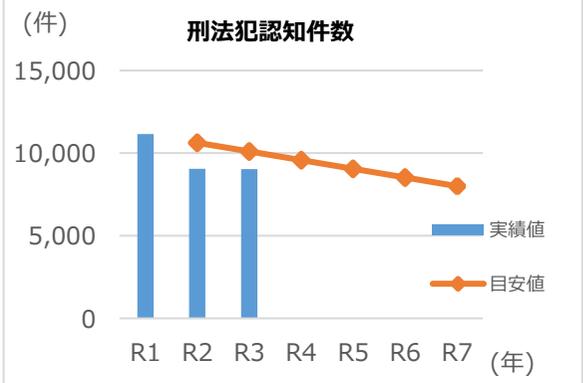
# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |   |           |  |   |                       |   |                       |   |               |
|------|---|-----------|--|---|-----------------------|---|-----------------------|---|---------------|
| 重点戦略 | 4 安全・安心戦略   | プロジェクト    | 3 暮らしの安全・安心向上プロジェクト  |   |                       |   |                       |   |               |
| 目標   | 交通事故や犯罪などの危険から県民が自ら身を守るとともに、地域が一体となって県民を守ることににより、誰もが安心して穏やかに暮らせる生活を確保します。 | 重点的<br>取組 | <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>交通安全意識の高揚と交通事故抑止対策の強化</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>犯罪の未然防止・検挙による安全な地域づくり</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>安全・安心な消費生活の確保</td> </tr> </table> | 1 | 交通安全意識の高揚と交通事故抑止対策の強化 | 2 | 犯罪の未然防止・検挙による安全な地域づくり | 3 | 安全・安心な消費生活の確保 |
| 1    | 交通安全意識の高揚と交通事故抑止対策の強化   |           |  |   |                       |   |                       |   |               |
| 2    | 犯罪の未然防止・検挙による安全な地域づくり   |           |  |   |                       |   |                       |   |               |
| 3    | 安全・安心な消費生活の確保   |           |  |   |                       |   |                       |   |               |

## 1 総合評価

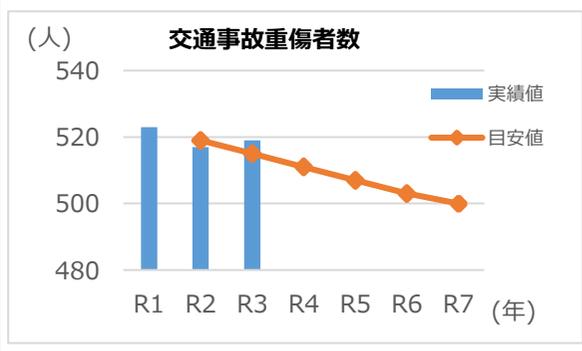
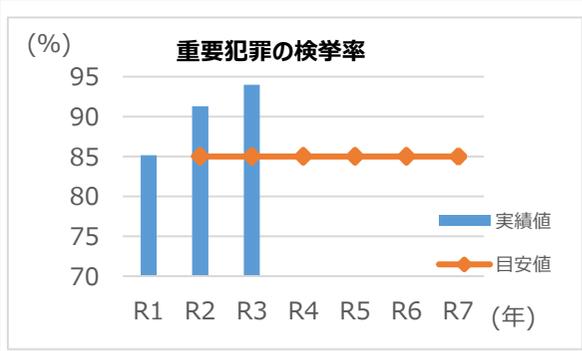
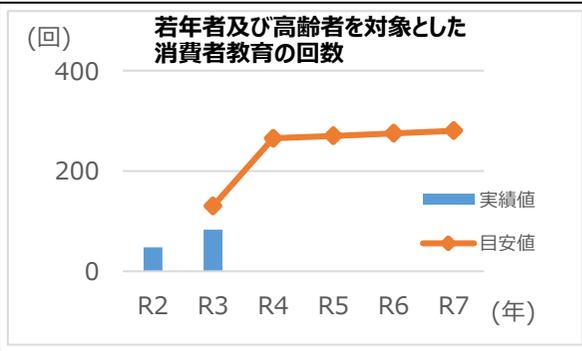
|  |   |
|--|---|
| <b>順調</b><br> | <p>成果指標及び取組指標は、目安値を概ね上回り順調である。</p> <p>「交通事故死者数」については、各種街頭・広報啓発活動や交通実態に即した交通指導取締り、交通規制の実施など総合的な交通事故抑止対策の推進により減少している。また、「刑法犯認知件数」についても、特殊詐欺抑止対策の推進及び車上ねらいの抑止・検挙両面からの各種取組等により減少している。これらの状況から、総合評価は順調と判断した。</p> |
|--|---|

## 2 成果指標の状況

|                               |  |               |               |               |               |               |                      |  |       |
|-------------------------------|--|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|--|-------|
| ① 交通事故死者数<br><br>出典：栃木県警察本部集計 | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |  <p>交通事故死者数 (人)</p> <p>実績値 (青い棒)、目安値 (オレンジの線)</p> <p>年: R1, R2, R3, R4, R5, R6, R7</p>  |       |
|                               | 目安値  | 82            | 80            | 79            | 78            | 77            | 76                   |  | 75    |
|                               | 実績値  | (人)           | 60            | 56            |               |               |                      |  |       |
|                               | 達成見込   |               | A             | A             |               |               |                      |  |       |
|                               | 全国順位   |               | 32位           | 32位           |               |               |                      |  |       |
| 要因分析等                         | <p>・各種街頭・広報啓発活動や交通実態に即した交通指導取締り、交通規制の実施等総合的な交通事故抑止対策を推進した結果、交通事故死者数が56人(前年比-4人)に減少したことなどが影響した。</p> |               |               |               |               |               |                      |  |       |
| ② 刑法犯認知件数<br><br>出典：栃木県警察本部集計 | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |  <p>刑法犯認知件数 (件)</p> <p>実績値 (青い棒)、目安値 (オレンジの線)</p> <p>年: R1, R2, R3, R4, R5, R6, R7</p> |       |
|                               | 目安値  | 11,155        | 10,625        | 10,100        | 9,575         | 9,050         | 8,525                |  | 8,000 |
|                               | 実績値  | (件)           | 9,059         | 9,027         |               |               |                      |  |       |
|                               | 達成見込   |               | A             | A             |               |               |                      |  |       |
|                               | 全国順位   |               | 31位           | 31位           |               |               |                      |  |       |
| 要因分析等                         | <p>・重点抑止犯罪に対する抑止・検挙の各種取組により、特殊詐欺が135件(前年比-69件)、車上ねらいが508件(前年比-294件)と大きく減少したことなどが影響した。</p>          |               |               |               |               |               |                      |  |       |

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|   |   |                   |               |               |               |                      |   |   |  |
|---|---|-------------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|---|---|--|
| ① 交通事故重傷者数<br>出典：栃木県警察本部集計                | 基準値<br>R 1<br>(2019)  | R 2<br>(2020)     | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025)  |  <p>交通事故重傷者数 (人)</p> <p>実績値 (青い棒)、目安値 (オレンジの線)</p> <p>R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7 (年)</p> |  |
|   | 目安値   | 523<br>(人)        | 519           | 515           | 511           | 507                  | 503   |   |  |
|   | 実績値   |                   | 517           | 519           |               |                      |   |   |  |
|   | 達成見込  |                   | A             | B             |               |                      |   |   |  |
| 要因分析等                                     | <p>・各種街頭・広報啓発活動等の総合的な交通事故抑止対策を推進し、高齢者以外の重傷者は314人（前年比-12人）と減少したが、高齢者の重傷者が205人（前年比+14人）に増加した。</p> |                   |               |               |               |                      |   |   |  |
| ② 重要犯罪の検挙率<br>出典：栃木県警察本部集計                | 基準値<br>H27-R1<br>(15-19)  | R 2<br>(2020)     | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025)  |  <p>重要犯罪の検挙率 (%)</p> <p>実績値 (青い棒)、目安値 (オレンジの線)</p> <p>R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7 (年)</p> |  |
|   | 目安値   | (平均)<br>85<br>(%) | 現状値（基準値）を上回る  |               |               |                      |   |   |  |
|   | 実績値   |                   | 91.3          | 94.1          |               |                      |   |   |  |
|   | 達成見込  |                   | A             | A             |               |                      |   |   |  |
| 要因分析等                                     | <p>・組織的捜査を推進した結果、重要犯罪6罪種のうち、殺人、強盗、略取誘拐の3罪種で100%を達成したことなどが影響し、前年に引き続き、90%を超える高い検挙率となった。</p>      |                   |               |               |               |                      |   |   |  |
| ③ 若年者及び高齢者を対象とした消費者教育の回数<br>出典：栃木県県民生活部集計 | 基準値<br>R 2<br>(2020)  | R 3<br>(2021)     | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |  <p>若年者及び高齢者を対象とした消費者教育の回数 (回)</p> <p>実績値 (青い棒)、目安値 (オレンジの線)</p> <p>R2 R3 R4 R5 R6 R7 (年)</p> |   |  |
|   | 目安値   | 47<br>(回)         | 130           | 265           | 270           | 275                  |   | 280   |  |
|   | 実績値   |                   | 83            |               |               |                      |   |   |  |
|   | 達成見込  |                   | B             |               |               |                      |   |   |  |
| 要因分析等                                     | <p>・感染症の影響により、高齢者向け講座が予定どおりに開催できず、開催回数が見込みを下回った。</p>  |                   |               |               |               |                      |   |   |  |

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①高齢者交通安全教育隊による街頭指導（R3:9,668回、前年比+5,974回）やスケアードストレイト方式による交通安全教育（R3:6回、816人）、悪質・危険な交通違反の取締りなどの総合的な交通事故抑止対策を推進した。
- ②株式会社サンリオのキャラクターを活用した広報啓発やとちぎテレビでの動画放映（R3:とちぎテレビで1日2回放映）、街頭指導取締りを推進し、ドライバーの歩行者保護意識の向上に努め、R3年度の「信号機のない横断歩道での一時停止率」の調査（日本自動車連盟）では、R2年度の14.2%（全国36位）から31.0%（全国22位）に上昇した。
- ③ドライバーに対して「ライト4（フォー）運動」や「夜間は原則ハイビーム」を呼びかける取組をツイッターや県警ホームページで配信し、夜間歩行中の交通事故抑止に努めた。
- ④自転車事故の防止及び被害者の保護を目的として、R3年12月に「栃木県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を制定し、その浸透を図るため、チラシ、ポスターの配布に加え、東京オリンピック・パラリンピックに出場した選手を起用したCMを作成してテレビ、Youtube等で発信したほか、警察、市町等と連携し広報啓発に取り組んだ。
- ⑤特殊詐欺抑止対策として、特殊詐欺被害防止コールセンターによる注意喚起、金融機関における水際対策の促進、防犯機能付き電話機の普及促進活動を推進した結果、R3年度の特種詐欺の認知件数は135件（前年比-69件）、被害総額は約2億7,137万円（前年比-約3,811万円）と減少した。
- ⑥車上ねらい被害に関し、検挙活動と並行した抑止対策として「おかない かけるくん」（車内に財布やバッグなどを「置かない」、車から離れる時は必ず「鍵をかける」）の四コマ漫画を広報紙やチラシに掲載するなどして県民の防犯意識の高揚を図り、R3年度の車上ねらいの認知件数は508件（前年比-294件）と減少した。
- ⑦県民及び県内企業のサイバーセキュリティ意識の高揚を図るため「栃木県サイバーセキュリティに関する相互協力協定」の参画企業等（4団体・8企業・4機関）と連携し、サイバー犯罪被害防止に係るセミナーの開催（R3:3回、430人）や広報資料の配付（R3:7種）など、広報啓発活動を推進した。
- ⑧第3次栃木県犯罪被害者等支援基本計画を踏まえ、被害後の経済的負担の軽減を図るため、犯罪被害者等に対する見舞金制度を開始した。県内市町においても見舞金制度の創設の動きが続き、被害者に寄り添った支援が進んでいる。（県内市町の見舞金制度：R3年度末時点8市町）
- ⑨成年年齢の引下げによる影響が大きい高校生や大学生等を対象に、R2年度に県が制作した消費者被害防止啓発映像を活用した講座等の実施や、弁護士などの専門家を派遣する講座の対象を新たに高校まで拡大するなど、教育委員会等と連携し実践的な消費者教育を推進した。（高校・大学等向け講座：37回）

#### <関連指標>

- ・交通事故死者数  
R3:56人（全国32位）
- ・高齢者の交通事故死者数  
R3:30人（全体の約53.6%）
- ・信号機のない横断歩道での一時停止率  
R3:31.0%（全国22位）
- ・夜間歩行中の交通事故死者数  
R3:5人（前年比-10人）
- ・特殊詐欺認知件数  
R3:135件（全国30位）
- ・特殊詐欺被害防止コールセンターによる注意喚起（R3:19万1,052件（1日平均約786件））
- ・サイバー犯罪に関する相談  
R3:2,708件（前年比+728件）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                          | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題   |
|--------------------------------|--|
| <p>1 交通安全意識の高揚と交通事故抑止対策の強化</p> | <p>＜栃木県警察DX施策＞～サイバー犯罪捜査の強化・デジタルフォレンジックの高度化～<br/>           ＜客観証拠の収集・デジタルフォレンジックの高度化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の交通事故死者数は4年連続で減少しているものの、R3年度の栃木県政世論調査では、交通事故の効果的な抑止対策として、過半数（55.9%）が「悪質・危険な違反の取締り」と回答しており、悪質・危険な運転者の早期検挙等が望まれている。現在、自動運転を始めとする科学技術の発展やドライブレコーダーの普及等が急速に進んでおり、悪質危険な運転者を検挙するためには、サイバー空間における客観証拠の収集や、デジタルフォレンジックの高度化が喫緊の課題である。</li> </ul> <p>＜自転車条例の普及啓発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車条例の内容を広く県民に浸透を図るため、警察、市町、学校等と連携し、効果的な広報啓発を推進していく必要がある。</li> </ul>   |
| <p>2 犯罪の未然防止・検挙による安全な地域づくり</p> | <p>＜栃木県警察DX施策＞～サイバー犯罪捜査の強化・デジタルフォレンジックの高度化～<br/>           ＜解析環境の高度化・捜査員の対処能力の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年中に県警に寄せられたサイバー相談は2,708件（前年比+728件）と4年連続で過去最多を更新している。感染症を契機として社会のデジタル化が進む中、国家を背景に持つ集団によるサイバー攻撃やサイバー犯罪における手口の悪質・巧妙化など、今や公共空間となったサイバー空間の情勢は極めて深刻で、その安全確保が急務である。今年度、国に設置されたサイバー警察局やサイバー特別捜査隊等と協働したサイバー捜査に資するためには、捜査に係る解析環境の高度化と捜査員の対処能力の向上が喫緊の課題である。</li> </ul> <p>＜安全で安心な地域づくりの推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童等や女性を対象とする声かけやつきまといといった不審者情報が後を絶たない中において、防犯ボランティアが減少しているほか、地域住民のつながりや交流が希薄化していることから、日常生活の中での見守りなど地域における防犯活動の強化や、自主的かつ継続的に防犯活動に取り組める環境づくりが必要である。</li> </ul> |
| <p>3 安全・安心な消費生活の確保</p>         | <p>＜若年者に対する消費者教育・啓発の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成年年齢の引下げにより、若年者における消費者被害の増加が懸念されることから、教育委員会等と連携し、高校生や大学生等に対する実践的な消費者教育や啓発を推進する必要がある。</li> </ul>  |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |   |        |  |
|------|---|--------|--|
| 重点戦略 | 5 地域・環境戦略   | プロジェクト | 1 ふるさとの魅力向上プロジェクト  |
| 目標   | ふるさととちぎへの愛着や誇りを醸成するとともに、東京オリンピック・パラリンピックやいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会などの機会をとらえ、とちぎの魅力を県内外に広く発信することにより、訪れたい、住みたい・住み続けたいとちぎづくりを推進します。 | 重点的取組  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 とちぎへの愛着や誇りの醸成と「栃木ファン」の創出・拡大</li> <li>2 新たな人の流れの創出や地域資源を生かした地域振興の促進</li> <li>3 「分散型社会」の構築促進</li> </ol> |

## 1 総合評価

|          |  |
|----------|--|
| 概ね<br>順調 | <p>成果指標について、「都道府県間人口移動数」は若年層をはじめとして大きく改善して目安値を上回った。</p> <p>取組指標について、「県民愛着度」は前年度より約1%下がり、男性若年層、県南地域等での停滞が見られた。「県及び市町で受けた移住相談件数」は前年度より大幅に増加したが、目安値を下回った。</p> <p>これら現状の指標から概ね順調と判断した。</p> |
|----------|--|

## 2 成果指標の状況

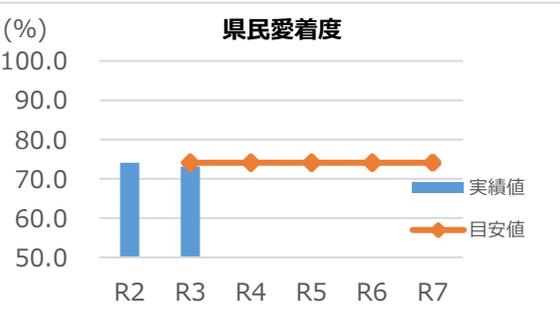
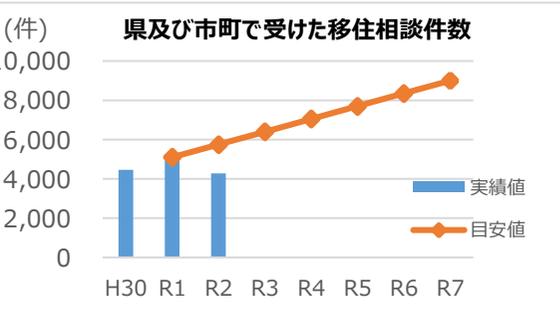
| ①都道府県間人口移動数（日本人） |  | 基準値<br>R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |
|------------------|--|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|
|                  | 目安値  | ▲3,518               | ▲3,225        | ▲2,932        | ▲2,639        | ▲2,345        | ▲2,052        | ▲1,759               |
|                  | 実績値  | (人)                  | ▲1,758        | ▲716          |               |               |               |                      |
| 達成見込             |  |                      | A             | A             |               |               |               |                      |
| 要因分析等            | <p>・引き続き、感染症の影響により、転出超過の改善が進んだ。特に、R 1と比較すると15～29歳の若者の改善幅が1,101人と大きく、そのうち女性の改善が865人を占めるなど、進学や就職等に伴う人の動きにも変化が生じつつある。</p> |                      |               |               |               |               |               |                      |

(人) 都道府県間人口移動数（日本人）

| 年度 | 実績値 (人) | 目安値 (人) |
|----|---------|---------|
| R1 | ▲3,518  | ▲3,518  |
| R2 | ▲1,758  | ▲3,225  |
| R3 | ▲716    | ▲2,932  |
| R4 |         | ▲2,639  |
| R5 |         | ▲2,345  |
| R6 |         | ▲2,052  |
| R7 |         | ▲1,759  |

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|  |   |                      |               |               |               |                      |   |                      |  |       |
|--|---|----------------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|---|----------------------|--|-------|
| ①県民愛着度<br><br>出典：県政世論調査                              | 基準値<br>R 2<br>(2020)  | R 3<br>(2021)        | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |  <p>県民愛着度</p> <p>(%)</p> <p>100.0<br/>90.0<br/>80.0<br/>70.0<br/>60.0<br/>50.0</p> <p>R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p>実績値 目安値</p> |                      |  |       |
|  | 目安値   | 74.1<br>(%)          | 上昇を<br>目指す    | →             |               |                      |   |                      |  |       |
|  | 実績値   |                      | 73.1          |               |               |                      |   |                      |  |       |
|  | 達成見込  |                      | C             |               |               |                      |   |                      |  |       |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛着がある」との回答割合は73.1%となっており、性別で大きな傾向の違いは見られないが、年齢別では男性20代の愛着度が50%台、男性30代と女性40代の愛着度が60%台に留まっている。</li> <li>・地域別では県南地域が70.6%と県央(75.7%)・県北(72.5%)より低い。</li> </ul> |                      |               |               |               |                      |   |                      |  |       |
| ②県及び市町で受けた<br>移住相談件数☆<br><br>出典：総務省「移住・定住に<br>関する調査」 | 基準値<br>H30<br>(2018)  | 現状値<br>R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023)        | R 6<br>(2024)   | 目標値<br>R 7<br>(2025) |  <p>県及び市町で受けた移住相談件数</p> <p>(件)</p> <p>10,000<br/>8,000<br/>6,000<br/>4,000<br/>2,000<br/>0</p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p>実績値 目安値</p> |       |
|  | 目安値   | 4,465<br>(件)         | 5,100         | 5,750         | 6,400         | 7,050                | 7,700   | 8,350                |  | 9,000 |
|  | 実績値   |                      | 5,068         | 4,278         | 5,388         |                      |   |                      |  |       |
|  | 達成見込  |                      | A             | C             | C             |                      |   |                      |  |       |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワークの普及・浸透や地方移住の意識の高まりに伴い、テレワーカーを中心に窓口での相談件数は増加した一方、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントでの相談件数が減少した結果、目標を下回った。</li> </ul>   |                      |               |               |               |                      |   |                      |  |       |

☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

## 4 主な取組成果

- ① 栃木ファンの創出・拡大のため「47（そこ）から始まるプロジェクト」を展開した。
  - ・ 3時のヒロイン出演によるYouTube 動画広告の配信：約 320 万回視聴（2本計）
  - ・ とちぎ未来大使（隈研吾氏）によるYouTube 動画の配信：約 14 万回視聴
  - ・ とちぎ未来大使（大島美幸氏）によるインタラクティブ動画「47 位（そこ）からの脱出クイズ」の配信：17 万人参加
- ② 県内の若年女性をターゲットに、インスタグラムを活用したとちぎ暮らし等の情報発信を促すキャンペーンを年3回実施した。
  - ・ フォロワー数：2,972 ・ハッシュタグ投稿数：約 22,000
- ③ 専用ウェブサイト「ベリーマッチとちぎ」を軸とした東京圏在住の若年層に向けたデジタル広告の発信やオンライン移住セミナーの開催、「とちぎ暮らし・しごと支援センター」におけるLINE を活用した情報配信等の実施により、本県への移住を促進した。
- ④ 個人向けに「お試しテレワーク」事業を実施したほか、R2.12 から移住支援金交付事業においてテレワークによる移住者も対象となったため、東京圏からのテレワーカーの移住を促進した。
  - ・ お試しテレワーク利用件数：6 件 ・移住支援金交付件数：74 件（うちテレワーク要件：55 件）
- ⑤ 県外向け広報紙「ふるさと“とちぎ”だより」を発行し、県外在住で本県ゆかりのとちぎ未来大使、栃木県人会員等の人脈や発信力を活用して、本県の魅力を全国に発信した。また、当該広報誌を栃木県公式ツイッター及びLINE により発信し、さらなる情報の拡散を図った。
  - ・ 年2回発行、各 20,000 部（Vol. 5 とちぎの日本遺産、Vol. 6 とちぎの地酒）
- ⑥ 都市農村交流施設や農業体験等の旬な情報の発信、季節毎の農村地域PR動画の首都圏を中心としたターゲット配信等により農村地域への誘客を促進した。
  - ・ ウェブサイト総PV数：171,370、総閲覧者数：85,148 人
  - ・ インスタグラムフォロワー数：1,979 人 ・農村地域PR動画再生数：約 338 万回
- ⑦ 国体・障スポ大会のシンボルとなる炬火トーチ・ミニ炬火台について、県民からの公募デザインを基に、県内企業の協力を得て、地域資源（大谷石）を活用して制作することにより地域の振興を図った。
- ⑧ R3年6月カンセキスタジアムとちぎで栃木県初となる女子サッカー国際親善試合日本代表 vs メキシコ代表を招致した。（観客数 3,890 人）
- ⑨ とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略（仮称）のR4年度策定に向け、庁内WGを開催した。

## <関連指標>

- ・ 県内大学・短大への進学者割合  
R2：27.3%→R3：27.8%
- ・ 県内大学生・短大生の県内就職率  
R2：44.5%→R3：47.2%
- ・ 都道府県間人口移動数（日本人）  
【15～29 歳】  
R2：▲2,681 人⇒ R3：▲1,960 人
- ・ 転入者数  
R2：30,080 人⇒ R3：30,533 人
- ・ 転出者数  
R2：31,838 人⇒ R3：31,249 人
- ・ 都市農村交流施設の利用者数  
R2：1,677 万人
- ・ デジタルスタンプラリー参加者数  
R2：2,641 人⇒ R3：1,888 人  
（R3は緊急事態宣言期間中一時中断）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                                | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |
|--------------------------------------|---|
| <p>1 とちぎへの愛着や誇りの醸成と「栃木ファン」の創出・拡大</p> | <p>＜県制 150 年を契機とした誇りの醸成や魅力の発信、若者の活躍促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R 5 年に県制 150 年の節目を迎えることから、この機を逃さず、改めて県民一人ひとりの「ふるさととちぎ」への愛着や誇りの醸成を図る必要があるとともに、今後のとちぎづくりの主役となる若者の更なる活躍を促すなど、未来のとちぎにつなげていく必要がある。</li> </ul> <p>＜ファンづくりのための継続的な仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いちご一会とちぎ国体」等を契機に拡大・獲得した「栃木ファン」の定着を図るため、継続的に有益な情報を発信し続ける必要がある。</li> <li>・ また、「栃木ファン」の更なる獲得のため、県産品等の磨き上げによるPR強化が必要である。</li> </ul>  |
| <p>2 新たな人の流れの創出や地域資源を生かした地域振興の促進</p> | <p>＜条件不利地における持続可能な特色ある農業モデルの創出＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中山間地域では、今後 30 年間で人口が半減する見込みで、農業従事者の高齢化も顕著であり、再生利用が困難な荒廃農地面積は、過去 5 か年で 76.1%（平場：8.3%）増加している。</li> <li>・ また、中山間地域は条件不利地が多いため、販売金額 1,000 万円以上の農業経営体の割合が低くなっている。</li> <li>・ 一方、コロナ禍等をきっかけとした、都市住民の農業・農村に対する期待や田園回帰志向が高まっている。</li> <li>・ これらの状況に的確に対応するためには、時代の潮流を好機と捉え、農地や地域資源を最大限活用した、新たな取組が必要である。</li> </ul> <p>＜スポーツの活用による地域活性化＞【1－3再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を契機としたスポーツへの関心の高まりや総合スポーツゾーンの整備を始めとするスポーツ施設の充実など、スポーツを通じた地域活性化を行う絶好の機会にあることから、国体等のレガシーを継承し、スポーツを活用した地域活性化に向けた取組を進めていく必要がある。</li> </ul> |
| <p>3 「分散型社会」の構築促進</p>                | <p>＜移住者を呼び込むきっかけづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症拡大をきっかけとしたテレワークの普及・浸透や、地方移住への意識の高まりを好機ととらえ、移住先として本県を選んでもらうきっかけづくりのため、居住を体験する機会を提供することが必要である。</li> <li>・ また、アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、オンラインと対面を効果的に併用したハイブリット形式でのセミナー等が必要である。</li> </ul>   |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |  |           |   |   |                      |   |                |   |          |
|------|--|-----------|---|---|----------------------|---|----------------|---|----------|
| 重点戦略 | 5 地域・環境戦略  | プロジェクト    | 2 暮らしやすい「まち」づくりプロジェクト   |   |                      |   |                |   |          |
| 目 標  | 地域の特性に応じた機能が集積したコンパクトな拠点の形成や公共交通サービスの確保・充実、地域間連携の促進により、持続可能でにぎわいのある誰もが暮らしやすい「まち」づくりを推進します。 | 重点的<br>取組 | <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>地域の特性に応じたコンパクトな拠点の形成</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>公共交通サービスの確保・充実</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地域間連携の促進</td> </tr> </table> | 1 | 地域の特性に応じたコンパクトな拠点の形成 | 2 | 公共交通サービスの確保・充実 | 3 | 地域間連携の促進 |
| 1    | 地域の特性に応じたコンパクトな拠点の形成   |           |   |   |                      |   |                |   |          |
| 2    | 公共交通サービスの確保・充実   |           |   |   |                      |   |                |   |          |
| 3    | 地域間連携の促進   |           |   |   |                      |   |                |   |          |

## 1 総合評価

|   |   |
|---|---|
| 概ね<br>順調<br> | <p>成果指標については、「住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思う県民の割合」が目安値を超えたが、感染症の影響もあり、「鉄道・バス等の利用者数」は前年度を下回った。</p> <p>取組指標については、「小さな拠点等取組件数」、「地域公共交通計画策定市町数」とも増加したが、ともに目安値には届かなかった。</p> <p>各指標に加え、地域共助型生活交通の立ち上げ等もあったことから、概ね順調と判断した。</p> |
|---|---|

## 2 成果指標の状況

|  |  |               |               |                           |               |               |                      |                      |  |
|--|--|---------------|---------------|---------------------------|---------------|---------------|----------------------|----------------------|--|
| ①住んでいる地域にこれからも住みたいと思う県民の割合<br><br>出典：栃木県「県政世論調査」 | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022)             | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |                      |  |
|  | 目安値  | 76.0          | 76.0          | 76.0                      | 76.0          | 76.0          | 76.0                 |                      |  |
|  | 実績値  | (%)           | 70.9          | 77.3                      |               |               |                      |                      |  |
|  | 達成見込   |               | C             | A                         |               |               |                      |                      |  |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女ともに「どちらともいえない」と回答する者が減少し、「やや住みたいと思う」と回答する者が増加したことにより、目安値を上回った。</li> <li>・30～40歳代の男性や20歳代の女性などで定住意向者（「住みたいと思う」、「やや住みたいと思う」）が増加した一方で、転出意向者（「あまり住みたいと思わない」、「住みたいと思わない」）の割合も増加しており、今後の状況を見極めていく必要がある。</li> </ul> |               |               |                           |               |               |                      |                      |  |
| ②鉄道・バス等の利用者数☆<br><br>出典：栃木県県土整備部集計               | 基準値<br>H29<br>(2017)   | H30<br>(2018) | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020)             | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023)        | 目標値<br>R 6<br>(2024) |  |
|  | 目安値  | 23.6          | 23.7          | 現状値(H30: 23.6(万人/日))を上回る* |               |               |                      |                      |  |
|  | 実績値  | (万人/日)        | 23.6          | 22.8                      | 15.7          |               |                      |                      |  |
|  | 達成見込   |               | C             | C                         | C             |               |                      |                      |  |
| 要因分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症拡大の影響を受け、公共交通利用者数が大幅に減少した。</li> <li>* 新型コロナウイルス感染症の状況や影響を踏まえ目標値の見直しを行う。</li> </ul>  |               |               |                           |               |               |                      |                      |  |

☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|   |  |               |               |               |               |               |                      |                      |                       |    |
|---|--|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|----------------------|-----------------------|----|
| ①小さな拠点等取組件数(累計)☆<br><br>出典：栃木県総合政策部<br>集計 | 基準値<br>H30<br>(2018)                           | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024)        | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <p>小さな拠点等取組件数(累計)</p> |    |
|   | 目安値  | 14<br>(件)     | 20            | 25            | 30            | 35            | 40                   | 43                   |                       | 45 |
|   | 実績値  |               | 19            | 22            | 24            |               |                      |                      |                       |    |
|   | 達成見込   |               | A             | B             | B             |               |                      |                      |                       |    |
| 要因分析等                                     | ・感染症の拡大により、関係者の合意形成のための活動が制限されたこと等により目安値を下回った。 |               |               |               |               |               |                      |                      |                       |    |
| ②地域公共交通計画策定市町数<br><br>出典：栃木県県土整備部<br>集計   | 基準値<br>R 1<br>(2019)                           | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) | <p>地域公共交通計画策定市町数</p> |                       |    |
|   | 目安値  | 0<br>(市町)     | 3             | 13            | 15            | 17            | 25                   |                      | 25                    |    |
|   | 実績値  |               | 3             | 11            |               |               |                      |                      |                       |    |
|   | 達成見込   |               | A             | A             |               |               |                      |                      |                       |    |
| 要因分析等                                     | ・地域公共交通会議等において市町に対する必要な助言を行い、計画策定が順次進められている。   |               |               |               |               |               |                      |                      |                       |    |

☆は、とちぎ創生15戦略(第2期)においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①地域コミュニティの維持・再生を図るための「小さな拠点」の形成を支援した。
  - ・ 16 市町、計 24 件実施中（R 4. 3. 31 現在）
- ②住民自らが主体となって取り組む地域づくり活動や、複数の市町が連携した取組に対して支援する「わがまちつながり構築事業」を実施した。
  - ・ 交付決定：単独事業 50 件、連携事業 4 件
- ③地域の新たな担い手となる人材を掘り起こし、育成する「地域づくり担い手育成事業」を実施した。
- ④地域における持続可能な生活交通の確保を図るため、民間バス事業者及び市町に対する運行支援、各市町の地域公共交通会議等における助言等を行った。
  - ・ R 3 運行支援：3 事業者、11 市町
  - ・ R 3 各市町地域公共交通会議等出席回数：69 回
- ⑤コミュニティバスの運行情報がインターネット経路検索サービスに対応できるよう、G T F S<sup>\*</sup>整備に係る市町への助言等を行った。
  - ※G T F S：世界的な交通データフォーマット
  - ・ R 3 データ整備完了：1 市
- ⑥公共交通のバリアフリー化を推進するため、鉄道駅のエレベーター設置等に向けた実施設計に要する費用の助成を行った。
  - ・ R 3 助成実績：1 件
- ⑦矢板市において検討が進められてきた地域共助型生活交通について、市や関係団体へ技術的支援を行い、R 3 年 9 月に県内で初めて地域共助型生活交通「コリンタ号」の運行が開始された。
  - ・ R 3 運行開始：1 件
- ⑧栃木県まちなか元気会議の活動を通じた、まちづくり研修会、ワークショップ等を開催し、官民連携まちづくりへの取組を支援した。
  - ・ 官民連携まちづくり：4 市

#### <関連指標>

- ・ 公共交通の人口カバー率  
R 元：93.5%→R 2：94.3%
- ・ 乗合バスの G T F S 整備率  
R 元：57.2%  
R 2：75.1%  
R 3：75.3%
- ・ 鉄道駅のバリアフリー化率  
R 元：32.5%→R 3：33.3%
- ・ 乗合バスの I C カード導入率  
R 元：6.3%  
R 2：67.5%  
R 3：67.5%

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                         | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |
|-------------------------------|---|
| <p>1 地域の特性に応じたコンパクトな拠点の形成</p> | <p>&lt;「小さな拠点」の形成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子・高齢化が加速し、人口減少を迎える中、地域では日常生活に必要な様々なサービスを受けることが難しくなるなどの深刻な影響が出ており、この傾向は中山間地域で特に顕著である。地域や集落を維持・存続させるため、地域住民が主体となって地域課題の解決に取り組むことが必要である。</li> </ul> <p>&lt;地域の特色を活かした地域づくり活動の促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民自らの発案による主体的な地域づくりや、市町の枠を超えた広域的な取組により、地域の自立・活性化・持続的発展を図ることが必要である。</li> </ul> |
| <p>2 公共交通サービスの確保・充実</p>       | <p>&lt;持続可能な公共交通サービスの提供の確保&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症の感染拡大と長期化による影響を受け、コロナ禍以前から減少傾向にあった公共交通利用者数は大幅に減少した。社会経済活動のオンライン化が進み、人の移動を伴わない生活様式が浸透、定着しつつある中、公共交通サービスを確保していくためには、このような社会情勢の大きな変化を踏まえながら検討を進める必要がある。</li> </ul>  |
| <p>3 地域間連携の促進</p>             | <p>&lt;県と市町の連携・協働による重要課題への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減少・少子高齢化が進み、東京圏への転出超過にも歯止めがかからない状況が続く中、県と市町が適切な役割分担のもと、連携・協働して課題解決に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>   |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

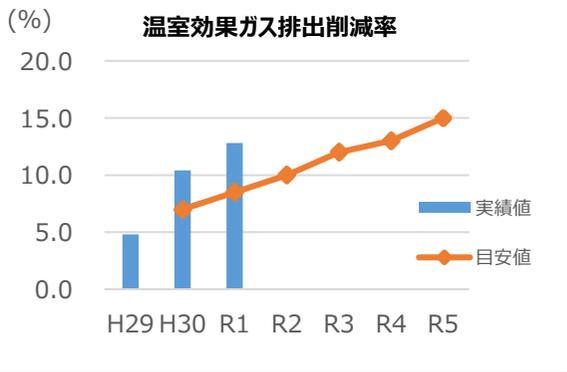
|      |   |        |  |   |                           |   |                     |   |         |   |                |
|------|---|--------|--|---|---------------------------|---|---------------------|---|---------|---|----------------|
| 重点戦略 | 5 地域・環境戦略   | プロジェクト | 3 環境にやさしい持続可能な地域づくりプロジェクト  |   |                           |   |                     |   |         |   |                |
| 目標   | 温室効果ガスの排出を実質ゼロにする脱炭素社会の構築や資源循環の推進などによる環境負荷の低減、豊かな自然環境の保全・活用など、環境にやさしい持続可能なとちぎづくりを推進します。 | 重点的取組  | <table border="1"> <tr><td>1</td><td>地域資源を生かした自立・分散型エネルギー社会の構築</td></tr> <tr><td>2</td><td>気候変動による影響に対する適応策の推進</td></tr> <tr><td>3</td><td>資源循環の推進</td></tr> <tr><td>4</td><td>人と自然が共生する地域づくり</td></tr> </table> | 1 | 地域資源を生かした自立・分散型エネルギー社会の構築 | 2 | 気候変動による影響に対する適応策の推進 | 3 | 資源循環の推進 | 4 | 人と自然が共生する地域づくり |
| 1    | 地域資源を生かした自立・分散型エネルギー社会の構築   |        |  |   |                           |   |                     |   |         |   |                |
| 2    | 気候変動による影響に対する適応策の推進   |        |  |   |                           |   |                     |   |         |   |                |
| 3    | 資源循環の推進   |        |  |   |                           |   |                     |   |         |   |                |
| 4    | 人と自然が共生する地域づくり  |        |  |   |                           |   |                     |   |         |   |                |

## 1 総合評価

|  |  |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">概ね<br/>順調</p>  | <p>成果指標「温室効果ガス排出削減率」は、省エネルギー対策の浸透や再生可能エネルギーの導入拡大、電力の脱炭素化等により目安値を達成したが、県はR4年3月に「2050年とちぎカーボンニュートラル実現に向けたロードマップ」を策定したところであり、2030年度の温室効果ガス排出目標（2013年度比50%減）達成に向けて、更なる取組強化が必要である。</p> <p>一方、取組指標においては、「適応策・適応ビジネス等の創出支援件数」、「とちの環エコ製品の認定件数」及び「里山林整備面積」は目安値不達であり、外来種被害も増加している。以上から、総合評価は概ね順調と判断した。</p> |
|--|--|

## 2 成果指標の状況

| ①温室効果ガス排出削減率<br>(2013年度比)<br>出典：栃木県環境森林部集計 |  | 基準値<br>H29<br>(2017) | H30<br>(2018) | R1<br>(2019) | R2<br>(2020) | R3<br>(2021) | R4<br>(2022) | 目標値<br>R5<br>(2023) |
|--|--|----------------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|
|  | 目安値  | 4.8 (%)              | 7.0           | 8.5          | 10.0         | 12.0         | 13.0         | 15.0                |
|  | 実績値  |                      | 10.4          | 12.8         |              |              |              |                     |
| 達成見込                                       |  |                      | A             | A            |              |              |              |                     |
| 要因分析等                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・LED化など省エネルギー対策の浸透や太陽光発電設備の設置など再生可能エネルギーの導入拡大により、系統電力使用量が減少した。</li> <li>・電力のCO<sub>2</sub>排出係数 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) が低下した。<br/>(H29 : 0.462 → R1 : 0.441)</li> </ul> |                      |               |              |              |              |              |                     |



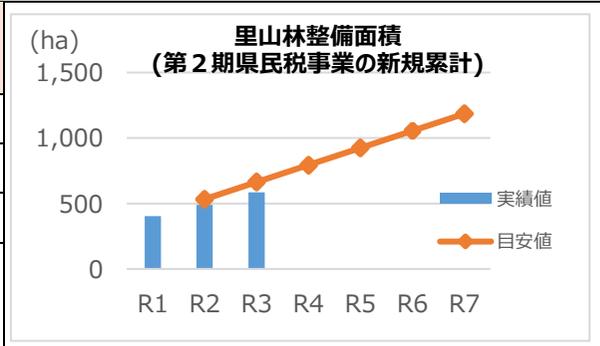
温室効果ガス排出削減率

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|  |  |               |               |                          |                          |                          |                                 |                           |      |
|--|--|---------------|---------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------------|---------------------------|------|
| ①電力自給率<br><br>出典：栃木県環境森林部集計              | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022)            | R 5<br>(2023)            | R 6<br>(2024)            | 目標値<br>R 7<br>(2025)            | <p>電力自給率</p>              |      |
|  | 目安値  | 40.3<br>(%)   | 70.0          | 73.0                     | 76.0                     | 79.0                     | 82.0                            |                           | 85.0 |
|  | 実績値  |               | 77.8          | 9月公表                     |                          |                          |                                 |                           |      |
|  | 達成見込   |               | A             |                          |                          |                          |                                 |                           |      |
| 要因分析等                                    | <p>・清原スマートエネルギーセンター（3万kw）や、（株）コベルコパワー真岡発電所（124.8万kw）が稼働したことにより、電力自給率は増加している。</p>   |               |               |                          |                          |                          |                                 |                           |      |
| ②適応策・適応ビジネス等の創出支援件数<br><br>出典：栃木県環境森林部集計 | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(R3-R4)<br>(2022) | R 5<br>(R3-R5)<br>(2023) | R 6<br>(R3-R6)<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(R3-R7)<br>(2025) | <p>適応策・適応ビジネス等の創出支援件数</p> |      |
|  | 目安値  | 0<br>(件)      | —             | 6                        | 9                        | 12                       | 14                              |                           | 15   |
|  | 実績値  |               | —             | 4                        |                          |                          |                                 |                           |      |
|  | 達成見込   |               | —             | B                        |                          |                          |                                 |                           |      |
| 要因分析等                                    | <p>・R3年7月に設置した「とちぎ気候変動対策連携フォーラム」やコーディネーターによる支援活動等により、一定の効果が図られた。</p>   |               |               |                          |                          |                          |                                 |                           |      |
| ③「とちの環エコ製品」の認定件数<br><br>出典：栃木県環境森林部集計    | 基準値<br>R 1<br>(2019)   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022)            | R 5<br>(2023)            | R 6<br>(2024)            | 目標値<br>R 7<br>(2025)            | <p>「とちの環エコ製品」の認定件数</p>    |      |
|  | 目安値  | 119<br>(件)    | 122           | 125                      | 128                      | 131                      | 134                             |                           | 137  |
|  | 実績値  |               | 115           | 109                      |                          |                          |                                 |                           |      |
|  | 達成見込   |               | C             | C                        |                          |                          |                                 |                           |      |
| 要因分析等                                    | <p>・感染症感染拡大により認定対象製品を製造している可能性がある企業への周知活動が思うようにできず、新規認定数が伸びなかった。<br/>・また、認定製品の統廃合等による認定辞退もあり、全体として認定件数が減少した。（R3：新規1件、辞退7件）</p> |               |               |                          |                          |                          |                                 |                           |      |

| ④里山林整備面積(第2期県民税事業の新規累計) | 基準値   | R 2    | R 3    | R 4    | R 5    | R 6    | 目標値        |       |
|-------------------------|---|--------|--------|--------|--------|--------|------------|-------|
|                         | R 1 (2019)  | (2020) | (2021) | (2022) | (2023) | (2024) | R 7 (2025) |       |
|                         | 目安値   | 403    | 533    | 664    | 794    | 925    | 1,055      | 1,185 |
|                         | 実績値   | (ha)   | 489    | 584    |        |        |            |       |
| 出典：栃木県環境森林部集計           | 達成見込  |        | B      | B      |        |        |            |       |
| 要因分析等                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症感染拡大により、森づくり活動団体が活動を自粛するなどの影響を受け、実績値が伸び悩んでいる。</li> </ul> |        |        |        |        |        |            |       |



※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 -：実績がない等のため評価ができないもの

## 4 主な取組成果

- ① R4年3月に「2050年とちぎカーボンニュートラル実現に向けたロードマップ」を策定し、各分野の削減目標及び取組等を示し、オールとちぎでの総合的な対策を行うこととした。
- ② 県有施設の省エネルギー化を推進するため、河内庁舎など7施設においてLED照明機器への改修工事を実施した。
- ③ R3年7月に「産学官金」の連携による「とちぎ気候変動対策連携フォーラム」を設置したほか、気候変動対策に資する新たな取組や製品開発等に対する補助制度を創設し、気候変動が経営に及ぼす影響についての理解促進と気候変動対策ビジネスの促進を図った。
- ④ 環境に配慮したいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催に向け、関係各課との連携による企業の商品開発の支援や県民参加によるスポーツGOMI拾い大会の実施、冬季大会におけるガイドブックの電子化による紙使用の削減や袋類などの脱プラスチック化などに加え、賞状等に森林認証紙を活用した。
- ⑤ プラごみ削減について、啓発する対象を絞った各種事業を展開するとともに、食ロス削減について、広報活動等を実施するなど、県民の3R（リユース、リデュース、リサイクル）+3R（リシンク、リフューズ、リファイン）に係る意識の向上を図った。
  - ・エコたび栃木プロジェクト事業 参加小学校 89校 4700名
  - ・スポーツGOMI拾い大会 1回開催（45チーム 163名参加）
- ⑥ 県民に対する廃棄物処理施設の理解促進事業や栃木県リサイクル施設立地促進連絡会議を開催し、廃棄物処理施設・リサイクル施設の立地促進を図った。
  - ・環境学習出前授業 13校 783名（オンライン実施の1校を含む。）
- ⑦ 外来種対策を以下のとおり推進した。
  - ・ R3年3月に定めた「栃木県外来種対策方針」に基づき、優先対策種等を選定
  - ・ 優先対策種に関して、対策目標と対策時期の見込みをアクションプランで明確化
  - ・ 庁内関係課、県内全市町により構成される栃木県外来種被害対策協議会を設立し、連携体制を確立
- ⑧ 市町が行うシカやイノシシの捕獲への支援や県自らの捕獲を強化するとともに、有害捕獲を通年化することで、シカの捕獲数は増加し、生息数は減少傾向となった（イノシシ捕獲数は減）。
  - ・ シカ：15,720頭（R2は11,718頭） イノシシ：4,747頭（R2は11,252頭）

## <関連指標>

- ・ 次世代自動車新車購入率  
R元：32.6% R2：32.3%
- ・ 県内の産業団地等におけるリサイクル施設の立地件数  
R2：80件 ⇒ R3：80件
- ・ クビアカツヤカミキリによる被害公園、住宅地等における被害木数（累計）  
H29：8本  
→R3：2,239本  
被害市町の推移  
H29：2市（足利市、佐野市）  
→R3：6市町（足利市、佐野市、栃木市、小山市、壬生町、野木町）
- ・ 野生鳥獣による農林業被害額  
R元：4.2億円  
R2：3.8億円  
R3：3.5億円

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                              | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題  |            |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
|------------------------------------|---|------------|-------------------------|------------|------|-----|---|------|-----|--------|------|----|------|------|---|---|------|-------------------------|------------|------|-----|---|------|-----|-------|------|-----|------|------|---|---|------|-------------------------|------------|------|-----|---|------|-----|--------|------|-----|------|------|---|---|------|-------------------------|------------|------|-----|---|------|-----|--------|------|-----|------|------|---|---|
| <p>1 地域資源を生かした自立・分散型エネルギー社会の構築</p> | <p>&lt;2050年カーボンニュートラル実現のためのCO<sub>2</sub>排出量の削減促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度削減目標▲50%（2013年度比）達成に向けて、各分野の取組を推進する必要がある。</li> <li>・特に家庭分野においては、2030年度削減目標が▲72%（2013年度比）と分野別で最も高いにもかかわらず、直近の2019年度は全国平均と比較して削減が遅れていることから（県▲17.4%、全国▲23.2%）重点的に取り組む必要がある。</li> <li>・また、交通分野においては排出量が多いにもかかわらず、2019年度排出量は2013年度比▲9.2%（産業分野は▲14.5%）に留まっており、2030年度削減目標▲46%に対して、削減量は大きく不足している。</li> <li>・このため、家庭、交通分野における排出量削減について、重点的に取り組む必要がある。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>削減シナリオ（家庭分野）</b></p> <table border="1"> <caption>削減シナリオ（家庭分野）</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Emissions (10,000 tons)</th> <th>Change (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2013</td> <td>316</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>261</td> <td>▲17.4%</td> </tr> <tr> <td>2030</td> <td>88</td> <td>▲72%</td> </tr> <tr> <td>2050</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>削減シナリオ（交通分野）</b></p> <table border="1"> <caption>削減シナリオ（交通分野）</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Emissions (10,000 tons)</th> <th>Change (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2013</td> <td>465</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>422</td> <td>▲9.2%</td> </tr> <tr> <td>2030</td> <td>251</td> <td>▲46%</td> </tr> <tr> <td>2050</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>削減シナリオ（産業分野）</b></p> <table border="1"> <caption>削減シナリオ（産業分野）</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Emissions (10,000 tons)</th> <th>Change (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2013</td> <td>574</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>491</td> <td>▲14.5%</td> </tr> <tr> <td>2030</td> <td>335</td> <td>▲42%</td> </tr> <tr> <td>2050</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>削減シナリオ（業務分野）</b></p> <table border="1"> <caption>削減シナリオ（業務分野）</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Emissions (10,000 tons)</th> <th>Change (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2013</td> <td>343</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>252</td> <td>▲26.5%</td> </tr> <tr> <td>2030</td> <td>109</td> <td>▲68%</td> </tr> <tr> <td>2050</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p><b>【家庭分野】</b>（2019年度排出量 261万t）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで「COOL CHOICE とちぎ」県民運動など、普及啓発により県民の脱炭素型ライフスタイルへの転換を図ってきたが、大幅な削減を達成するには、普及啓発に加え、省エネ家電化や照明のLED化、太陽光発電設備の設置等による住宅のゼロ・エネルギー（ZEH）化に向けて、取組を加速させる必要がある。</li> </ul> | Year       | Emissions (10,000 tons) | Change (%) | 2013 | 316 | - | 2019 | 261 | ▲17.4% | 2030 | 88 | ▲72% | 2050 | 0 | - | Year | Emissions (10,000 tons) | Change (%) | 2013 | 465 | - | 2019 | 422 | ▲9.2% | 2030 | 251 | ▲46% | 2050 | 0 | - | Year | Emissions (10,000 tons) | Change (%) | 2013 | 574 | - | 2019 | 491 | ▲14.5% | 2030 | 335 | ▲42% | 2050 | 0 | - | Year | Emissions (10,000 tons) | Change (%) | 2013 | 343 | - | 2019 | 252 | ▲26.5% | 2030 | 109 | ▲68% | 2050 | 0 | - |
| Year                               | Emissions (10,000 tons)   | Change (%) |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2013                               | 316   | -          |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2019                               | 261   | ▲17.4%     |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2030                               | 88  | ▲72%       |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2050                               | 0   | -          |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| Year                               | Emissions (10,000 tons)   | Change (%) |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2013                               | 465   | -          |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2019                               | 422   | ▲9.2%      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2030                               | 251   | ▲46%       |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2050                               | 0   | -          |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| Year                               | Emissions (10,000 tons)   | Change (%) |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2013                               | 574   | -          |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2019                               | 491   | ▲14.5%     |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2030                               | 335   | ▲42%       |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2050                               | 0   | -          |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| Year                               | Emissions (10,000 tons)   | Change (%) |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2013                               | 343   | -          |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2019                               | 252   | ▲26.5%     |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2030                               | 109   | ▲68%       |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |
| 2050                               | 0   | -          |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |    |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |       |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |      |                         |            |      |     |   |      |     |        |      |     |      |      |   |   |

1 地域資源を生かした自立・分散型エネルギー社会の構築

【交通分野】（2019年度排出量 422万t）

・車社会である本県においては、排出量の30%を交通分野が占めており、また、国を超える削減目標（国▲35%、本県▲46%）を掲げているが、電動車への転換が進んでいないことから、効果的な普及促進策が必要である。

※乗用車（2030年 電動車割合（保有） 60%（現状16%））

・バス・トラックなどの商用車の電動化に向けては、国産車両がないことや車両価格が高い（ディーゼル車の2倍以上）など、根本的な課題があることから、こうした課題解決に向けて、事業者と連携しながら、研究を進める必要がある。

【産業・業務分野】（2019年度排出量 産業：491万t、業務：252万t）

・これまで省CO<sub>2</sub>設備導入への補助や脱炭素ガイドブックによる普及啓発強化により、中小企業等の脱炭素化を支援してきたところであるが、製造業に対するアンケートでは、「検討を含め取組を行っていない」と回答した中小企業が3割存在することを踏まえ、対策を更に強化していく必要がある。

・また、産業分野の排出量の8割を占める大規模排出事業者に対しても、自主的削減を加速させる対策を講じていく必要がある。

<とちぎゼロカーボン農業の実現に向けた取組の推進>

・農業分野においては、今後、関係機関等と連携しながら取り組んでいく必要がある。

○農林水産業からの温室効果ガス排出量

<エネルギー分野>

施設園芸等の排出量：15万t以上

本県の加温設備のうちの化石燃料を使用している施設の割合：86.9%

※ウォーターカーテンを除く

<非エネルギー分野> 83.0万t

うち水田由来 22.5万t

うち牛ゲップ由来 27.7万t

<カーボンニュートラル実現に向けた県庁率先の取組>

・「2050年とちぎカーボンニュートラル実現に向けたロードマップ」に掲げた「とちぎ県庁ゼロカーボンプロジェクト」において、国の目標を上回る▲80%という意欲的な目標を設定したところであり、この目標達成に向けて、中間目標や具体的な取組を盛り込んだアクションプランを策定し、県庁率先の取組をハード面、ソフト面の両面から、計画的に進める必要がある。

<自立・分散型エネルギーの促進>

・地球温暖化等による災害の激甚化に対応するため、災害時でも自立可能なエネルギーを確保するなど、自立・分散型エネルギーの拡大を図る必要がある。

|                              |  |
|------------------------------|--|
| <p>2 気候変動による影響に対する適応策の推進</p> | <p>&lt;「COOL CHOICE とちぎ」県民運動の推進強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民一人ひとりが身近にできることを知り、行動変容を促すため、その成果や対策について、県HPやSNS等を活用し広く情報発信を行っているが、より一層の危機意識の醸成、「COOL CHOICE とちぎ」認知度向上、気候変動に適応するための分かりやすい解決策の提案などを行い、県民の行動変容促進を図っていく必要がある。</li> </ul>   |
| <p>3 資源循環の推進</p>             | <p>&lt;ライフスタイル全体での資源循環の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天然資源の消費抑制や最終処分量の削減を図るため、生産段階や使用段階などで資源が循環する仕組みを構築することが必要である。</li> <li>・両大会（国体、障スポ）において環境配慮に取り組んだ成果を、レガシーとして今後の各種イベントなどに反映させていく必要がある。</li> </ul>  |
| <p>4 人と自然が共生する地域づくり</p>      | <p>&lt;外来種対策の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年々本県における外来種が増加及び増加に伴い様々な被害が拡大している。<br/>※クビアカツヤカミキリ（サクラ・ウメ等）による被害地域の拡大、被害木の増大は喫緊の課題であり、早期に抑制することが必要である。<br/>また、トチノキ等を食害するツヤハダゴマダラカミキリが茨城県、福島県、埼玉県で確認されており、本県でも対策を検討することが必要である。</li> <li>・現在は、被害が生じたら対応する「対症療法」に取り組んでいるが、本来は「予防策」を講じ、被害を未然に防ぐことが重要あり、そのためには、外来種の生息地、被害状況等を速やかに把握する必要がある。</li> <li>・行政のみの対応には限界があり、県民の行動変容を促すことが重要であるが、県民が外来種を同定することは容易ではなく、また、自発的に行動するほどの関心もないと考えられることから、これらの解決手法を検討する必要がある。</li> </ul> <p>&lt;野生獣被害対策の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲、防護、環境整備を組み合わせた総合的な対策を地域ぐるみで実施していくことが重要であり、引き続き住民主体の取組を推進していく必要がある。</li> <li>・増大・多様化する木材需要に応え、森林の若返りを進めるためには皆伐施業の促進が重要であるが、皆伐に伴い増加する新植地での野生獣被害対策を強化していく必要がある。</li> </ul> |

# 「とちぎ未来創造プラン」プロジェクト評価シート

|      |  |           |  |   |                      |   |                          |   |              |   |               |
|------|--|-----------|--|---|----------------------|---|--------------------------|---|--------------|---|---------------|
| 重点戦略 | 5 地域・環境戦略  | プロジェクト    | 4 未来技術を活用した新しいとちぎづくりプロジェクト   |   |                      |   |                          |   |              |   |               |
| 目標   | Society5.0の実現に向け、未来技術を活用し、県内経済の発展と地域課題の解決を両立できるとちぎづくりを推進します。 | 重点的<br>取組 | <table border="1"> <tr><td>1</td><td>未来技術の積極的な活用に向けた環境づくり</td></tr> <tr><td>2</td><td>地域の課題解決に向けた未来技術の活用に対する支援</td></tr> <tr><td>3</td><td>デジタル人材の確保・育成</td></tr> <tr><td>4</td><td>デジタル・ガバメントの推進</td></tr> </table> | 1 | 未来技術の積極的な活用に向けた環境づくり | 2 | 地域の課題解決に向けた未来技術の活用に対する支援 | 3 | デジタル人材の確保・育成 | 4 | デジタル・ガバメントの推進 |
| 1    | 未来技術の積極的な活用に向けた環境づくり   |           |  |   |                      |   |                          |   |              |   |               |
| 2    | 地域の課題解決に向けた未来技術の活用に対する支援                                     |           |  |   |                      |   |                          |   |              |   |               |
| 3    | デジタル人材の確保・育成   |           |  |   |                      |   |                          |   |              |   |               |
| 4    | デジタル・ガバメントの推進  |           |  |   |                      |   |                          |   |              |   |               |

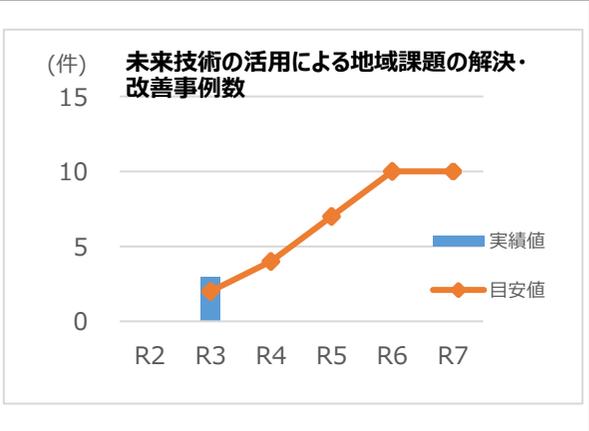
## 1 総合評価

|   |  |
|---|--|
| 概ね<br>順調<br> | <p>「とちぎデジタルハブ」の構築やDX研修を通じたデジタル人材の育成、行政手続きのオンライン化の推進など、デジタルを活用して多様な課題解決ができる環境が整いつつある。</p> <p>また、取組指標が4指標すべてで目安値を達成するとともに、デジタルを活用して地域課題解決につなげる仕組みである「とちぎデジタルハブ」の開設等に取り組んだところであるが、Society5.0の実現に向けた未来技術の活用等には、更なる取組が必要であることから、総合的な評価は「概ね順調」と判断した。</p> |
|---|--|

## 2 成果指標の状況

| ①未来技術の活用による地域課題の解決・改善事例数* |   | 基準値<br>R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値<br>R 7<br>(2025) |
|---------------------------|---|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|
|                           | 目安値   | —                    | 2             | 4             | 7             | 10            | 10以上                 |
| 実績値                       | (件)   | 3                    |               |               |               |               |                      |
| 達成見込                      |   | A                    |               |               |               |               |                      |
| 出典：栃木県総合政策部集計             | 全国順位  |                      |               |               |               |               |                      |
| 要因分析等                     | <p>・アプリを活用した路線バス等のモバイル定期券等導入など、デジタル技術を活用して、地域課題を解決する機運の高まり等により、地域課題の解決・改善事例数は目安値を超えた。</p> |                      |               |               |               |               |                      |

(件) 未来技術の活用による地域課題の解決・改善事例数

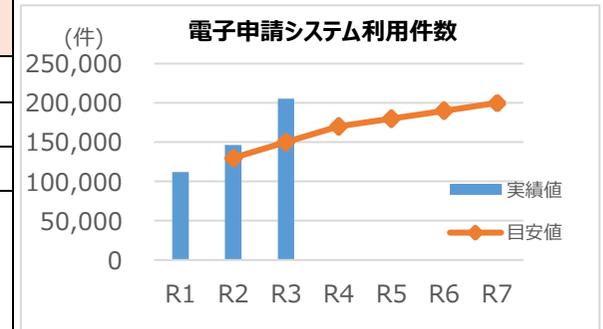


※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

### 3 取組指標の状況

|   |   |               |               |               |               |               |               |               |               |  |
|---|---|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--|
| ①未来技術を活用し地域課題の解決・改善に取り組む市町数☆            | 基準値   | R 1<br>(2019) | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値           | R 7<br>(2025) |  |
|   | 目安値   | 7             | 10            | 14            | 19            | 22            | 25            | 25            |               |  |
|   | 実績値   | (市町)          | 14            | 16            |               |               |               |               |               |  |
|   | 達成見込  |               | A             | A             |               |               |               |               |               |  |
| 出典：栃木県総合政策部集計                           |   |               |               |               |               |               |               |               |               |  |
| 要因分析等                                   | <p>・DX研修やデジタル活用人材育成事業等により、職員の意識変革が進むとともに、市町の未来技術の活用を支援する補助金等により地域課題の解決・改善に取り組む市町数が増加した。</p> |               |               |               |               |               |               |               |               |  |
| ②地域課題を未来技術で解決するデジタルハブで取り組む地域課題解決プロジェクト数 | 基準値   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値           | R 7<br>(2025) |               |  |
|   | 目安値   | —             | 6             | 10            | 15            | 17            | 20            |               |               |  |
|   | 実績値   | (件)           | 7             |               |               |               |               |               |               |  |
|   | 達成見込  |               | A             |               |               |               |               |               |               |  |
| 出典：栃木県総合政策部集計                           |   |               |               |               |               |               |               |               |               |  |
| 要因分析等                                   | <p>・R3年10月に「とちぎデジタルハブ」を開設し、県民や市町、団体等から課題が投稿され、林業従事者の安全確保プロジェクトなど複数のプロジェクトが進行している。</p>       |               |               |               |               |               |               |               |               |  |
| ③AI人材育成研修受講者数                           | 基準値   | R 2<br>(2020) | R 3<br>(2021) | R 4<br>(2022) | R 5<br>(2023) | R 6<br>(2024) | 目標値           | R 7<br>(2025) |               |  |
|   | 目安値   | —             | 90            | 90            | 90            | 100           | 100           |               |               |  |
|   | 実績値   | (人)           | 85            |               |               |               |               |               |               |  |
|   | 達成見込  |               | A             |               |               |               |               |               |               |  |
| 出典：栃木県産業労働観光部集計                         |   |               |               |               |               |               |               |               |               |  |
| 要因分析等                                   | <p>・基礎研修、エンジニア研修共に、おおむね受講者の目標は達成した。今後は、参加者の意見等を踏まえて、より受講しやすい内容となるよう検討を進める。</p>              |               |               |               |               |               |               |               |               |  |

| ④電子申請システム利用件数 | 基準値  | R 1     | R 2     | R 3     | R 4     | R 5     | R 6     | 目標値     |
|---------------|--|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|               | R 1  | (2019)  | (2020)  | (2021)  | (2022)  | (2023)  | (2024)  | R 7     |
|               | (2019)   | (2020)  | (2021)  | (2022)  | (2023)  | (2024)  | (2025)  |         |
|               | 目安値  | 112,187 | 130,000 | 150,000 | 170,000 | 180,000 | 190,000 | 200,000 |
| 出典：栃木県経営管理部集計 | 実績値  | (件)     | 146,247 | 205,535 |         |         |         |         |
|               | 達成見込   |         | A       | A       |         |         |         |         |
| 要因分析等         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全庁への働きかけなどによるオンライン化の推進により、電子申請提供手続数が増加したことなどから、利用件数が増加した。</li> <li>・なお、実績値が目安値を大幅に上回った要因は、5年に1度の「小学生のスポーツ活動に関する調査（約43,000件）」によるものである。</li> </ul> |         |         |         |         |         |         |         |



☆は、とちぎ創生15戦略（第2期）においてKPIとして位置付けられている指標

※達成見込 A：達成見込が80%以上 B：達成見込が50%以上～80%未満 C：達成見込が50%未満 —：実績がない等のため評価ができないもの

#### 4 主な取組成果

- ①市町における未来技術導入促進に向け、アバターロボットを活用した遠隔授業による学校教育の支援等を行った。
- ・栃木県未来技術活用促進事業実績：2件
- ②デジタルを活用して地域課題解決につなげる仕組みである「とちぎデジタルハブ」をR3年10月に開設した。
- ・「とちぎデジタルハブ」：サイトメンバー数167人、課題投稿数：13件、プロジェクト数7件、実証実験着手数3件
- ③DX研修や、デジタル活用人材育成事業を実施し、県及び市町職員の意識変革を進めるとともに、デジタルマーケティングに関する基礎的知識等を身につけることができた。
- ・DX研修県職員受講者数 133名、市町受講者数 69名
  - ・デジタル活用人材育成事業 研修受講者数 81名
- ④デジタル戦略課にデジタルマーケティングアドバイザーを配置し、関連事業に対し助言・相談対応を実施した結果、動画広告による再生回数の増や、サイト新規訪問者数の増など一定の成果が得られた。
- ・デジタルマーケティングアドバイザー配置実績：2名
  - ・助言・相談対応事業化実績：21事業
- ⑤電子申請提供手続については、全庁への働きかけなどによるオンライン化を推進した。
- ・電子申請提供手続数：R2 44手続→R3 121手続
- ⑥RPA<sup>※1</sup>、AI-OCR<sup>※2</sup>の導入拡大を図り、定型業務の効率化を推進した。
- ※1 RPA：PC上で行う業務のオートメーション化 ※2 AI-OCR：画像データ内の文字をAIが認識し、文字データ化する
- ・RPA利用業務数：R2 11業務→R3 19業務
  - ・AI-OCR利用所属数：R2 26所属→R3 34所属
- ⑦テレワーク用パソコンについて、R2年12月から運用中の100台に、R3年7月から200台を追加し、合計300台を、出先機関を中心に配備した。
- ⑧「栃木県ABCプロジェクト」として、自動運転バスを県内路線においてR7に本格運行させることを目指し、産学官による栃木県無人自動運転移動サービス推進協議会で導入に向けた検討を行うとともに、R2年度に策定した全体計画に基づき実証実験を実施した。
- ・R3県内公共交通への自動運転システムの導入に向けた協議会の開催：3回
  - ・R3実証実験：3か所（茂木町・小山市・壬生町）

## 5 課題と今後の取組の方向性

| 重点的取組                      | 取組の見直しを行うべき課題・新たに立案すべき課題   |
|----------------------------|--|
| 1 未来技術の積極的な活用に向けた環境づくり     | <p>&lt;5G等の情報インフラ環境の整備促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Society5.0の基盤となる5G等の通信インフラが、早期に整備される必要がある。</li> </ul>   |
| 2 地域の課題解決に向けた未来技術の活用に対する支援 | <p>&lt;地域課題を未来技術で解決するための仕組みの強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民、企業、大学、県、市町等が協働して問題の解決に取り組む仕組みである「とちぎデジタルハブ」の課題投稿数やプロジェクト数を増やすことが必要である。</li> </ul>  |
| 3 デジタル人材の確保・育成             | <p>&lt;DXの推進に向けた職員研修の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県のDXを推進するため、県・市町職員の意識変革に加え、具体的な取組につなげるためのノウハウを持った職員を育てる必要がある。</li> </ul>  |
| 4 デジタル・ガバメントの推進            | <p>&lt;公共工事に関する事務処理の効率化に向けたシステム整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、公共工事の執行状況や進行管理を行う部局が複数あり、全庁で3つのシステムが運用されているため、業務の効率やコスト削減等の観点から統合が課題となっている。加えて、様々なシステム改修を重ねてきたことから、機能が肥大化・複雑化し、必要な改修等が容易に行えなくなっており、その改善が求められている。</li> </ul> |